

ココマⅡ LIXIL 湿式腰壁タイプ オープンテラス 取付説明書

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味



警告

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。



注意

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号



ポイント

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。

※

- 取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。



補足

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

<電気配線工事について>



警告

- 接地工事は、電気設備の技術基準にしたがって、確実にこなしてください。
- 垂木LED照明には、専用のACアダプターまたはトランス電源ユニットと電源ケーブルが必要です。
垂木LED照明は、AC100Vと直接接続しないでください。
- 電線の接続は有資格者が行ってください。

<施工の前に>

⚠ 注意

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 本製品は、地上階設置用です。2階以上には設置しないでください。
- 屋根材へ接触する部品へシリコンシーリング材を使用する場合は、ポリカーボネート板のひび割れ等のおそれがありますので、当社指定の脱アルコール系シーリング材を現場で手配してください。
- 母屋の屋根から雪が直接落ちない場所に設置してください。落雪により、製品が破損するおそれがあります。
- 屋根材は、弊社指定品を使用してください。指定品以外を使用した場合、強風による屋根材の飛散や強度低下の原因になります。
- 寒冷地では凍結破損を防ぐため、堅樋に排水路ヒーター等を取付けるか、排水位置を高い位置に変更してください。
- 入隅の場合は、「φ4.5×63丸木ネジ」を現場で手配してください。
- 本製品は躯体に設置してください。ただし躯体に設置せず独立して施工する場合は「施工補助部材」を使用してください。

シーリング材メーカー	品名および品番
信越化学工業(株)	シーラント72
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン(合)	トスシール380
東レ・ダウコーニング(株)	SE960

🔑 ポイント

- スプレー式シリコン系潤滑剤は部品箱に同梱のもの、または現場手配してください。またアルコール系シーリング材は、現場で手配してください。
- 必要に応じて、「呼びφ40排水パイプ」、「腰壁ブロック」、「柱固定用カイモノ」は現場で手配してください。
- 垂木LED照明を取付ける場合は、必要に応じて、「防水コンセント」、「連結コネクタ」、「PF管」を現場で手配してください。
- 垂木LED照明を取付ける際に電源スイッチが必要な場合は現場で手配してください。
- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
- ココマIIはタイプ(仕様)によって専用の手順が存在します。

本書では、タイプ(仕様)専用の手順を下記の記号で記載していますので施工を行なう前に必ず確認してください。

《記号の意味》

腰壁 {  : 前面腰壁
 : L字腰壁

地域 {  : 一般地域仕様
 : 積雪地域仕様

《手順内記載例》

例1:

腰壁	地域
	

※上記は、『前面腰壁』専用の施工手順を示しています。それ以外の「地域」については種類を問いません。

例2:

腰壁	地域
※全仕様で行なう作業です。	

※上記は、全仕様で施工が必要な場合に記載しています。

<施工上のご注意>

⚠ 注意

- アルミ製品が異種金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- 製品の改造は絶対にしないでください。
- 施工終了後は、ボルト、ネジなどにゆるみがないか確認してください。
- 製品の強度低下、またはケガの原因になりますので、ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を使い、下記の推奨締付けトルクで固定した後にゆるみがないか確認してください。
 - ・ $\phi 4$ ネジ： $2.5\text{N}\cdot\text{m} \pm 0.5\text{N}\cdot\text{m}$ ($25 \pm 5\text{kgf}\cdot\text{cm}$) ・ M6ボルト： $5.2\text{N}\cdot\text{m} \pm 0.5\text{N}\cdot\text{m}$ ($52 \pm 5\text{kgf}\cdot\text{cm}$)
 - ・ $\phi 5$ ネジ： $3.0\text{N}\cdot\text{m} \pm 0.5\text{N}\cdot\text{m}$ ($30 \pm 5\text{kgf}\cdot\text{cm}$) ・ M8ボルト： $12.5\text{N}\cdot\text{m} \pm 0.5\text{N}\cdot\text{m}$ ($125 \pm 5\text{kgf}\cdot\text{cm}$)

🔑 ポイント

- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。

<基礎工事についてのご注意>

⚠ 注意

- 基礎は弊社指定の寸法以上にしてください。強度低下の原因になります。
- 寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。強度低下の原因になります。
- モルタルやコンクリートの抽出液が、施工中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。
- 製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。
- 養生期間は十分にとり、その間に重い物をのせたり、振動を与えないでください。

🔑 ポイント

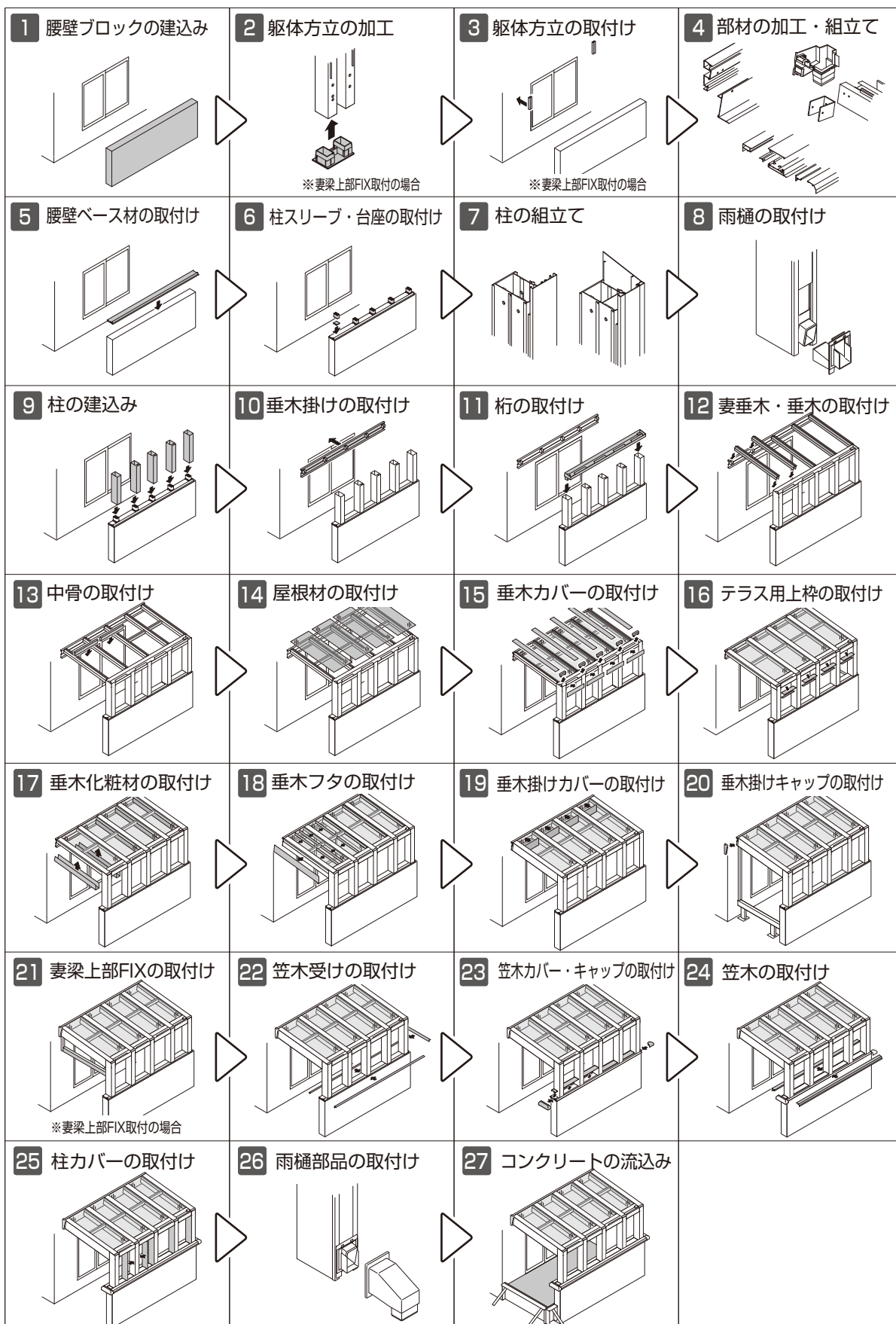
- コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。

INDEX

1	施工工程一覧	5	12	腰壁部のベースの施工	47
2	各部の名称	7	1	部材の加工	47
1	前面腰壁	7	2	腰壁ブロック水切り材の取付け	49
2	L字腰壁	8	3	腰壁ベース材の取付け	50
3	施工前の重要確認事項	9	13	フレーム部の施工	52
1	本製品の施工について	9	1	柱スリーブの取付け	52
4	梱包明細表	13	2	柱の組立て	53
5	基本寸法	24	3	雨樋の取付け	54
1	前面腰壁タイプ	24	4	柱の建込み	56
2	L字腰壁タイプ	26	5	入隅の場合	57
6	断面納まり図	28	6	垂木掛けの取付け	58
1	間口断面納まり図	28	7	桁の取付け	61
2	出幅断面納まり図	30	8	妻垂木・垂木の取付け	62
7	柱の位置出し	32	9	中骨の取付け	63
1	基本仕様	32	10	屋根材の取付け	64
2	連棟仕様	32	11	垂木カバーの取付け	65
8	施工前の準備	33	12	テラス用上枠の取付け	70
1	水盛遣方・水糸張り	33	13	垂木化粧材の取付け	71
2	配線工事 オプション	34	14	垂木フタの取付け	76
9	腰壁ブロックの建込み	36	15	垂木掛けカバーの取付け	77
1	腰壁ブロックと床仕上面の関係	36	16	垂木掛けキャップの取付け	78
2	前面腰壁の場合	37	17	妻梁上部FIXの取付け	79
3	L字腰壁の場合	38	14	腰壁部の取付け	84
4	入隅腰壁の場合	39	1	前面腰壁の場合	84
10	位置決め施工	40	2	L字腰壁の場合	88
1	躯体方立の取付け	40	3	柱カバーの取付け	94
11	部材の組立て	43	4	雨樋受け部品の取付け	95
1	垂木掛けの組立て	43	5	雪下ろし指示シールの貼付け	96
2	桁の組立て	45	6	コンクリートの流し込み	96
			7	腰壁ブロックの表面仕上げ	96

1 施工工程一覧

前面腰壁タイプ



L字腰壁タイプ

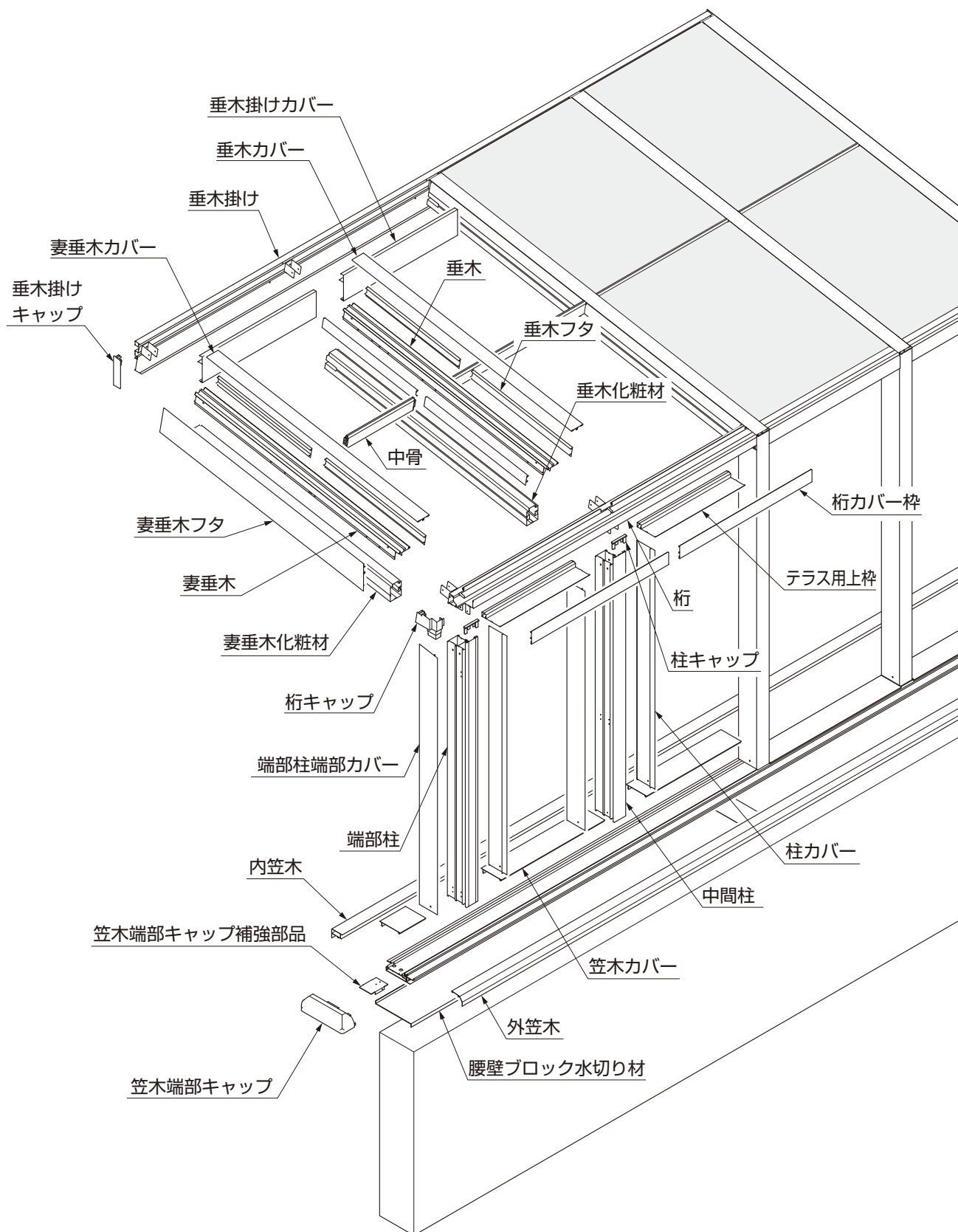


1 腰壁ブロックの建込み 	2 躯体方立の加工、見切り材の取付け ※妻梁上部FIX取付の場合 	3 躯体方立の取付け ※妻梁上部FIX取付の場合 	4 部材の加工・組立て
5 腰壁ベース材の取付け 	6 柱スリーブ・台座の取付け 	7 柱の組立て 	8 雨樋の取付け
9 柱の建込み 	10 垂木掛けの取付け 	11 桁の取付け 	12 妻垂木・垂木の取付け
13 中骨の取付け 	14 屋根材の取付け 	15 垂木カバーの取付け 	16 テラス用上枠の取付け
17 垂木化粧材の取付け 	18 垂木フタの取付け 	19 垂木掛けカバーの取付け 	20 垂木掛けキャップの取付け
21 妻梁上部FIXの取付け ※妻梁上部FIX取付の場合 	22 笠木受けの取付け 	23 笠木カバー・キャップの取付け 	24 笠木の取付け
25 柱カバーの取付け 	26 雨樋部品の取付け 	27 コンクリートの流込み 	



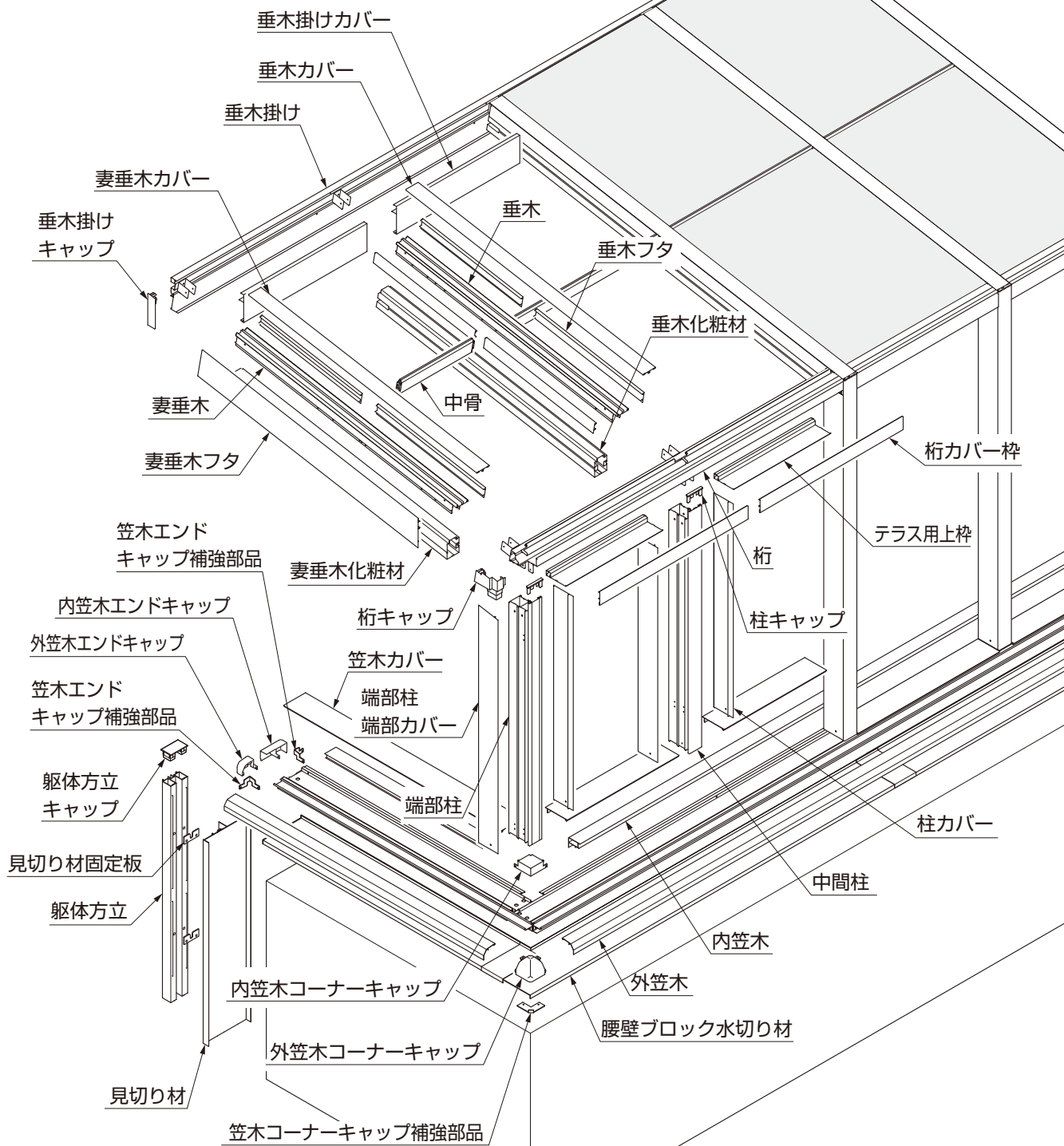
2 各部の名称

1. 前面腰壁



2. L字腰壁

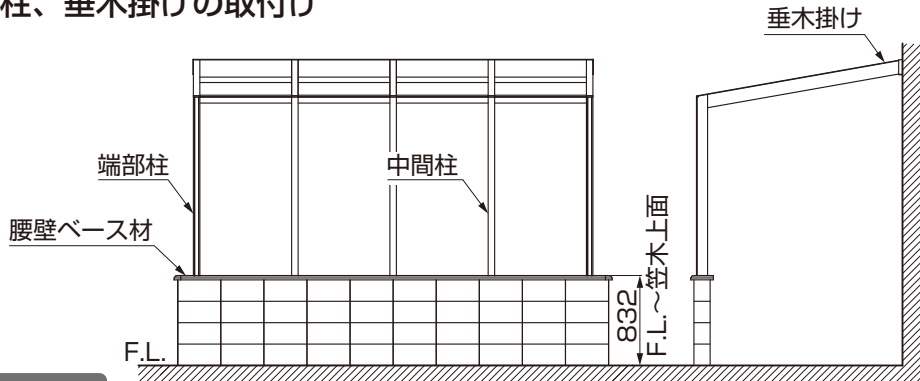
各部の名称



3 施工前の重要確認事項

1. 本製品の施工について ※施工時には下記の事項を厳守してください。

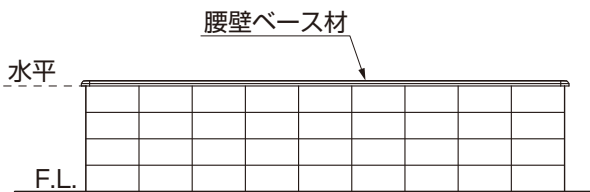
1-1 柱、垂木掛けの取付け



ポイント

- 「5 基本寸法」を参照して柱、垂木掛け等の位置出しを行なってください。
- 連棟の場合は、腰壁ブロックのはね出し寸法は左右で異なります。

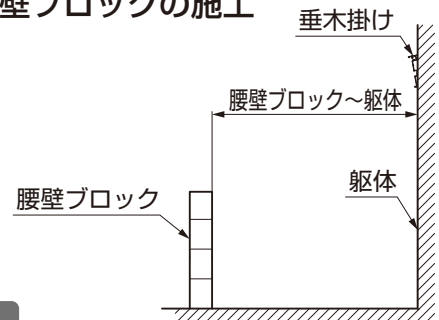
1-2 腰壁ベース材の取付け



ポイント

- 腰壁ベース材は水平になるように取付けてください。

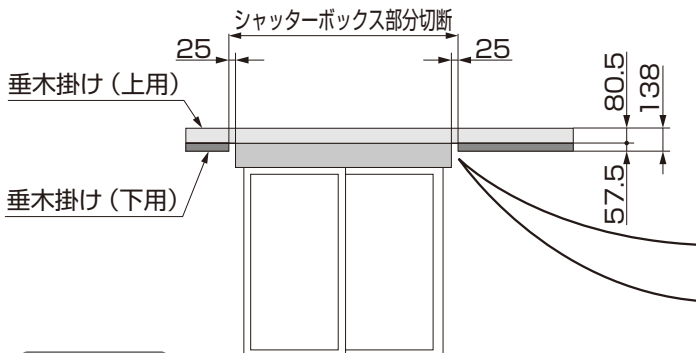
1-3 腰壁ブロックの施工



ポイント

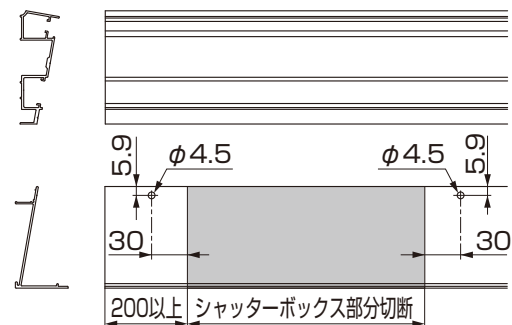
- 腰壁ブロックを施工する場合は「9 腰壁ブロックの建込み」を参照して柱、垂木掛け等の位置を確認してください。躯体（垂木掛け取付け面）との距離に注意して施工してください。
- ※腰壁ブロックから躯体までの距離が±5mm程度なら位置調整が可能です。

1-4 垂木掛けの分割利用について ※垂木掛け打付け面の障害物（シャッターボックスなど）を避けて設置する方法です。



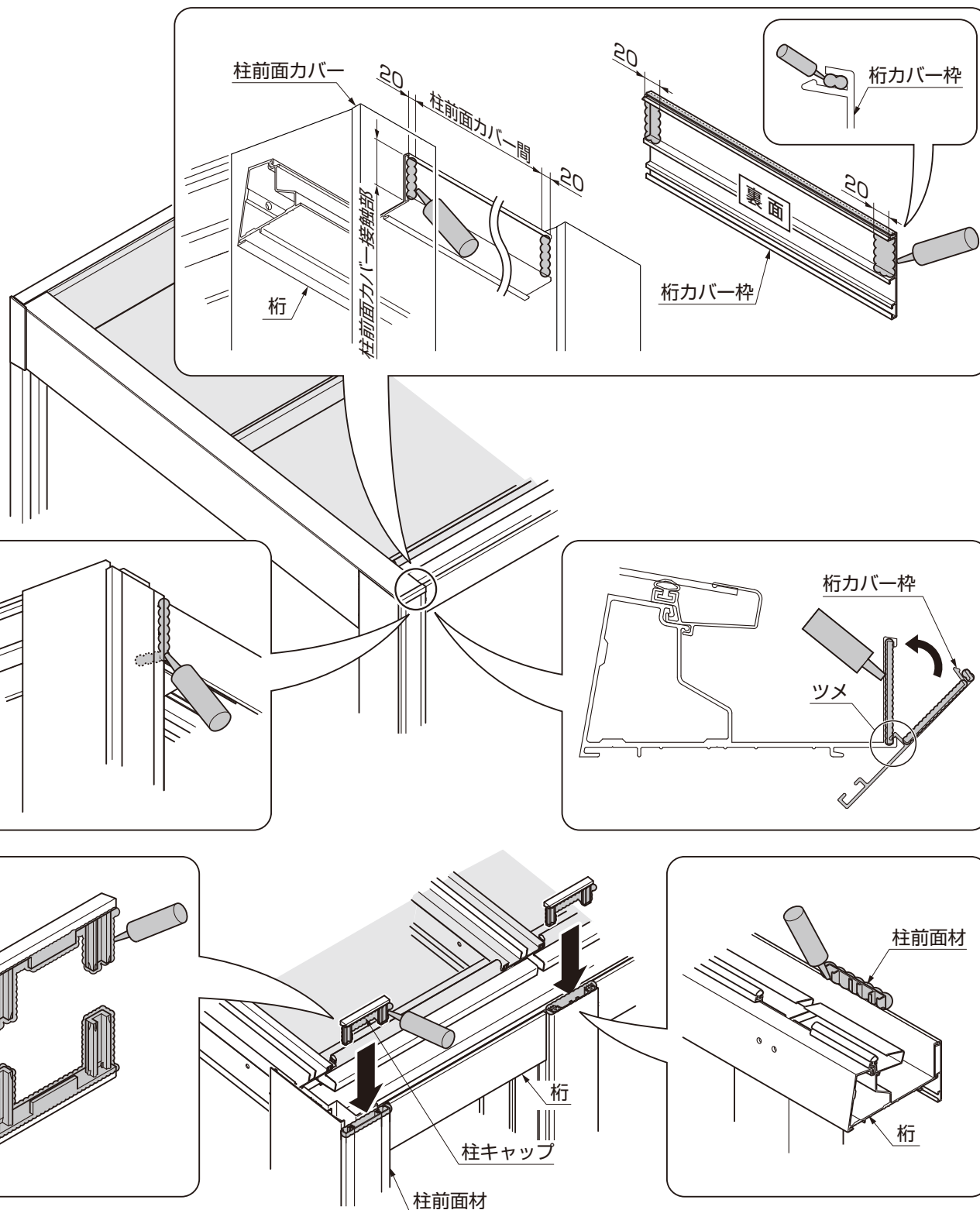
ポイント

- 垂木掛けを取付ける箇所にシャッターボックス等の障害物がある場合は、障害物部分の垂木掛け（下用）は取付け不要です。ただし、両端部には最低200mmの垂木掛け（下用）が必要です。



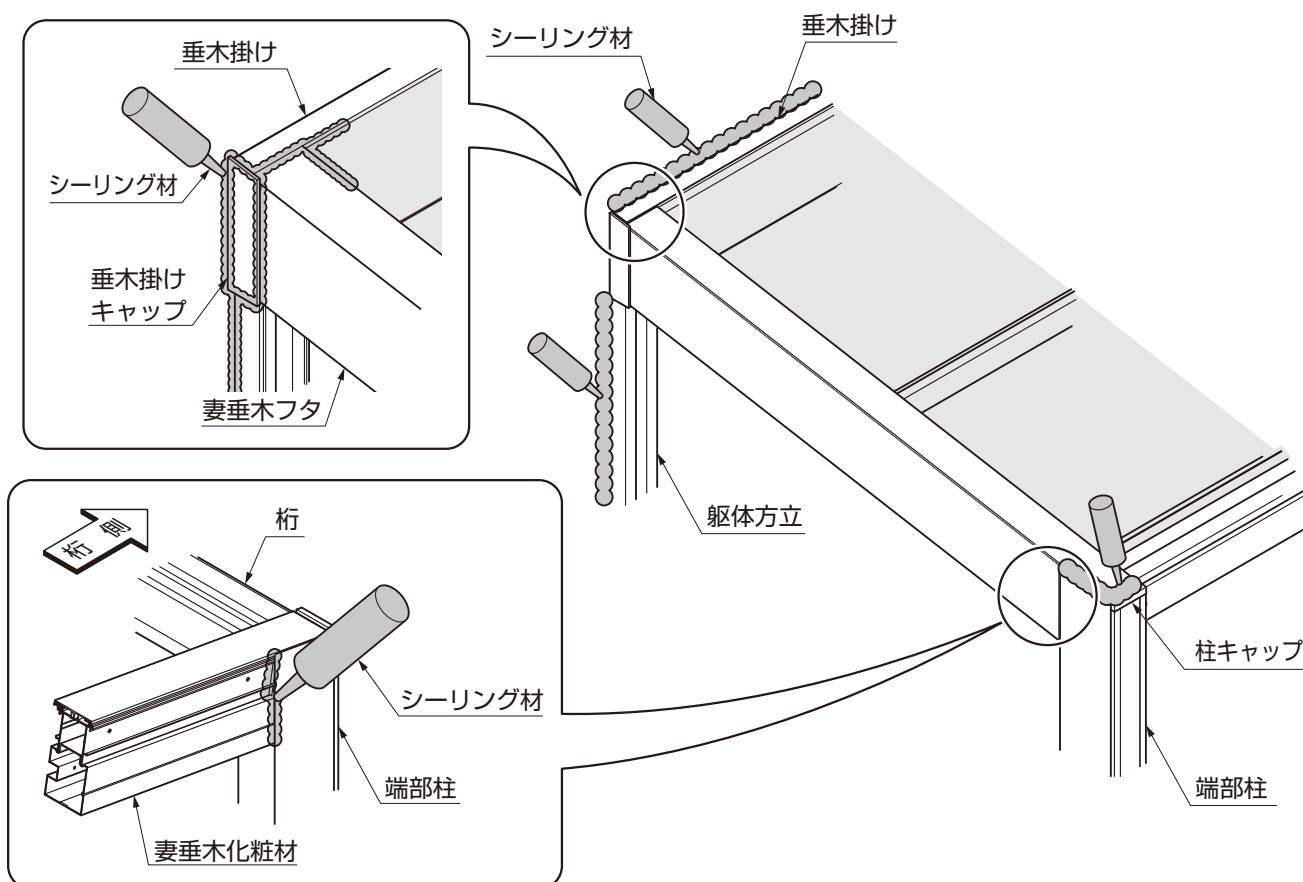
1. (つづき)

1-5 シーリング処理



ポイント

- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。雨漏りの原因になります。
- 指定以外の箇所には、シーリングをしないでください。室内側へ雨水を誘引する原因になります。



ポイント

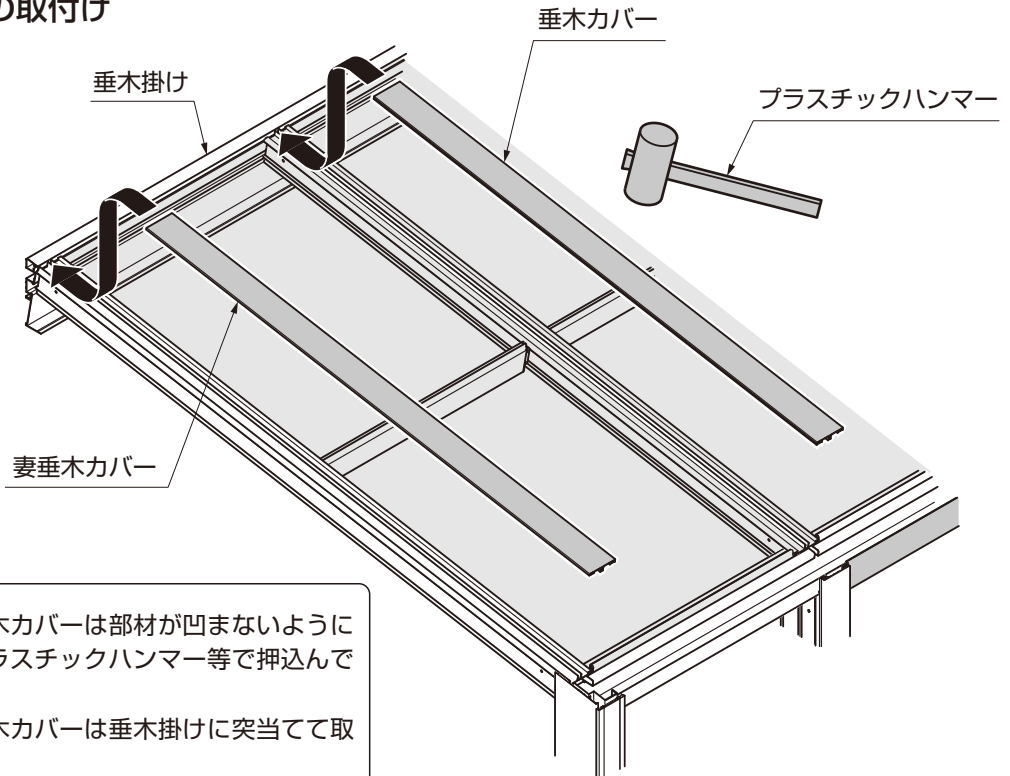
- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。雨漏りの原因になります。
- 指定以外の箇所には、シーリングをしないでください。室内側へ雨水を誘引する原因になります。

1-6 その他のシーリング箇所

ページ	タイトル	シーリング箇所
P.40	1-2 妻梁上部FIXを取付ける場合の躯体方立の取付け	φ5躯体穴、外壁と躯体方立
P.42	1-3 L字腰壁の場合の躯体方立の取付け	外壁と躯体方立、見切り材
P.45	2.桁の組立て	桁キャップ端部
P.46	2-2 連棟の場合 (2)桁の連結	連結用桁キャップ
P.51	2.腰壁ベース材の取付け	腰壁ベース材固定ナット部、腰壁ベース材連結部、腰壁ベース材入隅部
P.52	1.柱スリーブの取付け	腰壁ベース材・腰壁ベース材すき間塞ぎ材A部
P.57	5.入隅の場合	外壁と端部柱
P.58	6-1 垂木掛けの取付け	φ5躯体穴、垂木掛け・躯体接触部、パネル飲み込み部
P.60	6-2 連棟、垂木LED照明、入隅の場合 (1)連棟の場合	垂木掛け連結部
P.61	7.桁の取付け	桁キャップの縁
P.69	(3)垂木カバーのシーリング	垂木カバーと垂木掛け、躯体の接触部
P.83	17-4 シーリング処理	妻梁上部FIX部
P.84	1-1 笠木受けの取付け	腰壁ベース材
P.86	1-3 笠木端部キャップの取付け	腰壁ベース材・腰壁間
P.88	2.L字腰壁の場合、2-1 笠木受けの取付け	腰壁ベース材・躯体方立及び端部柱間
P.88	2-1 笠木受けの取付け	腰壁ベース材
P.90	2.L字腰壁の場合、2-2 笠木カバーとキャップ類の取付け	腰壁ベース材・腰壁間

1. (つづき)

1-7 垂木カバーの取付け



ポイント

- 垂木カバー、妻垂木カバーは部材が凹まないように注意しながら、プラスチックハンマー等で押込んでください。
- 垂木カバー、妻垂木カバーは垂木掛けに突当てて取付けてください。

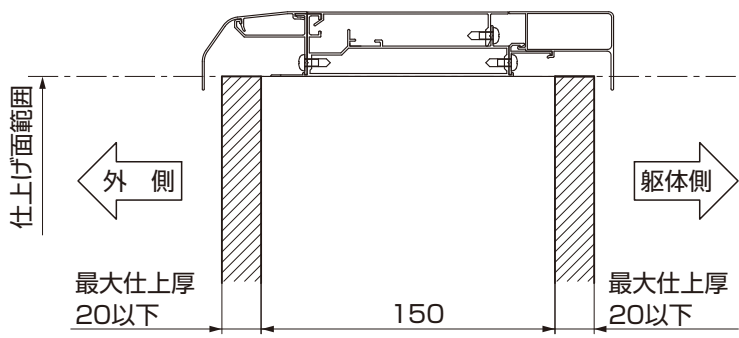
1-8 オプションを取付ける場合

ポイント

- ココマⅡ本体と合わせてオプション品を取付ける場合、本体のカバー材などを取付ける前にオプション品を取付けた方が良い場合があります。本取付説明書において、オプション品取付けに影響するページを右表に挙げていますので、該当するオプションの取付説明書も併せて確認し、取付けてください。

対象オプション	本取付説明書内に影響する手順	
	ページ	手 順
E377 ロールスクリーン	P.76	14. 垂木フタの取付け
E376 ローマンシェード		
E269 内部日除け	P.77	15. 垂木掛けカバーの取付け
E389 前面スクリーン	P.94	3. 柱カバーの取付け
E378 カウンターテーブル	P.96	7. 腰壁ブロックの表面仕上げ

1-9 腰壁ブロックの表面仕上げ ※本体施工完了後でも仕上げ可能です。



ポイント

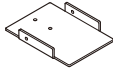
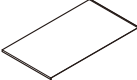
- 腰壁ブロック自体の防水のため、必ずタイルまたは塗りにて仕上げをしてください。
- 仕上げ面範囲より上に仕上げした場合、腰壁ブロック天面からの排水が阻害され、水が溜まるおそれがありますので、仕上げは範囲内で行なってください。
- 表面仕上げについては「湿式腰壁ブロック施工のポイント〈E421〉」も併せて参照ください。

4 梱包明細表

【1】 部品箱セット（湿式腰壁-オープンテラスタイプ用）

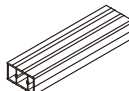
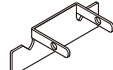
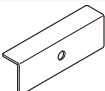
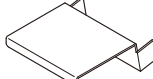
名 称	略 図	員 数				
		1.0間	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
端部柱スリーブ		2	2	2	2	2
中間柱スリーブ		1	2	3	4	5
接着剤		1	1	1	1	1
桁キャップ右		1	1	1	1	1
桁キャップ左		1	1	1	1	1
垂木掛けキャップ右		1	1	1	1	1
垂木掛けキャップ左		1	1	1	1	1
垂木掛け下用キャップ		左右 各1	左右 各1	左右 各1	左右 各1	左右 各1
垂木取付金具		6	8	10	12	14
柱キャップ		3	4	5	6	7
柱取付金具		4	6	8	10	12
スペーサー（1mm）		5	10	15	20	25
腰壁ベース材隙間ふさぎ材A		4	4	4	4	4

【1】 部品箱セット（湿式腰壁-オープンテラスタイプ用） つづき

名 称	略 図	員 数				
		1.0間	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
笠木端部キャップ補強部品		2	2	2	2	2
水切り材連結テープ（※）		2	2	2	3	3
ココマⅡ取扱説明書<UE091>	—	1	1	1	1	1
シーリング箇所一覧（湿式腰壁）説明書<E392>	—	1	1	1	1	1
ココマⅡ 湿式腰壁タイプ オープンテラス 取付説明書<E417>	—	1	1	1	1	1
ココマⅡ 湿式腰壁ブロック施工のポイント<E421>	—	1	1	1	1	1
【1-1】 φ4×13ナベドリルネジ D=8.2		105	146	186	225	264
【1-2】 φ4×12トラスタッピンネジ1種 D=8		2	2	2	2	2
【1-3】 φ6×70六角コーチスクリュー		19	21	23	25	27
【1-4】 φ5×8トラスタッピンネジ3種		2	2	2	2	2
【1-5】 φ4×12トラスタッピンネジ3種 D=8		17	21	26	30	34
【1-6】 φ5×12トラスタッピンネジ3種 D=10		28	41	55	67	80
【1-7】 φ4×12トラスタッピンネジ2種 D=8 座金組込PW+樹脂パッキン		59	79	99	118	138
【1-8】 M6平座金		20	23	25	27	29
【1-9】 φ4×75ナベタッピンネジ1種 D=7		6	8	10	12	14
【1-10】 M8×50打ち込みアンカー（M8用座付ナット付き）		6	8	10	12	15

※連結部の連結部にも使用のため、単体時の必要数より1枚多い員数になっています。

【1】 部品箱セット（3000用 積雪タイプ-オープンテラスタイプ用）

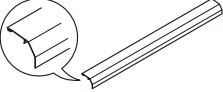
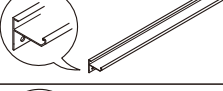
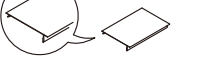
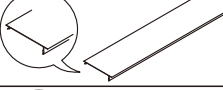
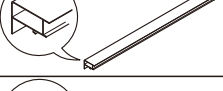
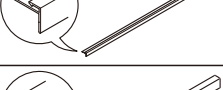
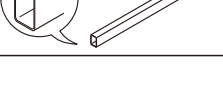
名 称	略 図	員 数				
		1.0間	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
端部柱スリーブ		2	2	2	2	2
中間柱スリーブ		1	2	3	4	5
サブ垂木化粧材端部キャップ		2	3	4	5	6
垂木カバー端部キャップ		2	3	4	5	6
垂木取付金具		4	6	8	10	12
垂木掛けカバー（サブ垂木化粧材下）		2	3	4	5	6
【1-1】 φ4×13ナベドリルネジ D=8.2		52	78	104	132	158
【1-5】 φ4×12トラスタッピンネジ3種 D=8		14	22	29	38	45
【1-6】 φ5×12トラスタッピンネジ3種 D=10		8	13	17	22	26
【1-7】 φ4×12トラスタッピンネジ2種 D=8 座金組込PW+樹脂パッキン		33	49	66	82	99
【1-11】 φ4×8トラスタッピンネジ3種 D=8		2	3	4	5	6
【1-12】 φ5×75ナベタッピンネジ1種		5	7	9	11	13

【1】 部品箱セット (L字湿式腰壁タイプ用)

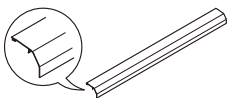
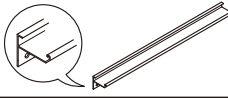
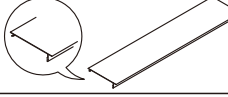
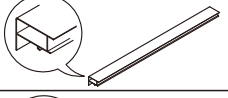
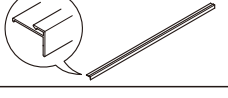
名 称	略 図	員 数			
		4尺	6尺	8尺	10尺
見切り材固定板		2	2	2	2
内面ふさぎ材A		1	1	1	1
躯体方立キャップ		1	1	1	1
笠木コーナーキャップ補強部品		1	1	1	1
笠木エンドキャップ補強部品		2	2	2	2
水切り材連結テープ		2	2	2	3
バックアップ材		1	1	1	1
【1-1】 φ4×13ナベドリルネジ D=8.2 〔※〕		39 (3)	51 (3)	55 (3)	66 (3)
【1-5】 φ4×12トラスタッピンネジ3種D=8		3	3	3	3
【1-10】 M8×50打ち込みアンカー (M8用座付ナット付き)		3	5	6	8
【1-14】 M6×35六角ボルト 並		2	2	2	2
【1-15】 M6六角ナット2種上		4	4	4	4

※ () 内本数については、シャイングレー：生地色、アイボリーホワイト：ホワイト色

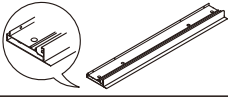
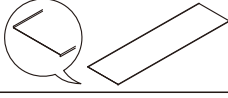
【2】 前面笠木セット (湿式腰壁-オープンテラスタイプ用)

名 称	略 図	員 数				
		1.0間	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
外笠木		1	1	1	1	1
外笠木受け		1	1	1	1	1
笠木カバー (端部用)		2	2	2	2	2
笠木カバー		2	3	4	5	6
内笠木		1	1	1	1	1
内笠木受け		1	1	1	1	1
角樋		1	1	1	1	1

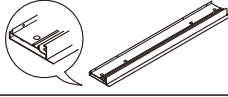
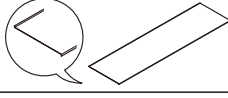
【3】 前面笠木セット（湿式腰壁-屋根なし腰壁タイプ用）

名 称	略 図	員 数
外笠木		1
外笠木受け		1
笠木カバー		1
内笠木		1
内笠木受け		1

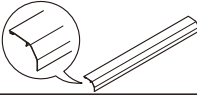
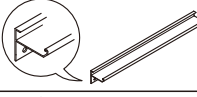
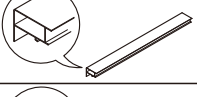
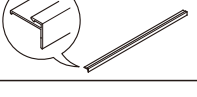
【4】 前面ベース材セット（湿式腰壁-オープンテラスタイプ用）

名 称	略 図	員 数				
		1.0間	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
腰壁ベース材		1	1	1	1	1
腰壁ブロック水切り材		2	2	2	3	3

【5】 前面ベース材セット（湿式腰壁-屋根なし腰壁タイプ用）

名 称	略 図	員 数
		1.0間延長
腰壁ベース材		1
腰壁ブロック水切り材		2

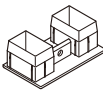
【6】 側面笠木セット（サイドスルータイプ・オープンテラスタイプ用）

名 称	略 図	員 数			
		4尺	6尺	8尺	10尺
外笠木		1	1	1	1
外笠木受け		1	1	1	1
笠木カバー		1	1	1	1
内笠木		1	1	1	1
内笠木受け		1	1	1	1

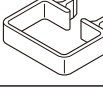
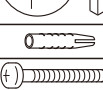
【7】側面ベース材セット（湿式腰壁・サイドスルータイプ・オープンテラスタイプ用）
（右用または左用）

名 称	略 図	員 数			
		4R	6R	8R	10R
腰壁ベース材		1	1	1	1
腰壁ブロック水切り材		1	1	1	2

【8】躯体方立セット

名 称	略 図	員 数
躯体方立		1
躯体方立キャップ		1
【8-1】φ4×12トラスタッピンネジ3種D=8		1

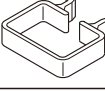
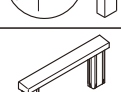
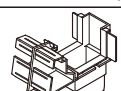
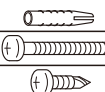
【9】端部柱セット（オープンテラス腰壁 標準・ロング）（右用または左用）

名 称	略 図	員 数
端部柱		1
端部柱端部カバー		1
サドル		1
サドル受け		2
雨樋受け取付部品		1
雨樋受け部品（下排水用）		1
角横エルボ		1
角エルボ		1
角樋		1
【9-1】30 フィッシャープラグ S6		1
【9-2】φ4×60ナベタッピンネジ1種		1

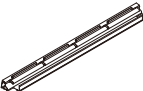
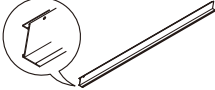
【10】中間柱セット（オープンテラス腰壁 標準・ロング）

名 称	略 図	員 数	
		1本入	3本入
中間柱		1	3

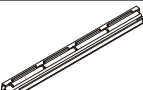
【11】連棟柱セット（腰壁-オープンテラスタイプ（標準・ロング）用）

名 称	略 図	員 数
連棟柱		1
端部柱スリーブ		1
サドル		1
サドル受け		2
雨樋受け取付部品		1
雨樋受け部品（下排水用）		1
角横エルボ		1
角エルボ		1
角樋		1
柱キャップ		1
柱取付金具		2
連結用桁キャップ		1
【11-1】30 フィッシャープラグ S6		1
【11-2】φ4×60ナベタッピンネジ1種 D=7		1
【11-3】φ4×13ナベドリルネジ D=8.2		10
【11-4】φ4×75ナベタッピンネジ1種 D=7		2
【11-5】φ5×12トラスタッピンネジ3種		6
【11-6】φ5×8トラスタッピンネジ3種		2

【12】 桁垂木掛けセット (600・1500タイプ)

名 称	略 図	員 数				
		1.0間	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
桁		1	1	1	1	1
垂木掛け (下用)		1	1	1	1	1
垂木掛け (上用)		1	1	1	1	1
ネジ隠しフタ		2	3	4	5	6
グレチャン		2	3	4	5	6

【13】 桁垂木掛けセット (3000タイプ)

名 称	略 図	員 数				
		1.0間	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
桁		1	1	1	1	1
垂木掛け (下用)		1	1	1	1	1
垂木掛け (上用)		1	1	1	1	1
ネジ隠しフタ		2	3	4	5	6
グレチャン		4	6	8	10	12

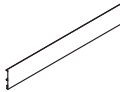
【14】 垂木掛けカバーセット

名 称	略 図	員 数	
		2本入	3本入
垂木掛けカバー		2	3

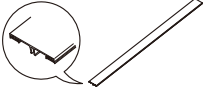
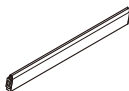
【15】 垂木掛けカバーセット (3000タイプ)

名 称	略 図	員 数	
		4本入	6本入
垂木掛けカバー		4	6

【16】 桁カバー枠セット

名 称	略 図	員 数
桁カバー枠		1

【17】妻垂木セット

名 称	略 図	員 数			
		4尺	6尺	8尺	10尺
妻垂木		左右各1	左右各1	左右各1	左右各1
妻垂木カバー		左右各1	左右各1	左右各1	左右各1
中骨		—	1	1	2
雪下ろし指示シール		1	1	1	1

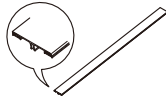
【18】垂木セット

名 称	略 図	員 数							
		1本入				3本入			
		4尺	6尺	8尺	10尺	4尺	6尺	8尺	10尺
垂木		1	1	1	1	3	3	3	3
垂木カバー		1	1	1	1	3	3	3	3
中骨		—	1	1	2	—	3	3	6

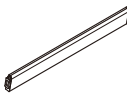
【19】サブ垂木セット

名 称	略 図	員 数		
		4尺	6尺	8尺
垂木		1	1	1
垂木カバー		1	1	1
サブ垂木化粧材		1	1	1
中骨		1	2	3
垂木フタ		4	6	8

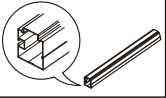
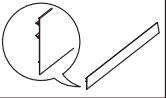
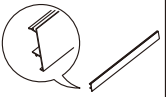
【20】 積雪用垂木セット (1500タイプ・3000タイプ)

名 称	略 図	員 数					
		1本入			3本入		
		4尺	6尺	8尺	4尺	6尺	8尺
垂木		1	1	1	3	3	3
垂木カバー		1	1	1	3	3	3
中骨		1	2	3	3	6	9

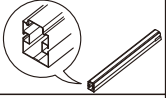
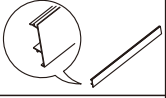
【21】 積雪用妻垂木セット (1500タイプ・3000タイプ)

名 称	略 図	員 数			名 称	略 図	員 数		
		4尺	6尺	8尺			4尺	6尺	8尺
妻垂木		左右各1	左右各1	左右各1	中骨		1	2	3
妻垂木カバー		左右各1	左右各1	左右各1	雪下ろし指示シール		1	1	1

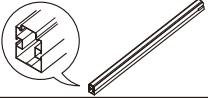
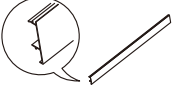
【22】 妻垂木化粧材セット

名 称	略 図	員 数						
		600タイプ				1500・3000タイプ		
		4尺	6尺	8尺	10尺	4尺	6尺	8尺
妻垂木化粧材		左右各1	左右各1	左右各1	左右各1	左右各1	左右各1	左右各1
妻垂木フタ		左右各1	左右各1	左右各1	左右各1	左右各1	左右各1	左右各1
垂木フタ		2	4	4	6	4	6	8

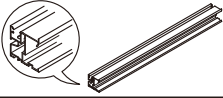
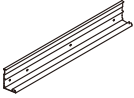
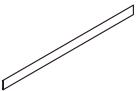
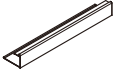
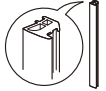
【23】 垂木化粧材セット (600タイプ)

名 称	略 図	員 数							
		1本入				3本入			
		4尺	6尺	8尺	10尺	4尺	6尺	8尺	10尺
垂木化粧材		1	1	1	1	3	3	3	3
垂木フタ		2	4	4	6	6	12	12	18
垂木化粧材キャップ		1	1	1	1	3	3	3	3

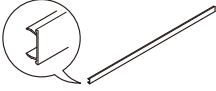
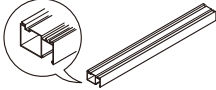
【24】垂木化粧材セット（1500タイプ・3000タイプ）

名 称	略 図	員 数					
		1本入			3本入		
		4尺	6尺	8尺	4尺	6尺	8尺
垂木化粧材		1	1	1	3	3	3
垂木フタ		4	6	8	12	18	24
垂木化粧材キャップ		1	1	1	3	3	3

【25】妻梁セット（右用または左用）

名 称	略 図	員 数			
		4尺	6尺	8尺	10尺
妻梁		1	1	1	1
妻梁上部FIX方立		—	—	—	1
妻梁上部FIX枠（躯体側）		1	1	1	1
妻梁上部FIX枠（桁側）		1	1	1	1
妻梁カバー		1	1	1	1
妻梁上部FIX方立カバー		—	—	—	1
妻梁上部FIX枠押縁（躯体側）		1	1	1	1
妻梁上部FIX枠押縁（桁側）		1	1	1	1
後付けビード材		1	1	1	2
妻梁取付金具		2	2	2	2
妻梁上部FIX取付金具		—	—	—	2
セッティングブロック（H10）		4	4	4	4
【25-1】φ5×12トラスタッピンネジ3種		8	8	8	8
【25-2】φ4×13ナベドリルネジ D=8.2		5	6	7	17

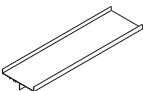
【26】 妻梁フタセット

名 称	略 図	員 数			
		4尺	6尺	8尺	10尺
ネジ隠しフタ		1	1	1	1
妻梁下フタ		1	1	1	1
【26-1】 φ4×16ナベドリルネジ D=8.2		5	6	7	8

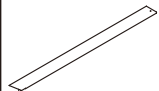
【27】 妻梁上部FIXパネル（右用または左用）

名 称	略 図	員 数
妻梁上部FIXパネル	 ※10尺用	1

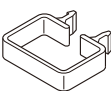
【28】 躯体見切り材セット（湿式腰壁タイプ用）

名 称	略 図	員 数
見切り材		1
見切り材カバー		1

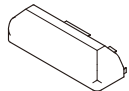
【29】 前面テラス縦枠セット（腰壁タイプ用）

名 称	略 図	員 数
柱カバー		2

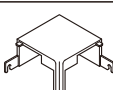
【30】 角樋セット

名 称	略 図	員 数
サドル		2
サドル受け		2
角エルボ		1
角樋		1

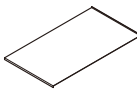
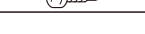
【31】 腰壁前面笠木キャップセット（右用または左用）

名 称	略 図	員 数
笠木端部キャップ		1

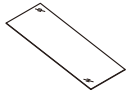
【32】 腰壁側面笠木キャップセット（右用または左用）

名 称	略 図	員 数
外笠木エンドキャップ		1
内笠木エンドキャップ		1
外笠木コーナーキャップ		1
内笠木コーナーキャップ		1

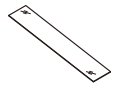
【33】 腰壁延長部品セット（横延長用）

名 称	略 図	員 数
間柱スリーブ		3
水切り材連結テープ		2
【33-1】 M8×50打ち込みアンカー（M8用座付ナット付き）		4
【33-2】 φ4×25ナベタッピンネジ2種 D=7 G=5		8
【33-3】 φ4×13ナベドリルネジ D=8.2		44
【33-4】 30 フィッシャープラグ S6		5
【33-5】 φ4×30ナベタッピンネジ1種		5
【33-6】 φ4×25サラドリルネジ D=8		39
【33-7】 φ4×75ナベタッピンネジ1種 D=7		6
【33-8】 φ4.1×63丸木ネジ		5
【33-9】 φ4×19ナベドリルネジ D=8.2		5

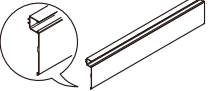
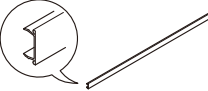
【34】屋根材セット

名 称	略 図	員 数	
		2枚入	3枚入
屋根材		2	3

【35】屋根材セット (3000)

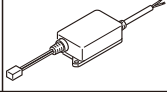
名 称	略 図	員 数	
		4枚入	6枚入
屋根材積雪用		4	6

【36】前面横枠 オープンテラス用

名 称	略 図	員 数
テラス用上枠		1
ネジ隠しフタ		1

【37】ACアダプターセット

オプション

名 称	略 図	員 数
ACアダプター		1

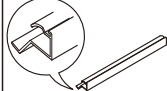
【38】ACアダプター固定部品セット

オプション

名 称	略 図	員 数
ACアダプター固定部品		1
【38-1】φ4×12トラス タッピンネジ3種 D=8		2

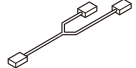
【39】妻垂木化粧材溝カバーセット

オプション

名 称	略 図	員 数
妻垂木化粧材溝カバー		1

【40】渡り配線セット

オプション

名 称	略 図	員 数
渡り配線ケーブル		1

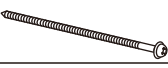
【41】LEDスクエアライトセット

オプション

名 称	略 図	員 数
LED照明		1

【42】トランス電源ユニット35W 屋外用

オプション

名 称	略 図	員 数
トランス電源ユニット35W (屋外用) 本体		1
【42-1】φ4×50十字穴付 フランジ付タッピンネジ		2 (※)
【42-2】フィッシャープラグ 呼び径30		2 (※)
【42-3】スペーサー		1 (※)
【42-4】結束バンド		2 (※)
取付説明書<Z546>	—	1
取扱説明書<UZ278>	—	1

※トランス電源ユニットのカバー内に同梱しています。

4

梱包明細表

5 基本寸法

1. 前面腰壁タイプ

1-1 単体仕様

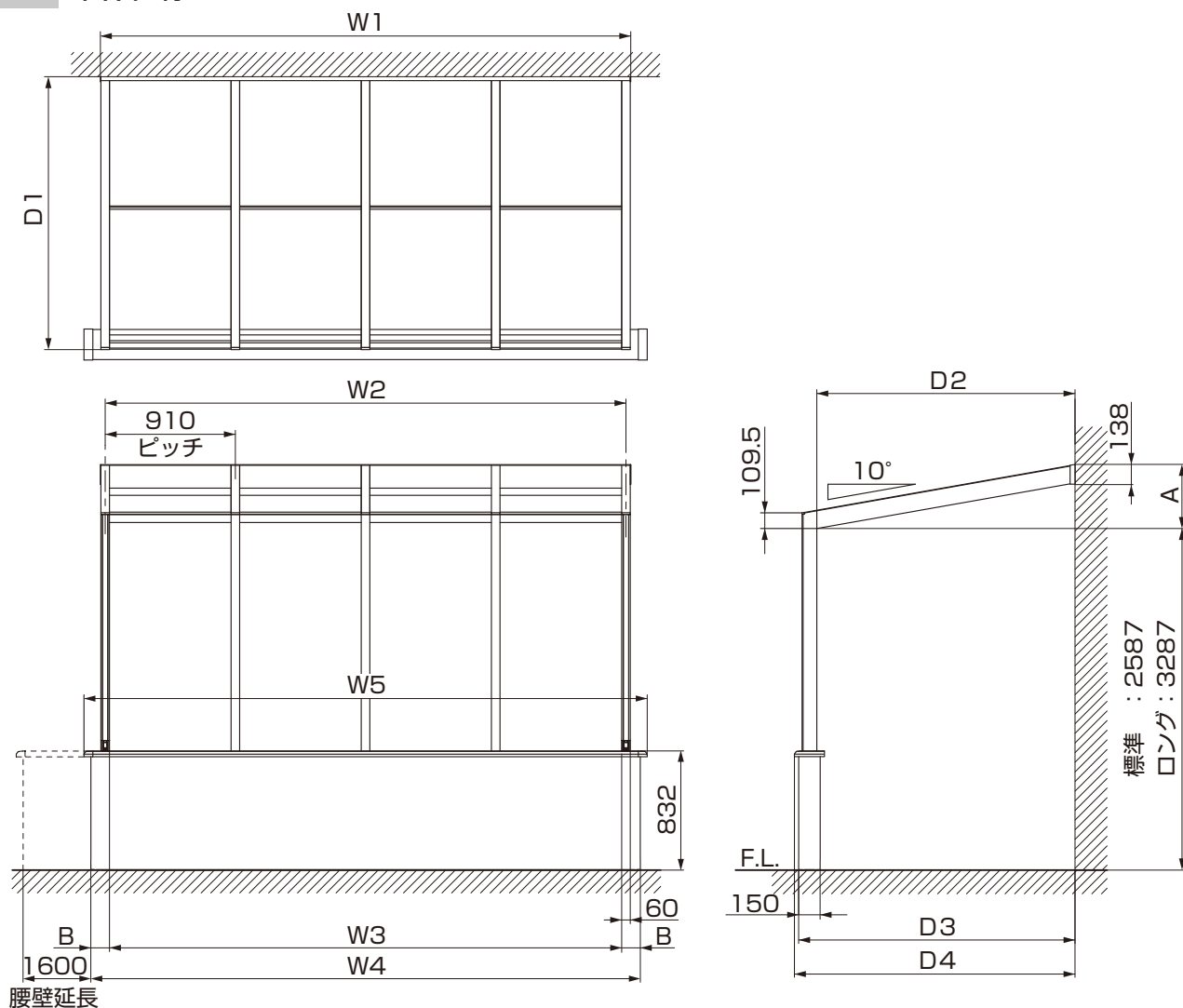


表1-1 間口寸法

間口	W1 垂木掛け外寸	W2 端部柱芯々	W3 端部柱内寸	W4 腰壁外寸 (※)	W5 笠木外寸	B 腰壁ブロック はね出し寸	屋根材 枚数
1.0間	1887	1820	1760	2400	2457	320	2
1.5間	2797	2730	2670	3200	3257	265	3
2.0間	3707	3640	3580	4000	4057	210	4
2.5間	4617	4550	4490	4800	4857	155	5
3.0間	5527	5460	5400	6000	6057	300	6

表1-2 出幅寸法

出幅	D1 躯体～柱外寸	D2 躯体～柱内寸	D3 躯体～腰壁外寸 (※)	D4 躯体～笠木外寸	A
4尺	1308	1205	1332	1362	342
6尺	1908	1805	1932	1962	448
8尺	2508	2405	2532	2562	554
10尺	3108	3005	3132	3162	659

※腰壁ブロック+目地仕上げ
の寸法です。

1-2 連棟仕様

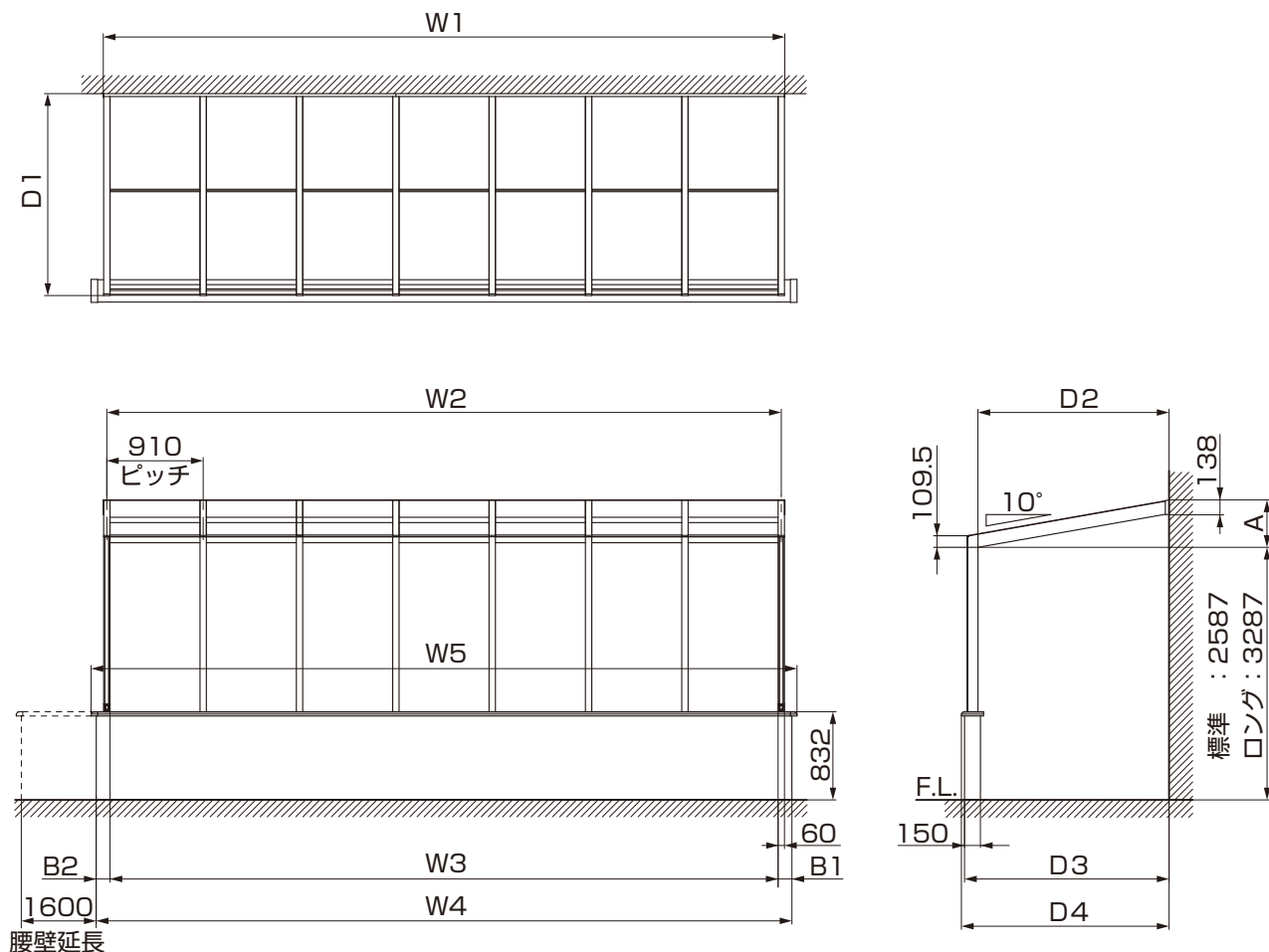


表1-3 間口寸法

間口	W1 垂木掛け外寸	W2 端部柱芯々	W3 端部柱内寸	W4 腰壁外寸 (※)	W5 笠木外寸	B1 腰壁ブロックはね出し寸 (基本側)	B2 腰壁ブロックはね出し寸 (連棟側)	屋根材 枚数
3.5間	6437	6370	6310	6600	6657	145	145	7
4.0間	7347	7280	7220	7600	7657	155	225	8
4.5間	8257	8190	8130	8600	8657	300	170	9
5.0間	9167	9100	9040	9400	9457	210	150	10
5.5間	10077	10010	9950	10400	10457	300	150	11
6.0間	10987	10920	10860	11400	11457	300	240	12

表1-4 出幅寸法

出幅	D1 躯体～柱外寸	D2 躯体～柱内寸	D3 躯体～腰壁外寸 (※)	D4 躯体～笠木外寸	A
4R	1308	1205	1332	1362	342
6R	1908	1805	1932	1962	448
8R	2508	2405	2532	2562	554
10R	3108	3005	3132	3162	659

※腰壁ブロック+目地仕上げ
の寸法です。

2. L字腰壁タイプ

2-1 単体仕様

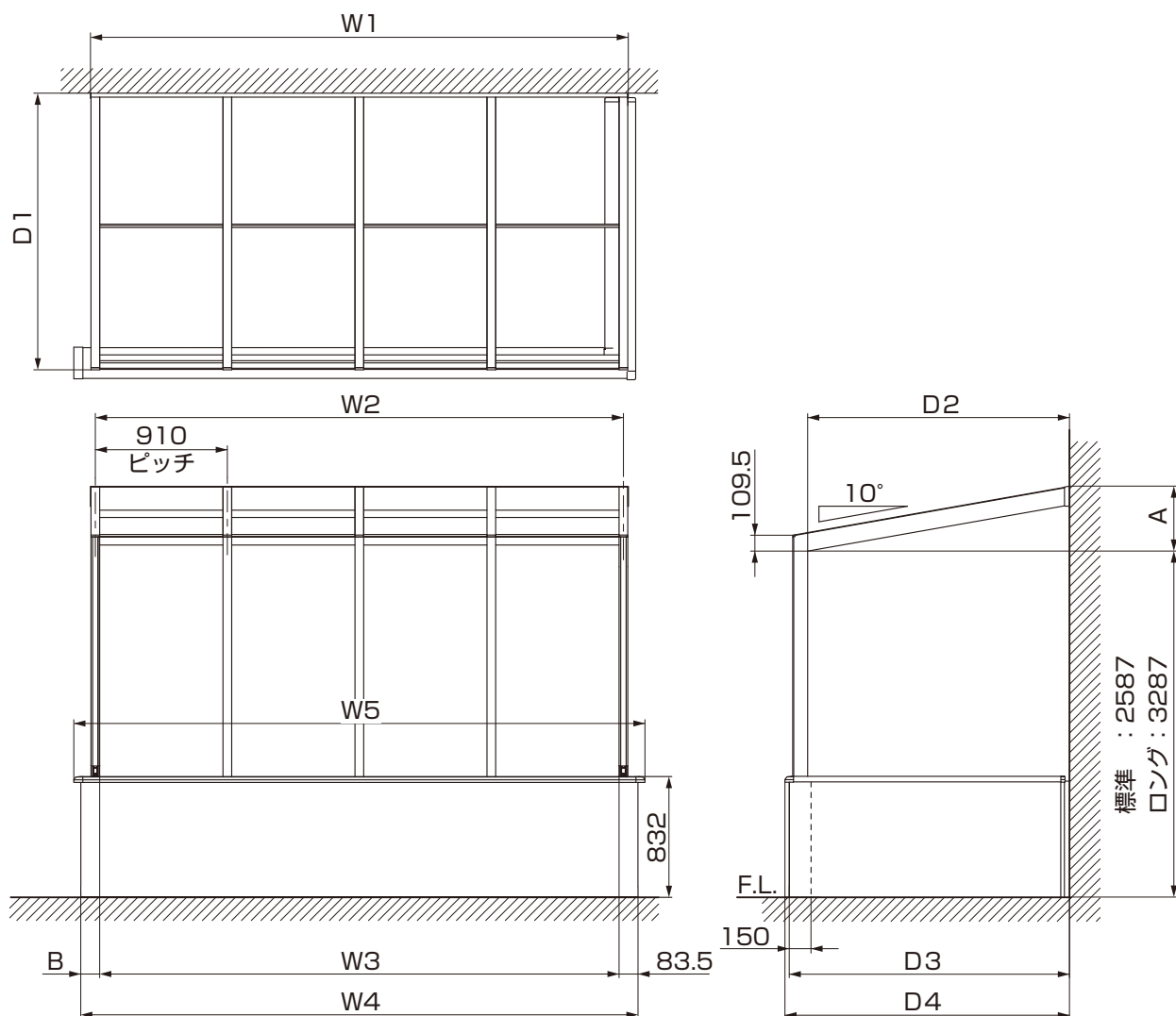


表2-1 間口寸法

間口	W1 垂木掛け外寸	W2 端部柱芯々	W3 端部柱内寸	W4 腰壁外寸 (※)	W5 笠木外寸	B 腰壁ブロック はね出し寸	正面部 パネル枚数	屋根材 枚数
1.0間	1887	1820	1760	2000	2059	156	2	
1.5間	2797	2730	2670	3000	3059	246	3	
2.0間	3707	3640	3580	3800	3859	136	4	
2.5間	4617	4550	4490	4700	4759	126	5	
3.0間	5527	5460	5400	5700	5759	216	6	

表2-2 出幅寸法

出幅	D1 躯体～柱外寸	D2 躯体～柱内寸	D3 躯体～腰壁外寸 (※)	D4 躯体～笠木外寸	A
4尺	1308	1205	1332	1362	342
6尺	1908	1805	1932	1962	448
8尺	2508	2405	2532	2562	554
10尺	3108	3005	3132	3162	659

※腰壁ブロック+目地仕上げ
の寸法です。

2-2 連棟仕様

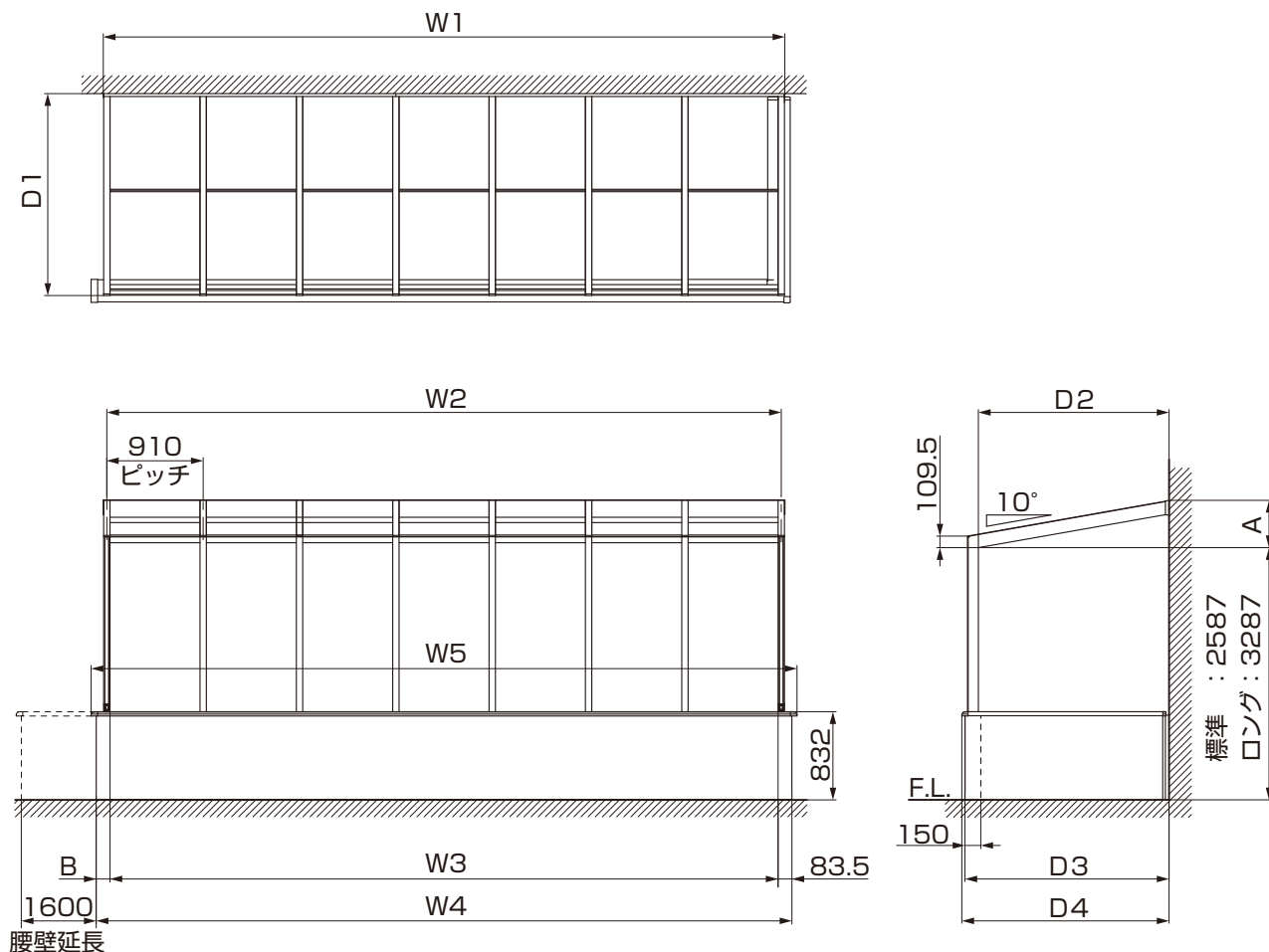


表2-3 間口寸法

間口	W1 垂木掛け外寸	W2 端部柱芯々	W3 端部柱内寸	W4 腰壁外寸 (※)	W5 笠木外寸	B 腰壁ブロック はね出し寸	屋根材枚数
3.5間	6437	6370	6310	6600	6659	206	7
4.0間	7347	7280	7220	7500	7559	196	8
4.5間	8257	8190	8130	8400	8459	186	9
5.0間	9167	9100	9040	9300	9359	176	10
5.5間	10077	10010	9950	10200	10259	166	11
6.0間	10987	10920	10860	11200	11259	256	12

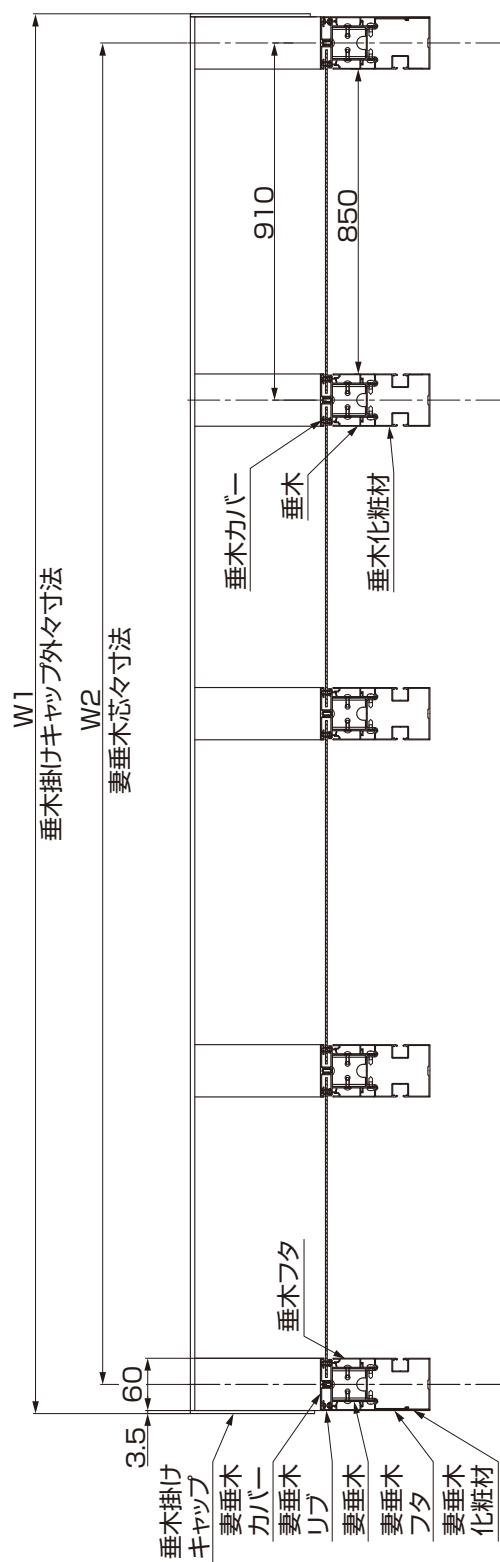
表2-4 出幅寸法

出幅	D1 躯体～柱外寸	D2 躯体～柱内寸	D3 躯体～腰壁外寸 (※)	D4 躯体～笠木外寸	A
4尺	1308	1205	1332	1362	342
6尺	1908	1805	1932	1962	448
8尺	2508	2405	2532	2562	554
10尺	3108	3005	3132	3162	659

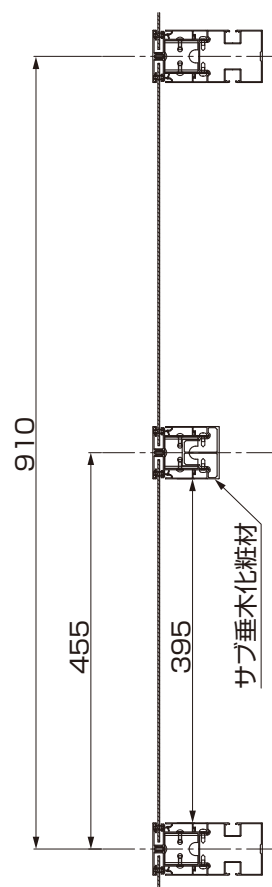
※腰壁ブロック+目地仕上げ
の寸法です。

6 断面納まり図

1. 間口断面納まり図



●積雪3000タイプの場合



●L字腰壁仕様の場合

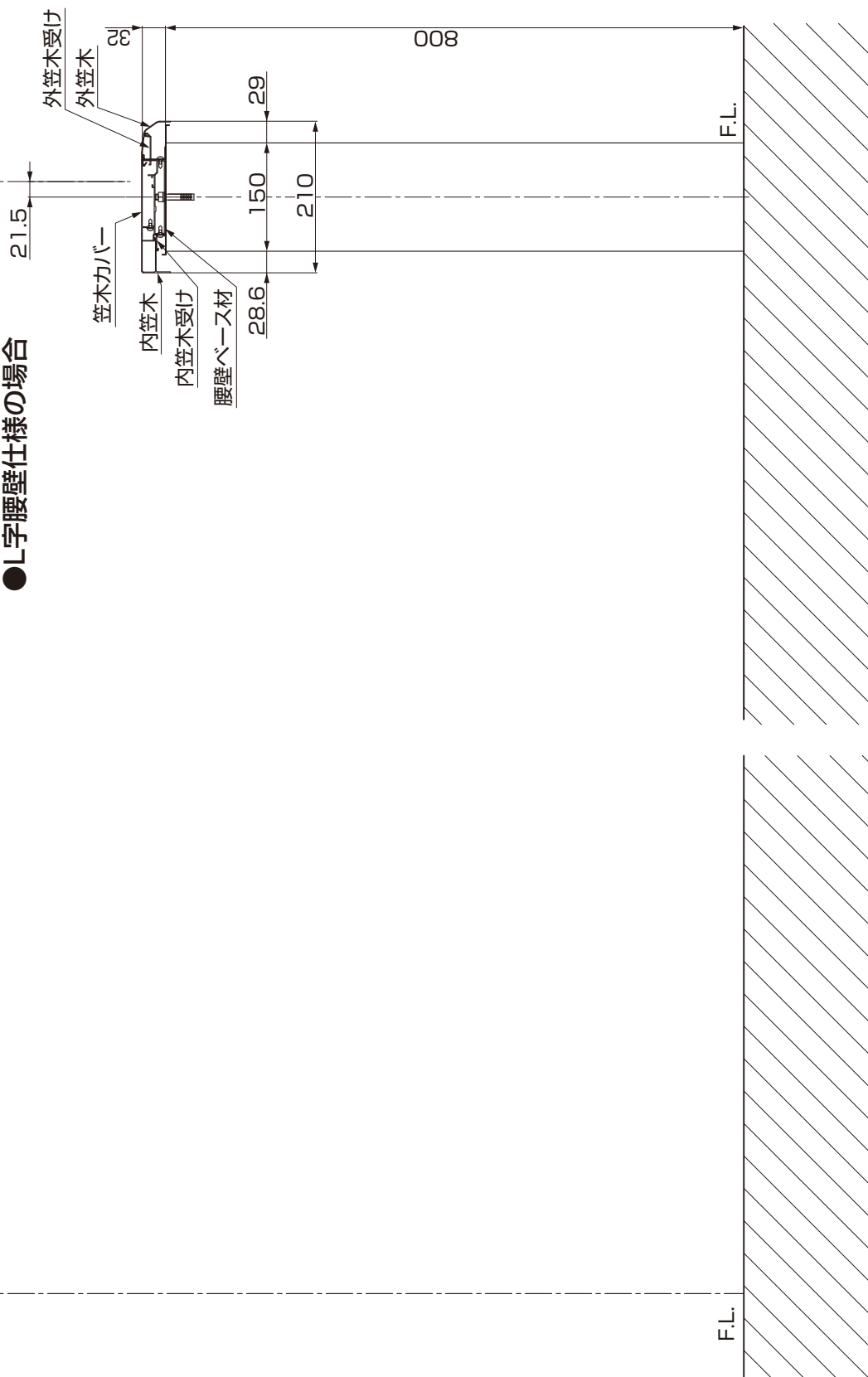
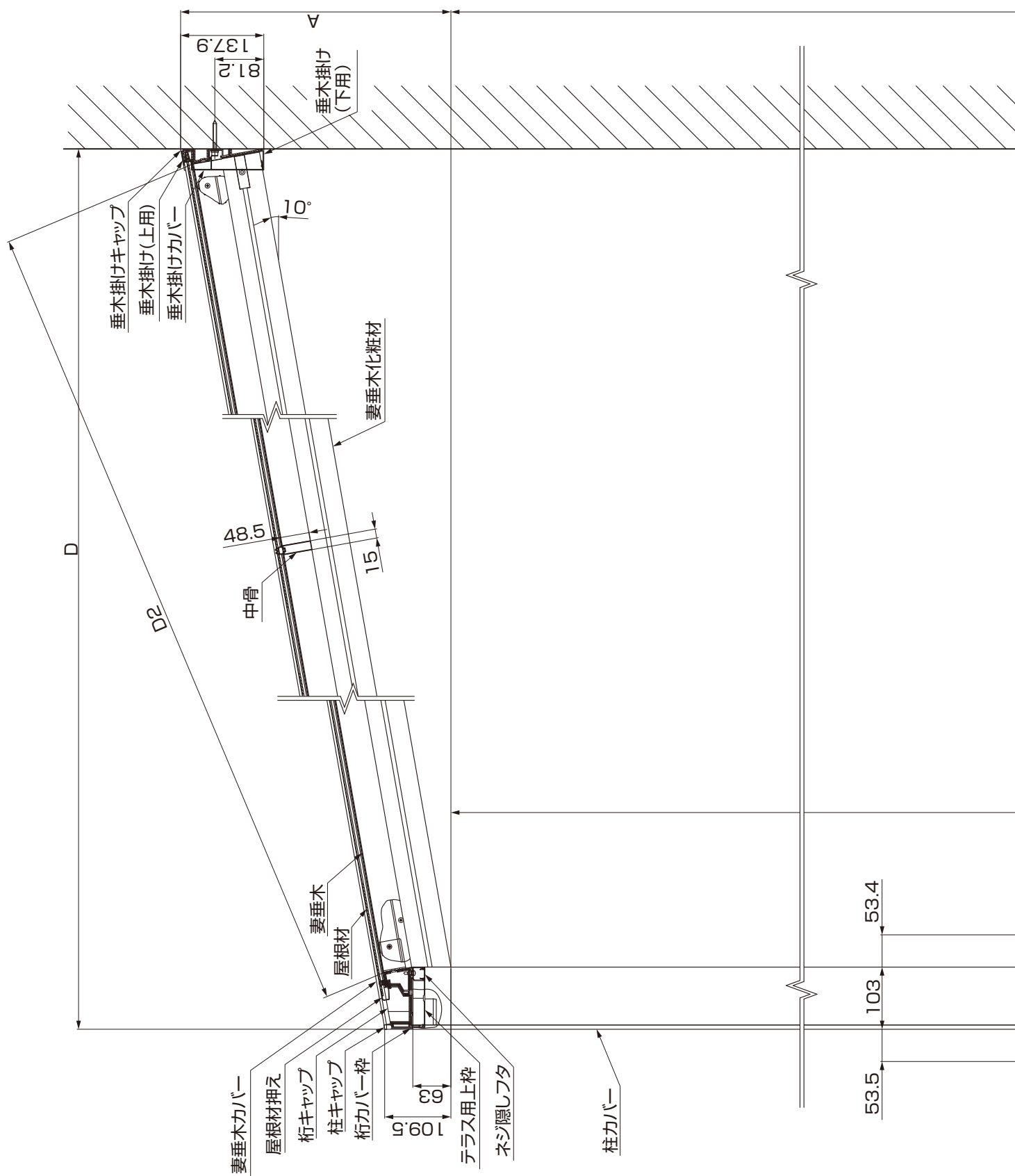


表 1-1

間口 間口寸法	1.0間	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
W1	1887	2797	3707	4617	5527
W2	1820	2730	3640	4550	5460

2. 出幅断面納まり図



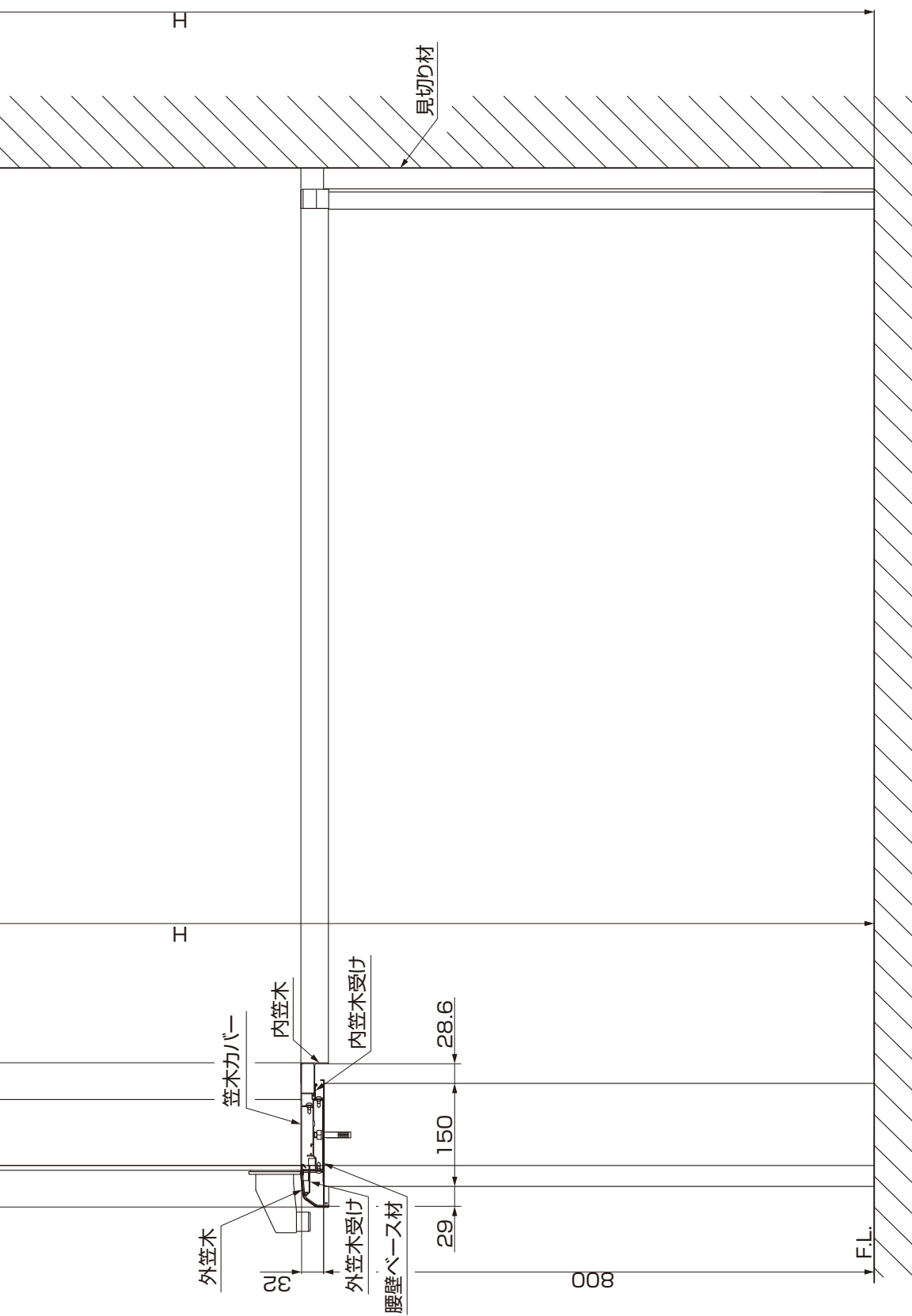


表2-1

高さ呼称	H
標準	2587
ロング	3287

表2-2

高さ寸法		出幅			
A		4尺	6尺	8尺	10尺
		342	448	554	659

表2-3

間口		4尺	6尺	8尺	10尺
出幅寸法	D	1308	1908	2508	3108
	D1	1205	1805	2405	3005
	D2	1207.5	1816.5	2426	3035

7 柱の位置出し

1. 基本仕様



図1-1 前面腰壁

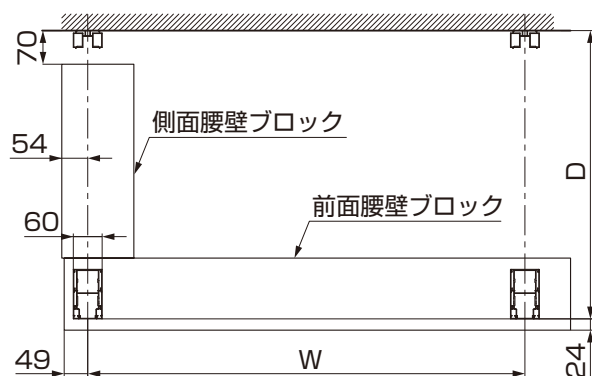


図1-2 L字腰壁

表1-1 出幅寸法

出幅	4尺	6尺	8尺	10尺
D	1308	1908	2508	3108

表1-2 間口寸法

間口	1.0間	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
W	1820	2730	3640	4550	5460

2. 連棟仕様

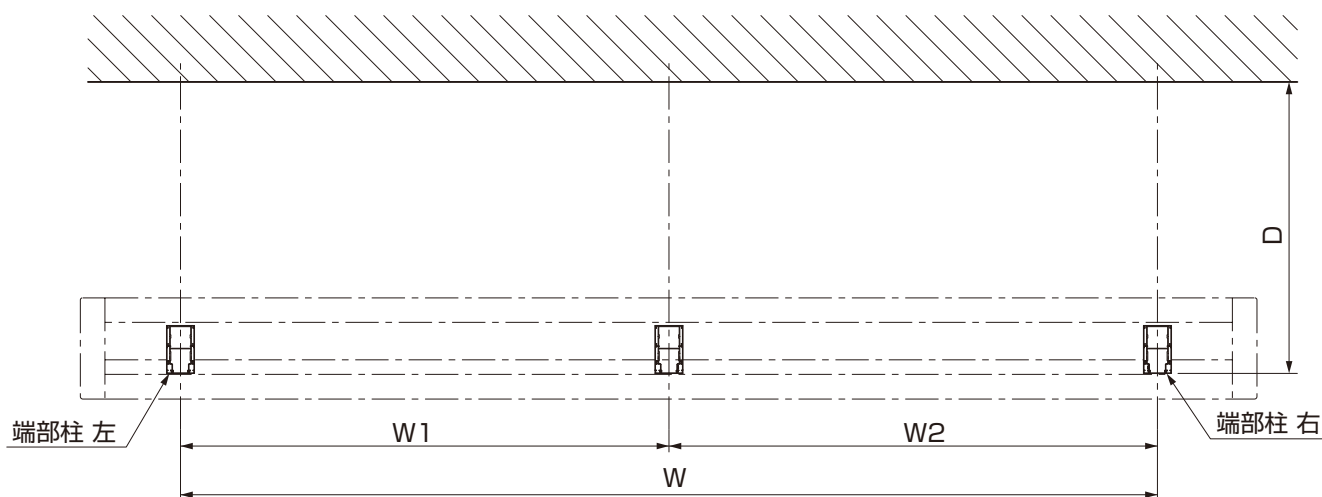


表2-1 出幅寸法

出幅	4尺	6尺	8尺	10尺
D	1308	1908	2508	3108

表2-2 間口寸法

間口	1.0間	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間	
W1、W2	1820	2730	3640	4550	5460	
間口	3.5間	4.0間	4.5間	5.0間	5.5間	6.0間
W	6370	7280	8190	9100	10010	10920

8 施工前の準備

1. 水盛遣方・水系張り

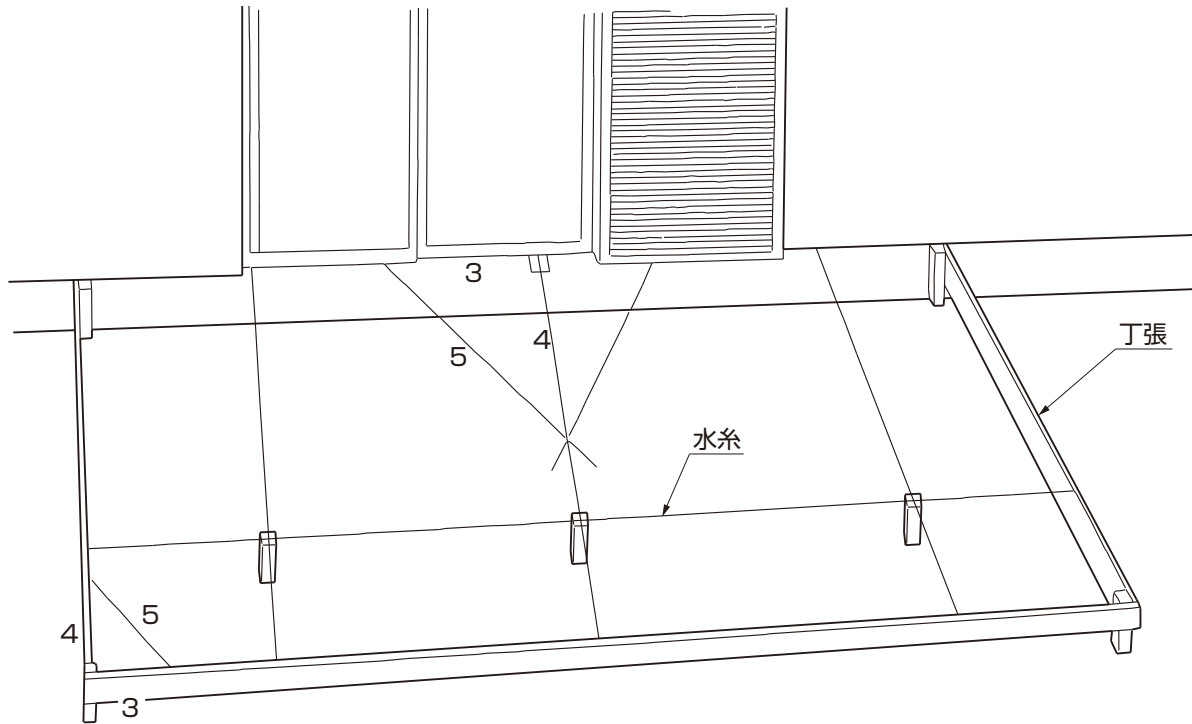


図1-1

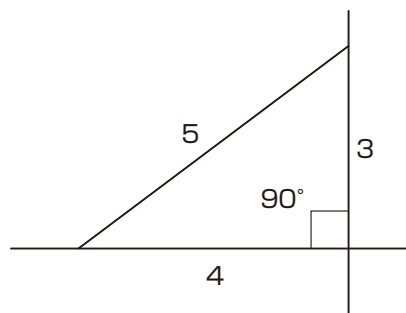


図1-2 直角出し寸法

- ①「5 基本寸法」を参照して本体の取付位置およびフロアの高さを決めてください。
- ②前面・両側面に丁張を組んでください。
- ③躯体に柱寸法の印をつけ、図1-2の方法で直角をだし、両側の柱位置を決めてください。

ポイント

- 丁張の位置は本体外寸より前面・両側面ともにやや大きめに決めてください。
- 丁張は水準器等で水平を取ってください。
- 各コーナーの直角を定規、図1-2の方法等で割り出してください。

2. 配線工事 **オプション** ※垂木LED照明を取付ける場合の作業です。

2-1 LED照明配線のとりまわし

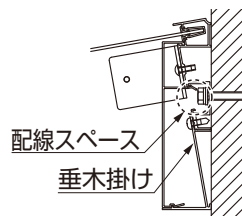
⚠ 注意

●AC100Vの電線の接続には電気工事士の資格が必要です。（コネクタ配線を除く）

🔑 ポイント

【垂木掛けの溝を配線に利用する場合】

- 部材・部品にあけた穴は、止水のためシーリングを塗布してください。
- 外側にあけた穴は、配線保護のためグロメットなどで小口の保護をしてください。



(1) ACアダプターを使用する場合

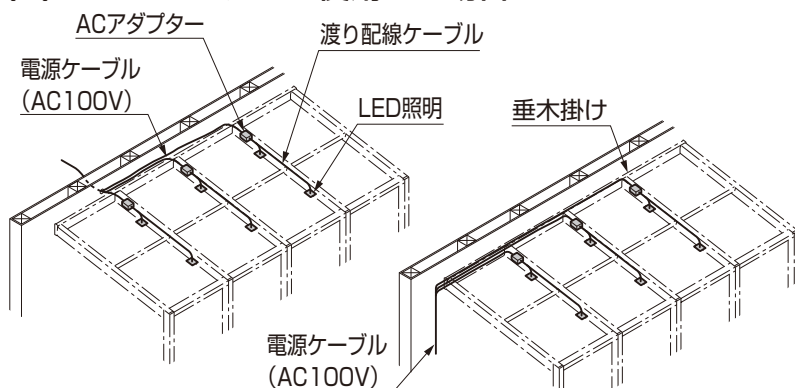


図2-1

躯体に穴をあけて配線する場合

図2-2

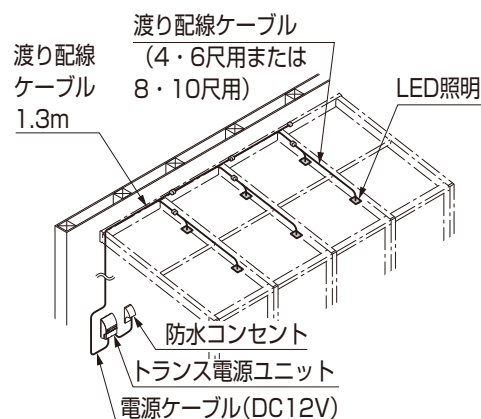
垂木掛けの溝を利用して配線する場合

①LED照明の配線をとりまわしてください。

🔑 ポイント

●LED照明は、渡り配線ケーブルを介して2セットまで連続接続が可能です。

(2) トランス電源ユニット 35Wを使用する場合

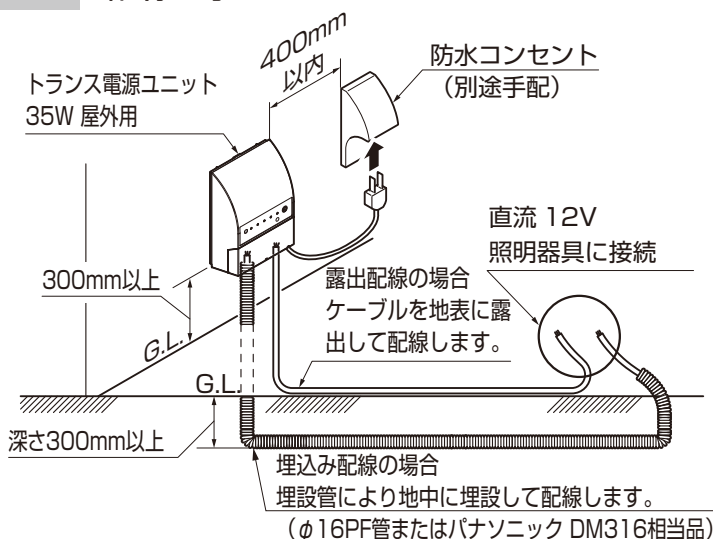


①LED照明の配線をとりまわしてください。

🔑 ポイント

●LED照明は、渡り配線ケーブルを介して10セットまで連続接続が可能です。

2-2 配線工事



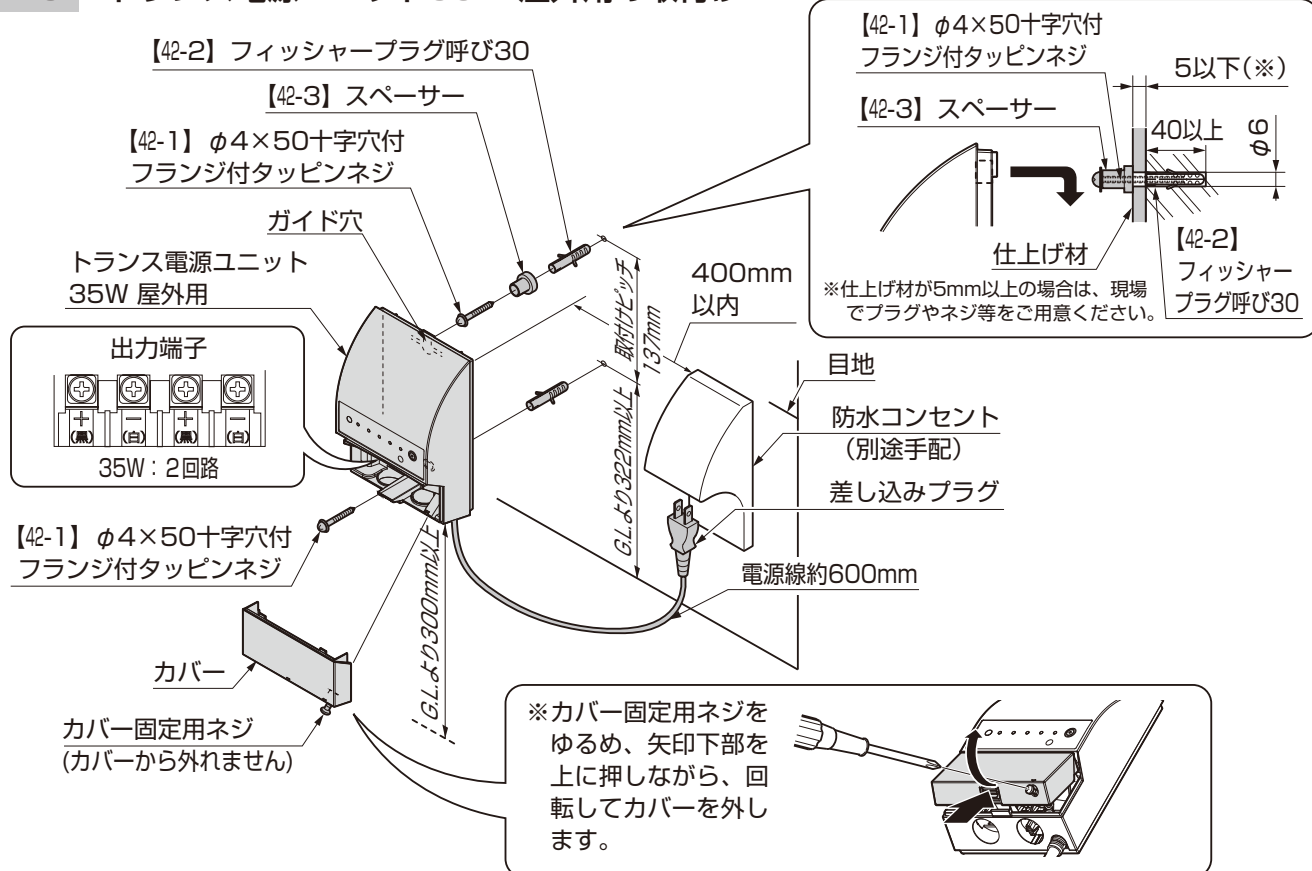
✎ 補足

- 埋込み配線の場合で車両その他の重量物の圧力を受けるおそれのある場所においては深さ600mm以上にしてください。
- トランス電源側の配管は、G.L.より300mm以上必ず立ち上げてください。

🔑 ポイント

- トランス電源ユニットの取付けは「トランス電源ユニット35W/60W 屋外用 取付説明書 (Z546)」を参照してください。
- 防水コンセントは別途手配してください。
- 躯体側から配線配管をする場合は、躯体側に配線を出してください。
- 地下埋設する場合のPF管は、現場で手配してください。
- 電源ケーブルの長さを調整する場合は、トランス電源ユニット側を切詰めてください。

2-3 トランス電源ユニット35W 屋外用の取付け



警告

- トランス電源ユニット35W 屋外用は壁面取付専用です。天井面、据置き、本体より小さい取付面、傾斜面、湿気が多い場所には設置しないでください。火災・感電・落下の原因になります。
- トランス電源ユニット35W 屋外用は地面より300mm以上離れた位置に取付けてください。冠水の時に火災・感電の原因になります。

注意

- 取付けは、安全のため差し込みプラグを抜いた状態で行ってください。通電状態で行なうと感電の原因になります。
- ブロックの目地には固定しないでください。固定強度が弱く、本体が落下してケガをするおそれがあります。

ポイント

- ネジ止めする際は、手回しドライバーをご使用ください。
- 壁に有効深さ40mmの下穴をあける場合は、仕上げ材ではなく壁からの深さとしてください。また、付属のプラグやネジの使用は仕上げ材の厚みが5mm以下(※)の場合としてください。5mmより厚い場合は、現場でプラグやネジ等をご用意ください。
- トランス電源ユニット35W 屋外用と防水コンセントの間は400mm以内にしてください。
- 切り粉は必ず除去してください。

- ①カバー固定用ネジをゆるめ、カバー下部を上へ押しながらカバーを外してください。
- ②トランス電源ユニット35W 屋外用を取付ける位置に合わせて取付け穴をけがき、けがいた位置に穴径φ6、有効深さ40mm以上の下穴をあけてください。
- ③【42-2】を下穴に埋め込んでください。
- ④【42-1】で【42-3】を壁に固定してください。
- ⑤トランス電源ユニット35W 裏面上部のガイド穴に【42-3】をはめ込み、【42-1】で壁に固定してください。

9 腰壁ブロックの建込み

1. 腰壁ブロックと床仕上面の関係 ※図は前面腰壁の場合を示します。

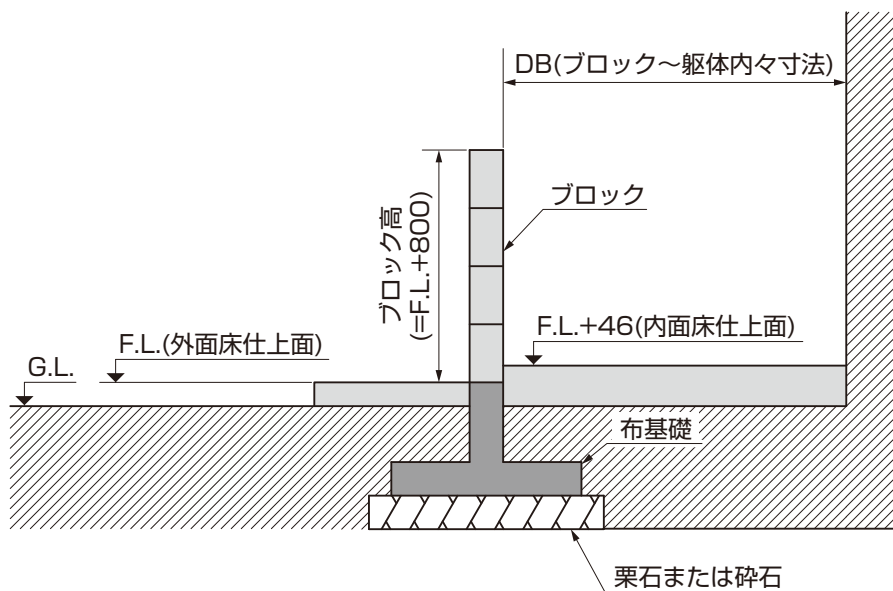


図1-1

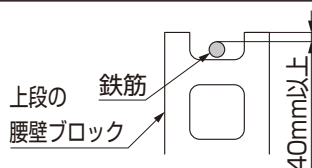
①腰壁ブロックと床仕上面の関係性を確認してください。

メモ

2. 前面腰壁の場合

ポイント

- 上段の腰壁ブロックへ配筋の際は鉄筋が40mm以上の深さになるようにしてください。



- 腰壁ブロック天面は水平で平滑になるように仕上げてください。

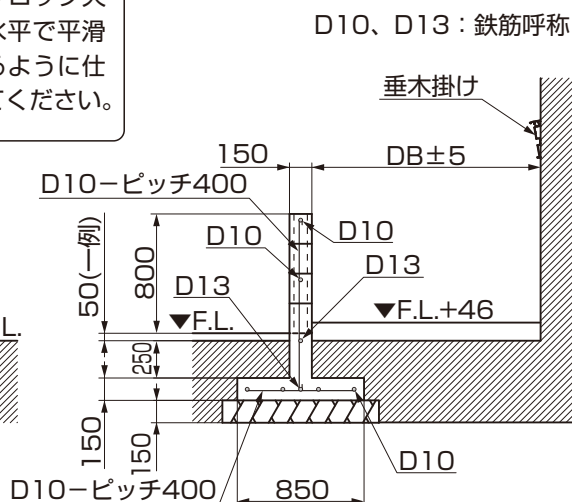
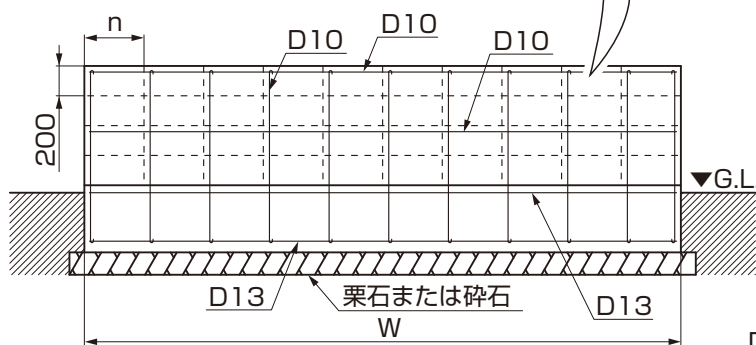


図2-1

表2-1 前面側 腰壁ブロック寸法

間口	n (列)	W (mm)
1.0間	6	2400
1.5間	8	3200
2.0間	10	4000
2.5間	12	4800
3.0間	15	6000
3.5間 (2.0間+1.5間)	$16+\frac{1}{2}$	6600
4.0間 (2.5間+1.5間)	19	7600
4.5間 (3.0間+1.5間)	$21+\frac{1}{2}$	8600
5.0間 (2.0間+3.0間)	$23+\frac{1}{2}$	9400
5.5間 (3.0間+2.5間)	26	10400
6.0間 (3.0間+3.0間)	$28+\frac{1}{2}$	11400
間口延長 (+1.0間)	+4	+1600

表2-2 腰壁ブロック 奥行寸法

出幅	DB (mm)
4尺	1182
6尺	1782
8尺	2382
10尺	2982

表2-3 使用材料

コンクリート	普通コンクリート $F_c=18\text{N}/\text{mm}^2$
鉄筋	SD295A JIS規格品
コンクリートブロック	空洞ブロック JIS規格品 A種以上

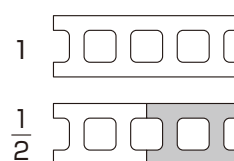


図2-2

ポイント

- 布基礎の天面は、F.L.+0mm (=G.L.+50mm (一例)) が基準です。
※+50mmは現場状況に合わせて変更してください。
- 寒冷地で凍上するおそれのある地域で施工する場合には、凍上線の下まで基礎を設けてください。
- 腰壁ブロックの建込みは、指定の材料を使用してください。(表2-3参照)
- 腰壁ブロックの縦目地は、すき間のないように埋めてください。
- 腰壁ブロックは全面に適切な防水処理を行なってください。
- 「5 基本寸法」を参照して柱、垂木掛け等の位置を確認してください。
※連棟の場合は、腰壁ブロックのはね出し寸法は左右で異なります。

3. L字腰壁の場合

ポイント

- 腰壁ブロック天面は前面側と側面側に段差がなく、平滑に仕上げてください。
- 上段の腰壁ブロックへ配筋の際は鉄筋が40mm以上の深さになるようにしてください。
- 前面側と側面（L字）側の腰壁ブロックは目地仕上げ面が揃うようにしてください。

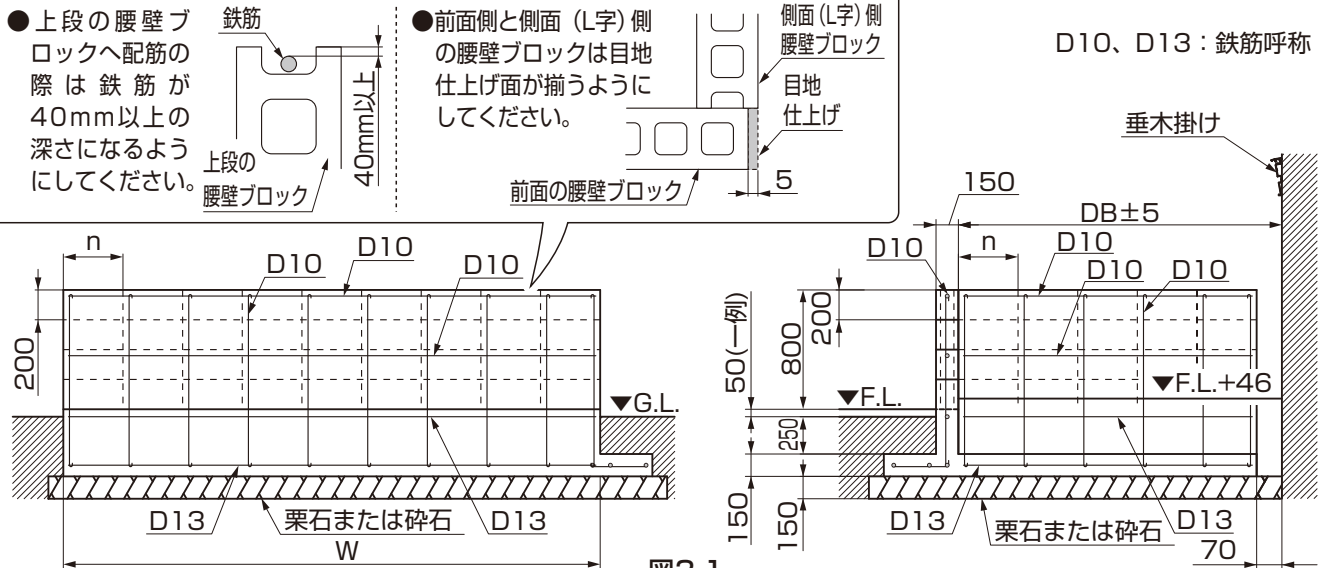


表3-1 前面側 腰壁ブロック寸法

間口	n (列)	W (mm)
1.0間	5	2000
1.5間	$7 + \frac{1}{2}$	3000
2.0間	$9 + \frac{1}{2}$	3800
2.5間	$11 + \frac{3}{4}$	4700
3.0間	$13 + \frac{3}{4} + \frac{1}{2}$	5700
3.5間 (2.0間+1.5間)	$16 + \frac{1}{2}$	6600
4.0間 (2.5間+1.5間)	$18 + \frac{3}{4}$	7500
4.5間 (3.0間+1.5間)	21	8400
5.0間 (2.0間+3.0間)	$22 + \frac{3}{4} + \frac{1}{2}$	9300
5.5間 (3.0間+2.5間)	$25 + \frac{1}{2}$	10200
6.0間 (3.0間+3.0間)	28	11200
間口延長 (+1.0間)	+4	+1600

図3-1

表3-2 側面（L字）側 腰壁ブロック寸法

出幅	n (列)	DB (mm)
4尺	$2 + \frac{3}{4}$	1182
6尺	$3 + \frac{3}{4} + \frac{1}{2}$	1782
8尺	$5 + \frac{3}{4}$	2382
10尺	$6 + \frac{3}{4} + \frac{1}{2}$	2982

表3-3 使用材料

コンクリート	普通コンクリート $F_c = 18 \text{ N/mm}^2$
鉄筋	SD295A JIS規格品
コンクリートブロック	空洞ブロック JIS規格品 A種以上

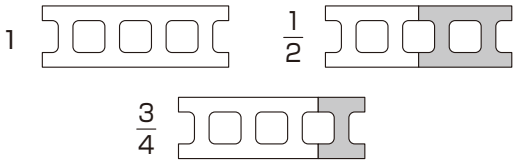


図3-2

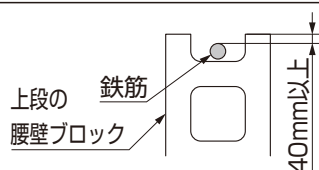
ポイント

- 布基礎の天面は、F.L.+0mm (=G.L.+50mm (一例)) が基準です。
※+50mmは現場状況に合わせて変更してください。
- 寒冷地で凍上するおそれのある地域で施工する場合には、凍上線の下まで基礎を設けてください。
- 腰壁ブロックの建込みは、指定の材料を使用してください。(表3-3参照)
- 腰壁ブロックの縦目地は、すき間のないように埋めてください。
- 腰壁ブロックは全面に適切な防水処理を行なってください。**
- 「5 基本寸法」を参照して柱、垂木掛け等の位置を確認してください。
※連棟の場合は、腰壁ブロックのはね出し寸法は左右で異なります。

4. 入隅腰壁の場合

ポイント

- 上段の腰壁ブロックへ配筋の際は鉄筋が40mm以上の深さになるようにしてください。



- 腰壁ブロック天面は水平で平滑になるように仕上げてください。

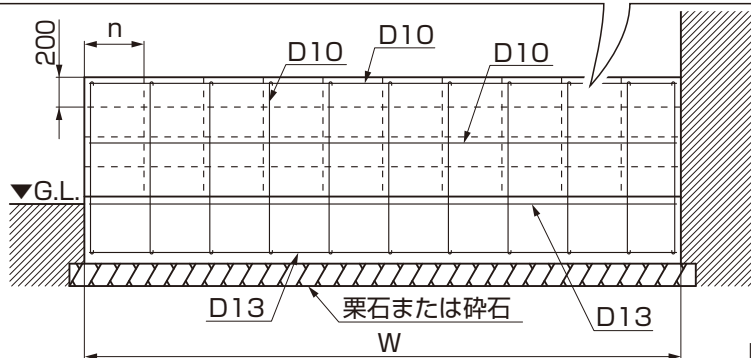


図4-1

表4-1 前面側 腰壁ブロック寸法

間口	n (列)	W (mm)
1.0間	5	2000
1.5間	$7 + \frac{1}{2}$	3000
2.0間	$9 + \frac{1}{2}$	3800
2.5間	$11 + \frac{3}{4}$	4700
3.0間	$13 + \frac{3}{4} + \frac{1}{2}$	5700
3.5間 (2.0間+1.5間)	$16 + \frac{1}{2}$	6600
4.0間 (2.5間+1.5間)	$18 + \frac{3}{4}$	7500
4.5間 (3.0間+1.5間)	21	8400
5.0間 (2.0間+3.0間)	$22 + \frac{3}{4} + \frac{1}{2}$	9300
5.5間 (3.0間+2.5間)	$25 + \frac{1}{2}$	10200
6.0間 (3.0間+3.0間)	28	11200
間口延長 (+1.0間)	+4	+1600

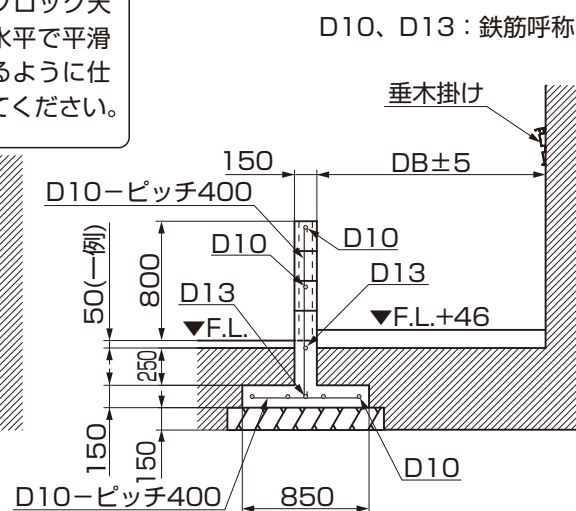


表4-2 腰壁ブロック 奥行寸法

出幅	DB (mm)
4尺	1182
6尺	1782
8尺	2382
10尺	2982

表4-3 使用材料

コンクリート	普通コンクリート $F_c = 18\text{N/mm}^2$
鉄筋	SD295A JIS規格品
コンクリートブロック	空洞ブロック JIS規格品 A種以上

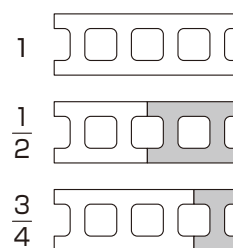


図4-2

ポイント

- 布基礎の天面は、F.L.+0mm (=G.L.+50mm (一例)) が基準です。
※+50mmは現場状況に合わせて変更してください。
- 寒冷地で凍上するおそれのある地域で施工する場合には、凍上線の下まで基礎を設けてください。
- 腰壁ブロックの建込みは、指定の材料を使用してください。(表4-3参照)
- 腰壁ブロックの縦目地は、すき間のないように埋めてください。
- 腰壁ブロックは全面に適切な防水処理を行なってください。
- 「5 基本寸法」を参照して柱、垂木掛け等の位置を確認してください。
※連棟の場合は、腰壁ブロックのはね出し寸法は左右で異なります。

10 位置決め施工

1. 躯体方立の取付け

※前面腰壁・L字腰壁に妻梁上部FIXを付ける場合または通常のL字腰壁の場合の作業です。

腰壁	地域
※全仕様で行なう作業です。	

1-1 部材の加工

補足

●加工する前の躯体方立で垂木掛けの位置出しをすることができます。

(1) 妻梁上部FIXがある場合

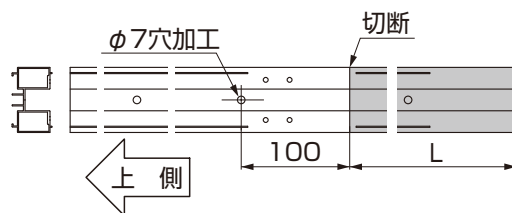
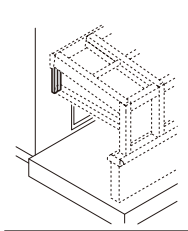
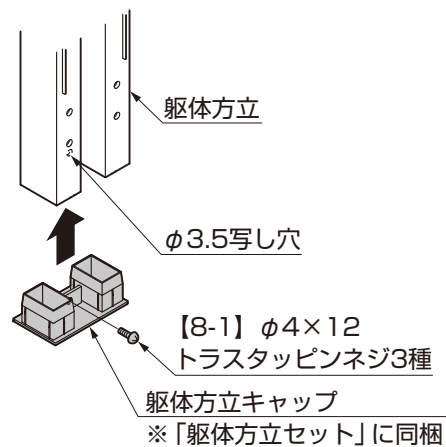


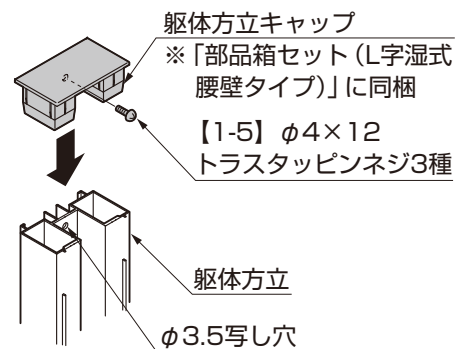
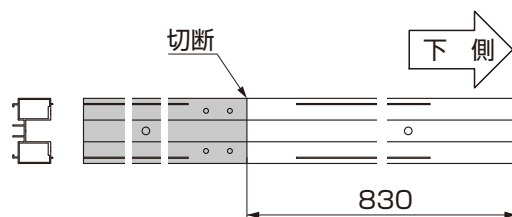
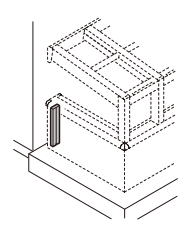
表1-1

	切断寸法L
標準	2402
ロング	3102



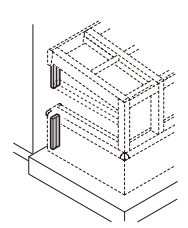
- ①躯体方立を下側から切断してください。
- ②切断側の端部から100mmの位置にφ7の穴をあけてください。
- ③躯体方立の下側に躯体方立キャップをはめ込んでください。
- ④躯体方立キャップの穴をガイドにφ3.5の穴をあけて【8-1】で取付けてください。

(2) L字腰壁の場合



- ①躯体方立を下側から830mmで切断してください。
- ②躯体方立の上側に躯体方立キャップをはめ込んでください。
- ③躯体方立キャップの穴をガイドにφ3.5の穴をあけて【1-5】で取付けてください。

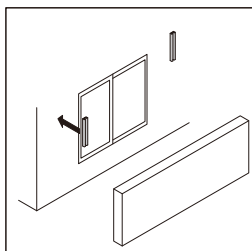
(3) L字腰壁で妻梁上部FIXがある場合



- ①L字腰壁で妻梁上部FIXがある場合、(1)・(2)の両方の手順を行なってください。

1. (つづき)

1-2 妻梁上部FIXを取付ける場合の躯体方立の取付け



ポイント

- 躯体方立は必ず躯体構造材に取付けてください。
- 躯体取付面に凹凸が大きい場合は、バックアップ材などを現場手配して取付面の止水性を確保してください。
- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。雨漏りの原因になります。
- 指定以外の箇所には、シーリングをしないでください。室内側へ雨水を誘引する原因になります。

ポイント

- 躯体方立が垂直になるようにしてください。

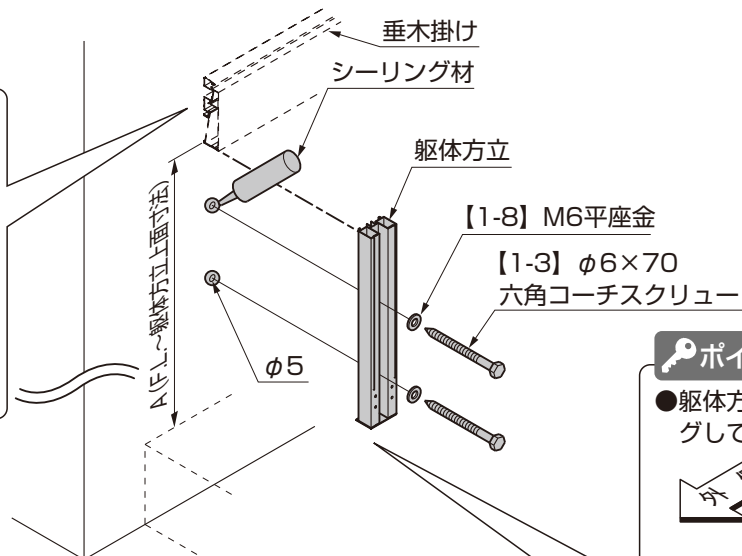
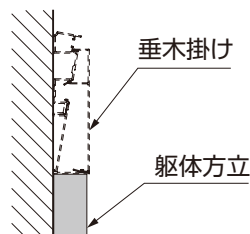
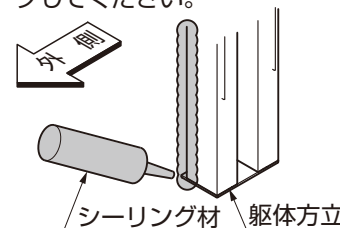


表1-2

高さ呼称	出幅	A
標準	4尺	2791
	6尺	2897
	8尺	3003
	10尺	3108
ロング	4尺	3491
	6尺	3597
	8尺	3703
	10尺	3808

ポイント

- 躯体方立と躯体の間をシーリングしてください。

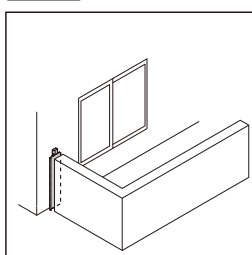


- ①躯体に躯体方立取付け用の穴をけがいて、φ5の穴をあけてください。
- ②躯体にあけた穴にシーリングを充填してください。
- ③躯体方立を躯体に【1-3】、【1-8】で取付けてください。

1-3 L字腰壁の場合の躯体方立の取付け

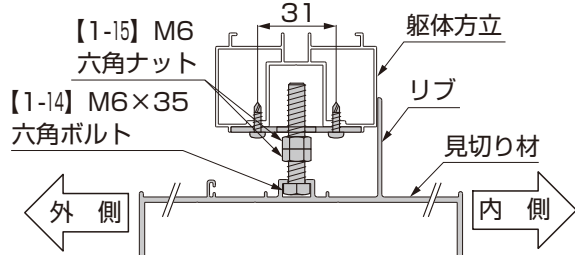
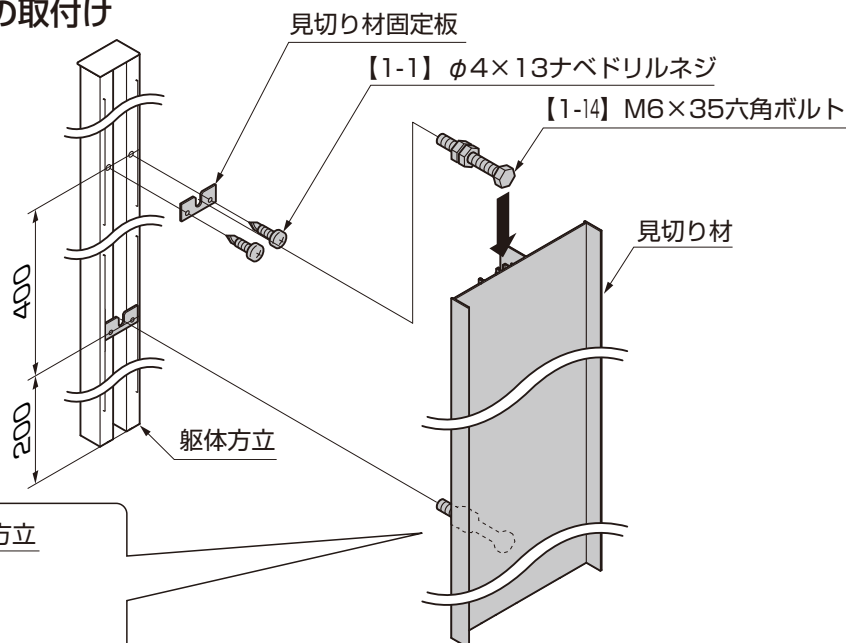


(1) 見切り材の取付け



ポイント

- 見切り材は、L字腰壁部のみに取付けてください。

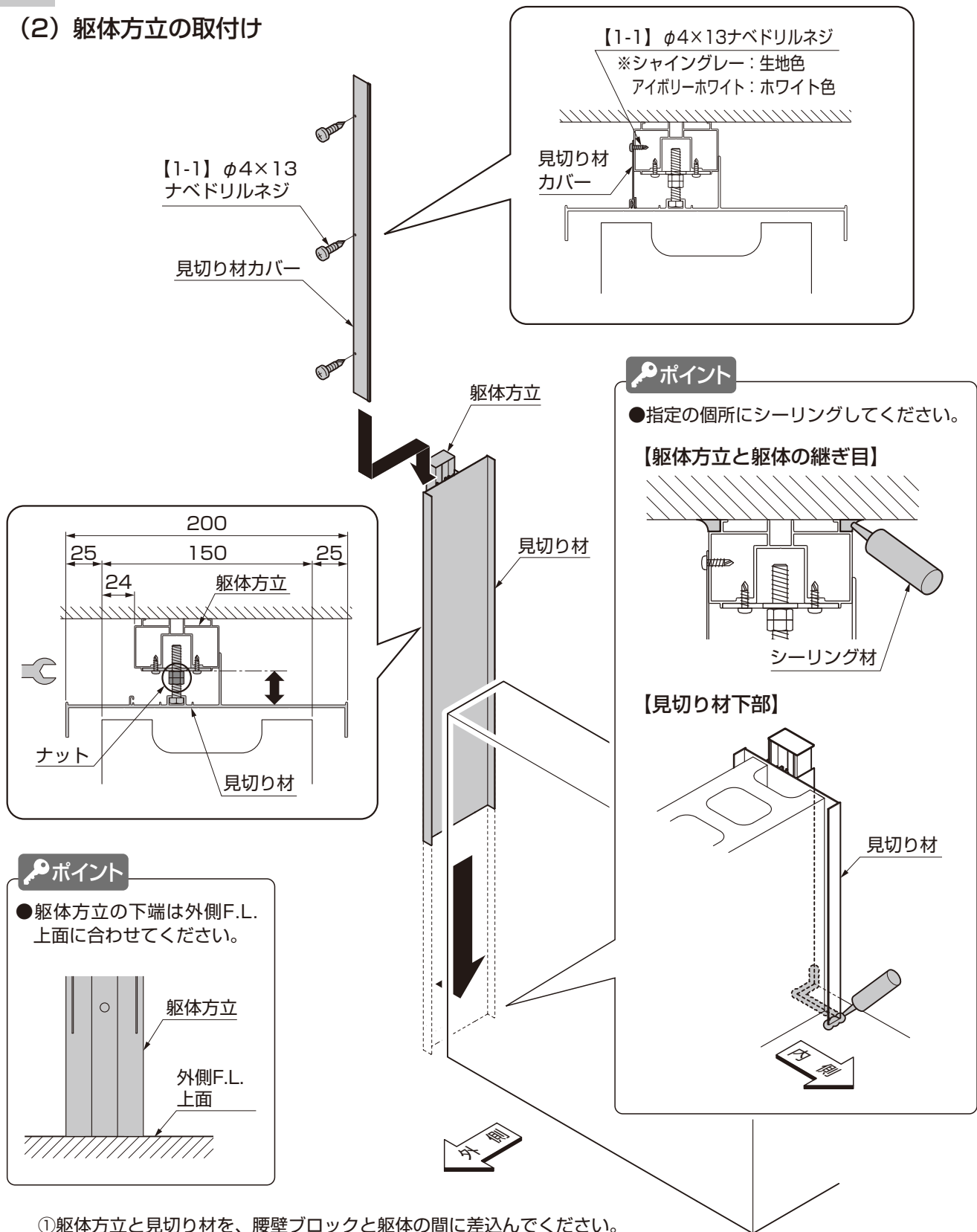


- ①躯体方立に見切り材固定板を【1-1】で取付けてください。
- ②見切り材の溝部に【1-14】を挿入し、【1-14】、【1-15】を見切り材固定板の上にらせてください。

1. (つづき)

1-3 つづき

(2) 躯体方立の取付け



- ① 躯体方立と見切り材を、腰壁ブロックと躯体の間に差込んでください。
- ② ナット位置を調整し、躯体方立を躯体に押し付けてください。
- ③ 見切り材カバーを見切り材にスライド挿入して【1-1】で取付けてください。
- ④ 躯体と躯体方立の継ぎ目、見切り材下部をシーリングしてください。

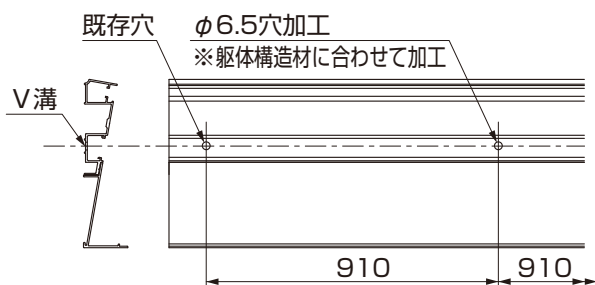
11 部材の組立て

腰壁	地域
※全仕様で行なう作業です。	

1. 垂木掛けの組立て

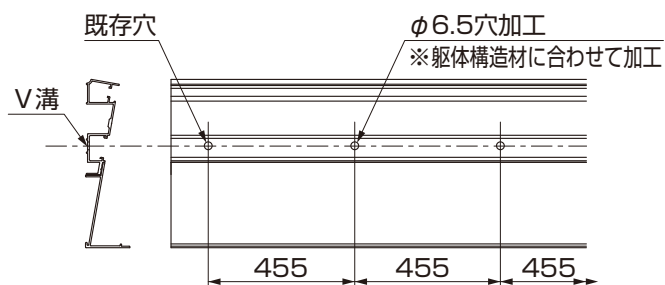
1-1 垂木掛けの加工

(1) 一般地域の場合



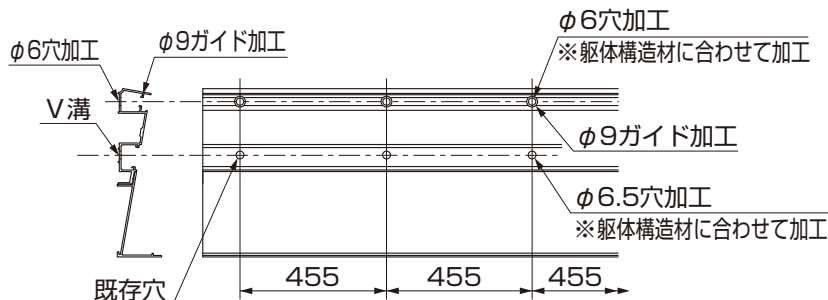
①垂木掛けに穴加工をしてください。

(2) 積雪地域(積雪地域1500N(50cm相当)の場合)



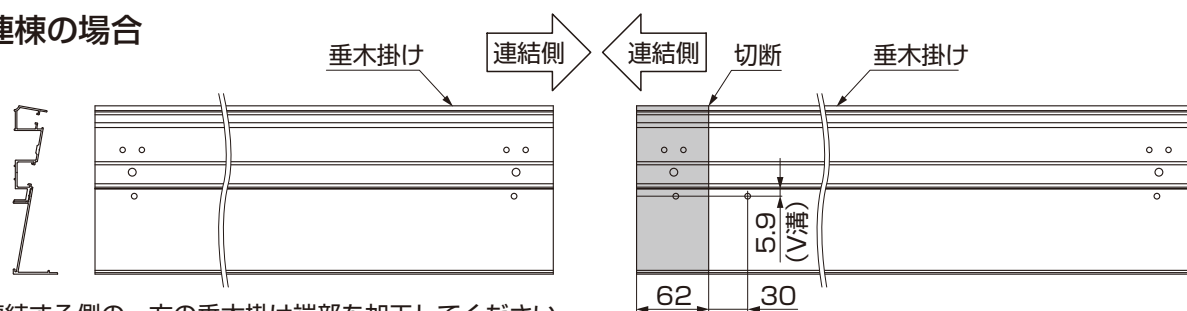
①垂木掛けに穴加工をしてください。

(3) 積雪地域(積雪地域3000N(100cm相当)の場合)



①垂木掛けに穴加工をしてください。

(4) 連棟の場合

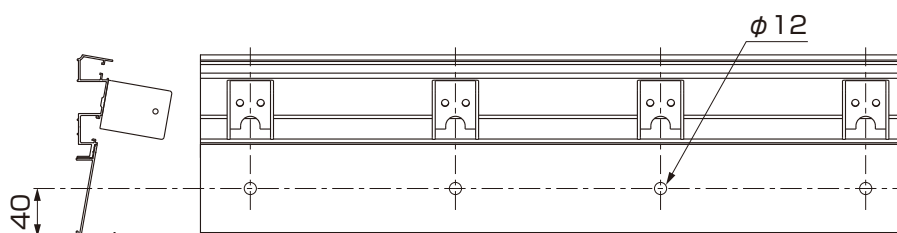


①連結する側の一方の垂木掛け端部を加工してください。

ポイント

●記載の寸法は想定寸法です。切断加工前に必ず、現場実寸法を確認してください。

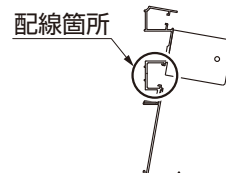
(5) 垂木LED照明 **オプション** を取付ける場合 ※配線の都合により垂木掛けに穴をあける作業です。



①垂木掛けに穴加工をしてください。

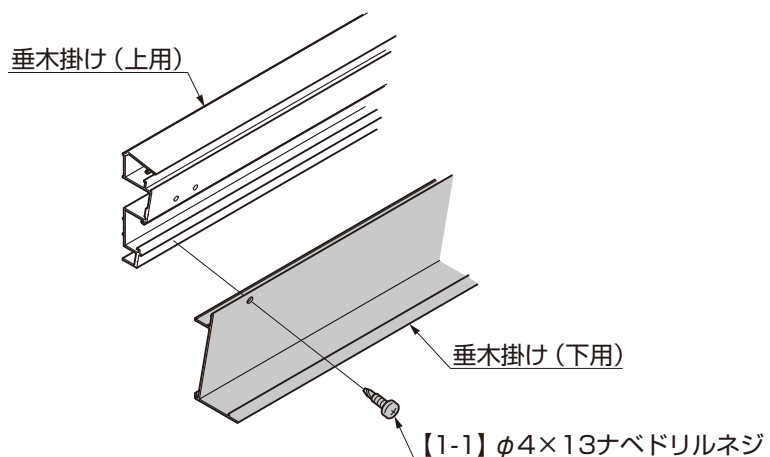
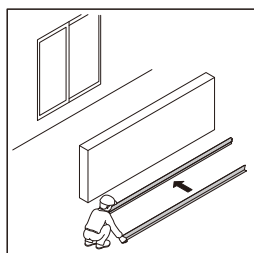
補足

●配線は垂木掛けの溝を使うこともできます。



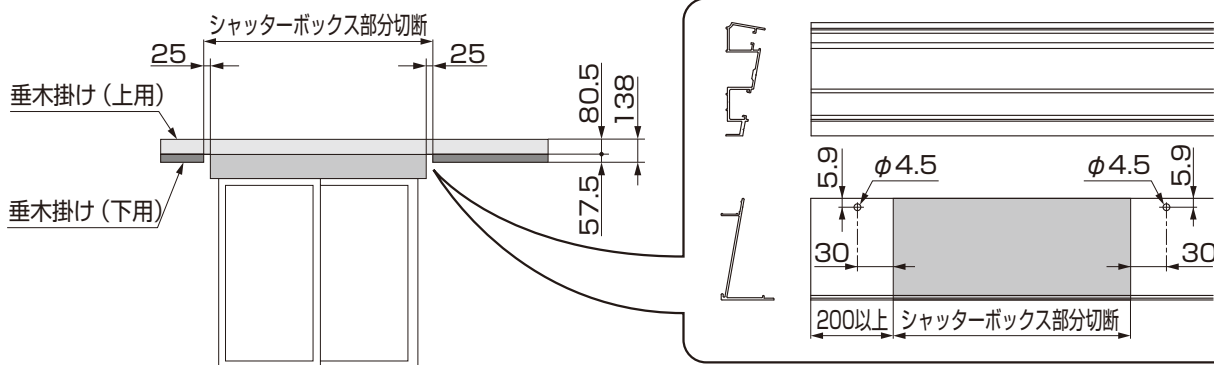
1. (つづき)

1-2 垂木掛けの組立て



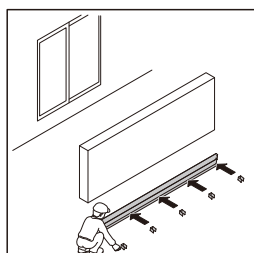
ポイント

- 垂木掛けを取付ける箇所にシャッターボックス等の障害物がある場合は、障害物部分の垂木掛け(下用)は取付け不要です。ただし、両端部には最低200mmの垂木掛け(下用)が必要です。



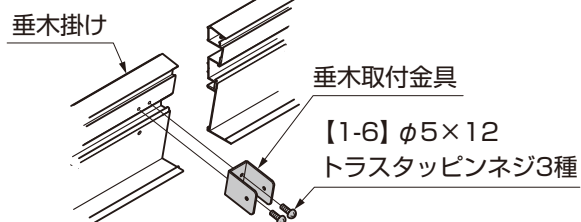
- ①垂木掛け(下用)を垂木掛け(上用)に【1-1】で取付けてください。

1-3 垂木取付金具の取付け



垂木掛け

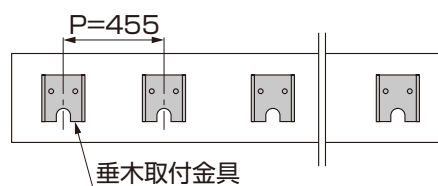
【連棟の場合】



ポイント

【積雪地域】 (積雪地域3000N(100cm相当)仕様の場合)

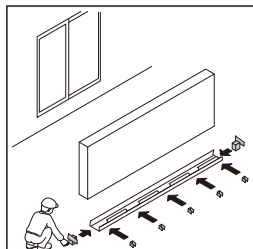
- 垂木取付金具を455mmピッチで取付けてください。



- ①垂木取付金具を垂木掛けに【1-6】で取付けてください。

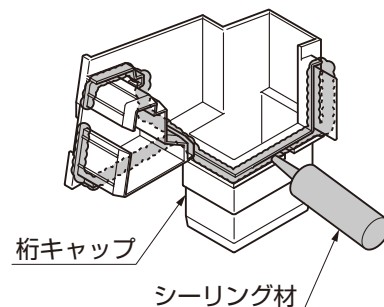
2. 桁の組立て

2-1 桁の組立て



ポイント

- 図は右側を示します。左側も同様に取付けてください。
- 指定の箇所には、雨水侵入防止のため、必ずシーリングをしてください。



桁キャップ

【1-6】φ5×12
トラスタッピンネジ3種

垂木取付金具

【1-2】φ4×12
トラスタッピンネジ1種

桁



ポイント

【積雪地域】 (積雪地域3000N (100cm相当) 仕様の場合)

- 垂木取付金具を455mmピッチで取付けてください。



- ①垂木取付金具を桁に【1-6】で取付けてください。
- ②桁キャップをシーリングしてください。

ポイント

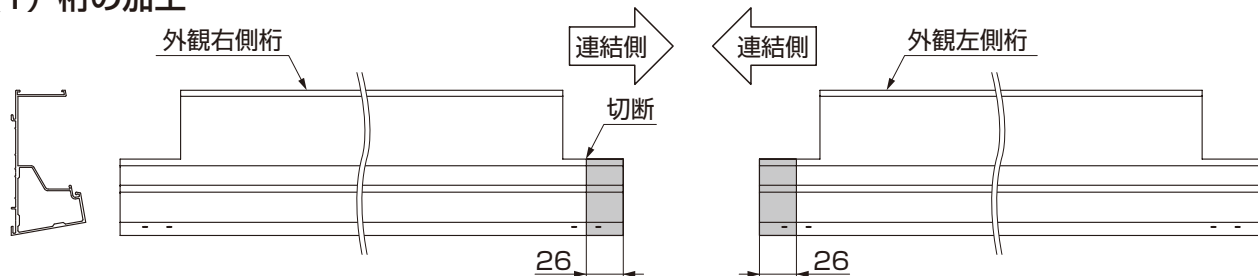
- 桁キャップと桁を組付けた後にシーリングが桁と桁キャップの両方に十分塗布されていることを確認してください。組付けによってシーリングが切れるなど塗布が不十分な場合は追加してください。

- ③桁キャップを桁に【1-2】で取付けてください。

2. (つづき)

2-2 連棟の場合

(1) 桁の加工



①左右の桁を均等に切断してください。

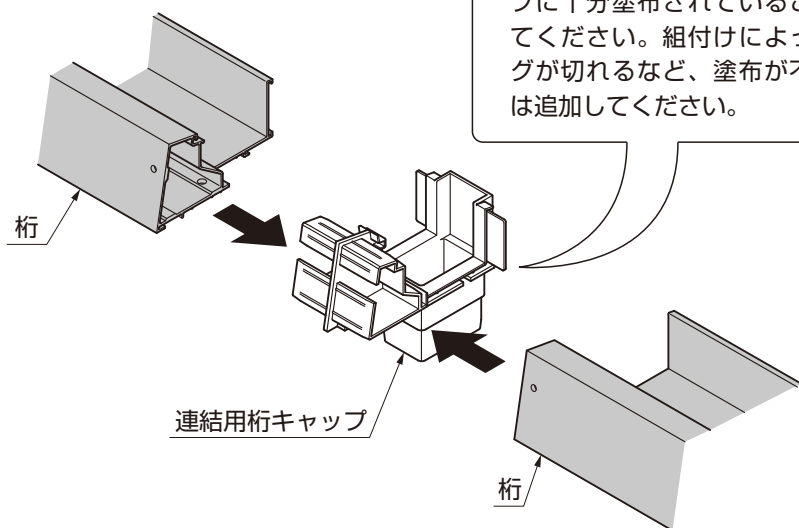
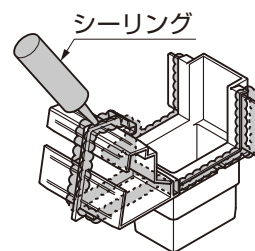
ポイント

●記載の寸法は想定寸法です。切断加工前に必ず、現場実寸法を確認してください。

(2) 桁の連結

ポイント

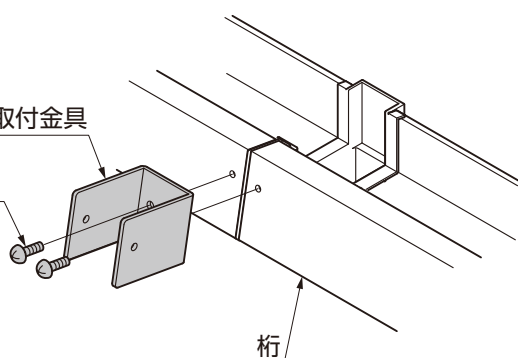
- 指定の箇所には、雨水侵入防止のため、必ずシーリングをしてください。
- 組付け後はシーリングが桁と桁キャップに十分塗布されていることを確認してください。組付けによってシーリングが切れるなど、塗布が不十分な場合は追加してください。



①連結用桁キャップにシーリングしてください。

②左右の桁を連結用桁キャップにはめ込んでください。

垂木取付金具
【1-6】φ5×12
トラスタッピンネジ3種



③垂木取付金具を、連結した桁に【1-6】で取付けてください。

12 腰壁部のベースの施工

1. 部材の加工

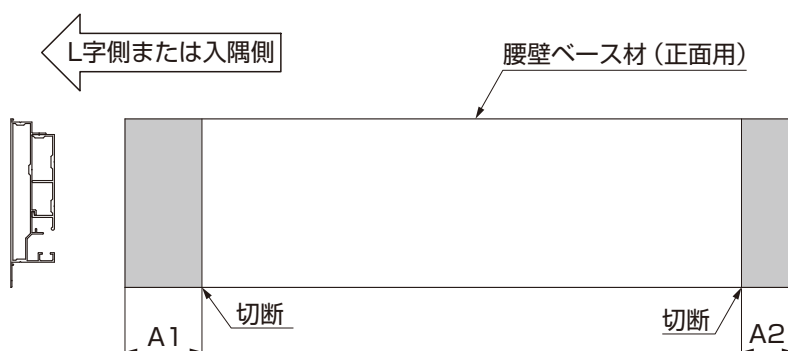
腰壁	地域
※全仕様で行なう作業です。	

1-1 部材単体（連結なし）の場合

ポイント

- 本図は外観左にL字腰壁または入隅腰壁とした場合の加工を示します。
外観右にL字腰壁または入隅腰壁とする場合は左右対象加工となります。
- 腰壁間口延長（+1.0間）の場合は、本項（部材単体）の加工をした部材に、間口延長用の部材を継ぎ足して連結してください。※間口延長用側の部材は切詰め加工不要です

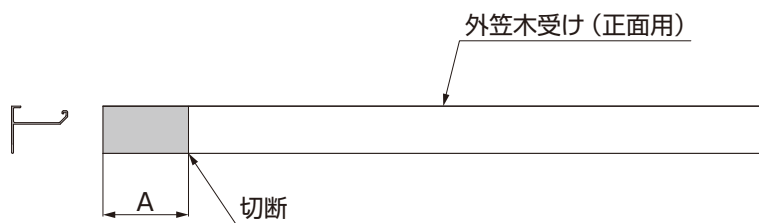
(1) 腰壁ベース材（正面用）の加工



①部材を加工してください。

納まり	間口	切詰め寸法	
		A1	A2
前面腰壁	—	切詰めなし	
L字腰壁	1.0間	226.5	163.5
	1.5間	171.5	18.5
	2.0間	116.5	73.5
	2.5間	61.5	28.5
	3.0間	206.5	83.5
入隅腰壁	1.0間	226.5	145
	1.5間	171.5	0
	2.0間	116.5	55
	2.5間	61.5	10
	3.0間	206.5	65

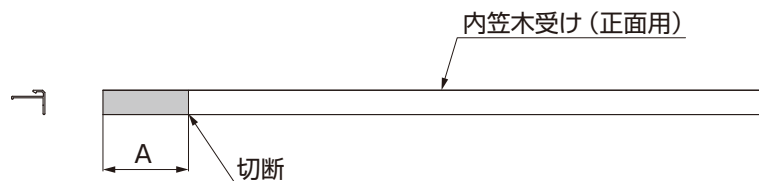
(2) 外笠木受け（正面用）の加工



①部材を加工してください。

納まり	間口	切詰め寸法 A
前面腰壁	—	切詰めなし
L字腰壁	1.0間	380
	1.5間	180
	2.0間	180
	2.5間	80
	3.0間	280
入隅腰壁	1.0間	357
	1.5間	157
	2.0間	157
	2.5間	57
	3.0間	257

(3) 内笠木受け（正面用）の加工



①部材を加工してください。

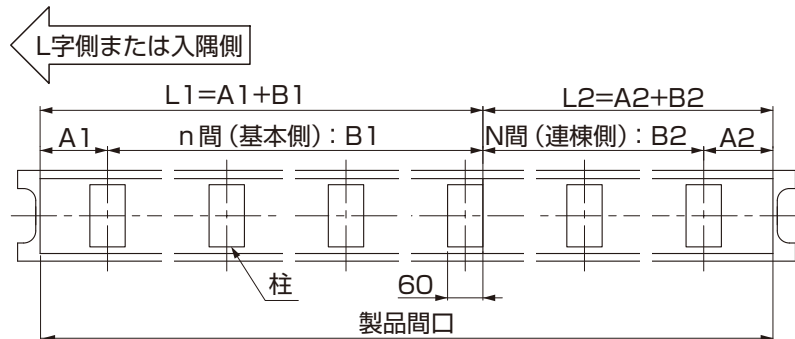
納まり	間口	切詰め寸法 A
前面腰壁	—	切詰めなし
L字腰壁	1.0間	555
	1.5間	355
	2.0間	355
	2.5間	255
	3.0間	455
入隅腰壁	1.0間	357
	1.5間	157
	2.0間	157
	2.5間	57
	3.0間	257

1. (つづき)

1-2 部材連結の場合

ポイント

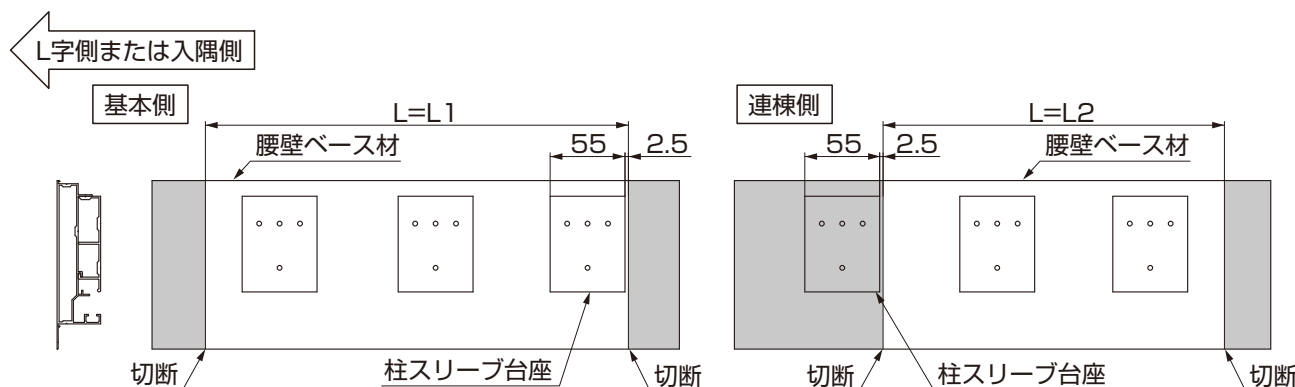
- 本図は外観左を基本側、外観右を連棟側とした場合の加工を示します。
外観右を基本側とする場合は左右対象加工となります。
- 本図は外観左にL字腰壁または入隅腰壁とした場合の加工を示します。
外観右にL字腰壁または入隅腰壁とする場合は外観右を基本側として、左右対象加工となります。



間口	はね出し寸 (基本側) A1			はね出し寸 (連棟側) A2		
	前面腰壁	L字腰壁	入隅腰壁	前面腰壁	L字腰壁	入隅腰壁
1.5間	201.5	30	30	201.5	183	201.5
2.0間	146.5			146.5	73	91.5
2.5間	91.5			91.5	63	81.5
3.0間	236.5			236.5	153	171.5
3.5間	81.5			81.5	118	136.5
4.0間	91.5			161.5	108	126.5
4.5間	236.5			106.5	98	116.5
5.0間	146.5			86.5	88	106.5
5.5間	236.5			86.5	78	96.5
6.0間	236.5			176.5	168	186.5

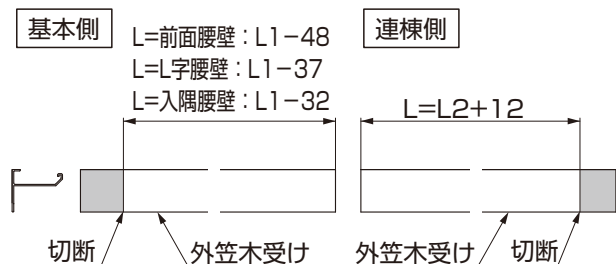
n間	B1	N間	B2
0.5間	940	0.5間	880
1.0間	1850	1.0間	1790
1.5間	2760	1.5間	2700
2.0間	3670	2.0間	3610
2.5間	4580	2.5間	4520
3.0間	5490	3.0間	5430

(1) 腰壁ベース材 (正面用) の加工



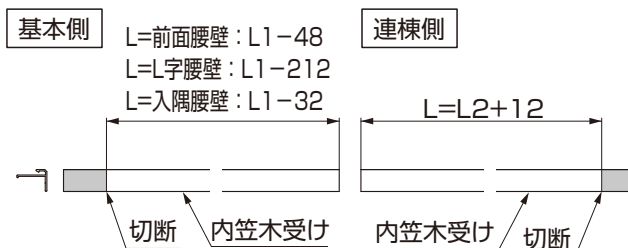
①部材を加工してください。

(2) 外笠木受け (正面用) の加工



①部材を加工してください。

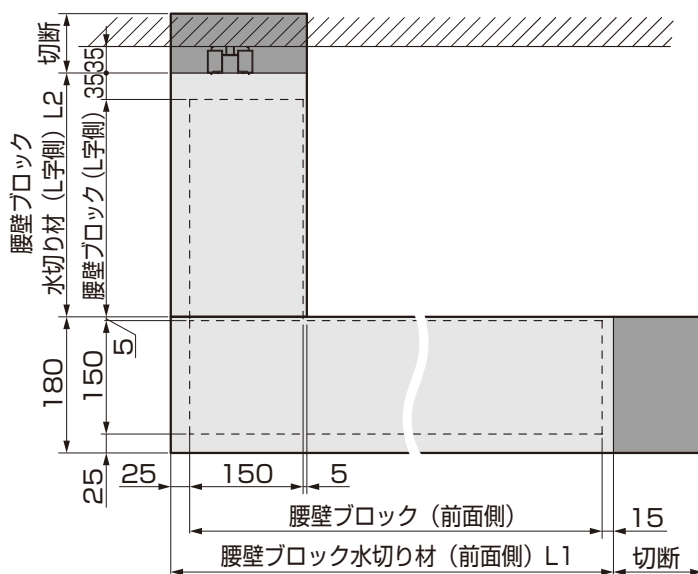
(3) 内笠木受け (正面用) の加工



①部材を加工してください。

2. 腰壁ブロック水切り材の取付け

2-1 腰壁ブロック水切り材の加工



- ①腰壁ブロック水切り材の取付け位置と長さを確認してください。
- ②腰壁ブロック水切り材を腰壁ブロックに合わせて切断してください。

サイズ	前面腰壁		L字腰壁		入隅腰壁	
間口	L1	切断寸法	L1	切断寸法	出幅	L2
1.0間	2430	450	2040	840	2015	865
1.5間	3230	250	3040	440	3015	465
2.0間	4030	50	3840	240	3815	265
2.5間	4830	390	4740	480	4715	505
3.0間	6030	390	5740	680	5715	705
3.5間(連棟)	6630	930	6640	920	6615	945
4.0間(連棟)	7630	1070	7540	1160	7515	1185
4.5間(連棟)	8630	1270	8440	1460	8415	1485
5.0間(連棟)	9430	1070	9340	1160	9315	1185
5.5間(連棟)	10430	1210	10240	1400	10215	1425
6.0間(連棟)	11430	1410	11240	1600	11215	1625
間口延長	+1600	680	+1600	680	+1600	680
出幅	L2	切断寸法	L2	切断寸法	L2	切断寸法
4尺			1140	0		
6尺			1740	0		
8尺			2340	0		
10尺			2940	540		

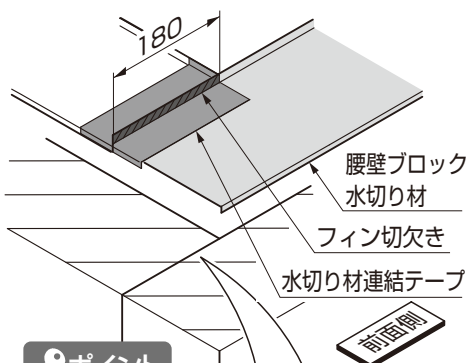
※数値は目安寸法です。現場状況(施工状況)に合わせて切断寸法を確認してください。

2-2 腰壁ブロック水切り材の取付け

【L字腰壁の場合】

ポイント

- 前面側の腰壁ブロック水切り材のフィン切欠き加工してください。
- L字側の腰壁ブロック水切り材を前面側に突き当て、水切り連結テープを貼付けてください。



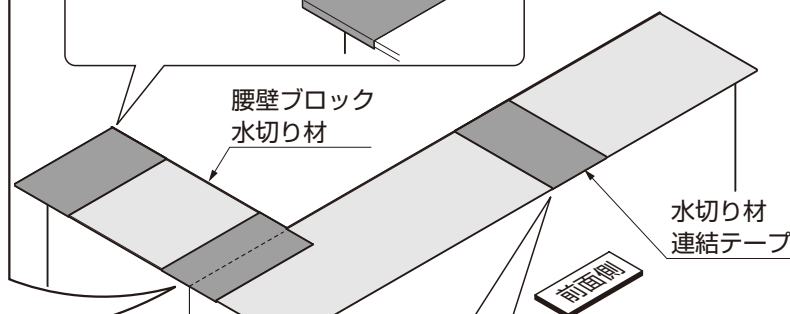
ポイント

- 腰壁ブロック天面は前面側とL字側に段差がないよう平滑に仕上げてください。

ポイント

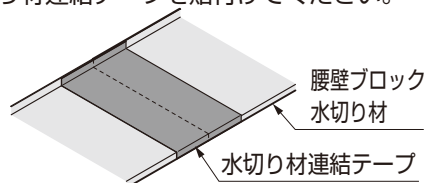
- 水切り材連結テープを躯体側端部に貼付けてください。

水切り材連結テープ

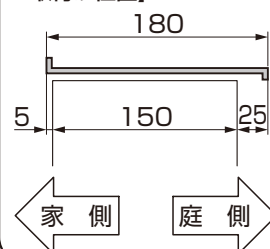


ポイント

- 腰壁ブロック水切り材を突き当て、水切り材連結テープを貼付けてください。

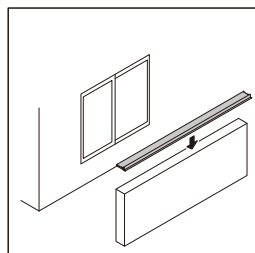


【腰壁ブロック水切り材取付け位置】



- ①腰壁ブロック水切り材を腰壁ブロックに取付けてください。
- ②水切り材連結テープを腰壁ブロック水切り材に貼付けてください。

3. 腰壁ベース材の取付け



水平

F.L.

ポイント

- 腰壁ブロックが水平でない場合は、腰壁ベース材が水平になるようにスペーサーを腰壁ブロック水切り材との間にはさみ、水平になるように調整してください。

スペーサー
(1mm)

腰壁ブロック

【L字腰壁の場合】

ポイント

- 指定の箇所には必ずシーリングしてください。

腰壁ベース材

バック
アップ材

躯体側

シーリング材

腰壁ベース材

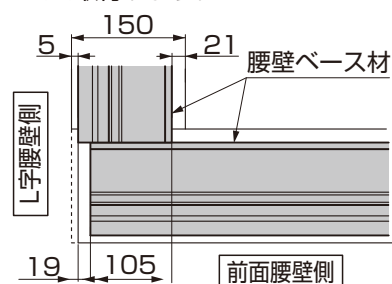
スペーサー(1mm)

躯体側

【1-10】、【33-1】
M8用座金付ナット【1-10】、【33-1】
M8×50
打ち込み式アンカー

ポイント

- L字腰壁側を前面腰壁側に突き当てて取付けます。

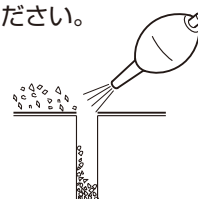


ポイント

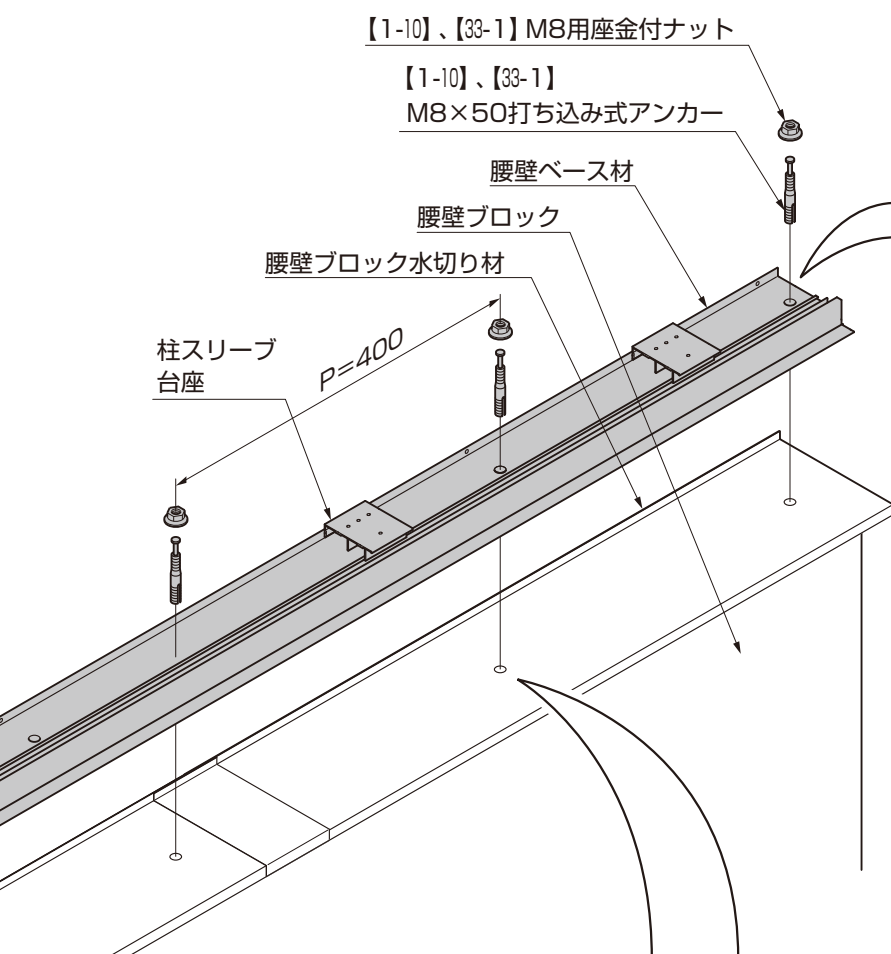
- 前面側と側面側の腰壁ベース材に段差が生じる場合は、スペーサーをはさみ、高さを合わせるように調整してください。

ポイント

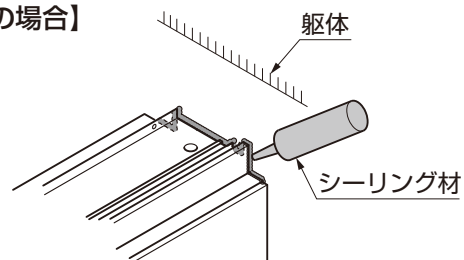
- 腰壁ブロックに穴をあけた後、穴にたまっている粉を吹き出してください。



- ①腰壁ベース材の躯体側面～躯体間をD寸法で位置決めしてください。(図2-1参照)
- ②腰壁ブロックにφ8.5、深さ35の穴をあけてください。
- ③バックアップ材を腰壁ベース材の躯体側に取付け、シーリングしてください。
- ④腰壁ベース材を腰壁ブロックに【1-10】、【33-1】で取付けてください。
- ⑤取付けた【1-10】、【33-1】の周りをシーリングしてください。



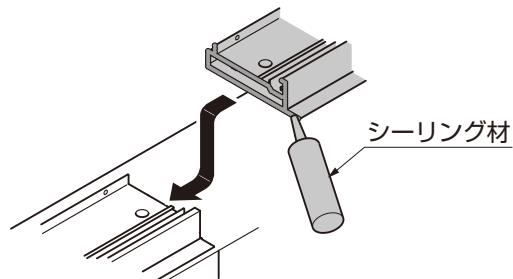
【入隅の場合】



ポイント

- 腰壁ベース材を躯体の取合せ部にシーリングしてください。

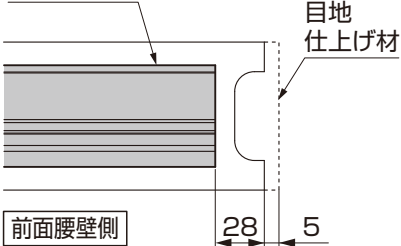
【連棟の場合】



ポイント

- 腰壁ベース材にシーリングして取付けてください。

腰壁ベース材



ポイント

- 腰壁ベース材の端部は腰壁ブロック端部より28.5mmの位置で取付けてください。
- アンカー穴まわりには、必ず雨水侵入防止のため、十分なシーリングをしてください。
- 柱台座スリーブとアンカー固定穴が重なる場合は、柱スリーブ台座を外してアンカー固定後、柱スリーブ台座を付け直してください。

【腰壁ベース材取付位置】

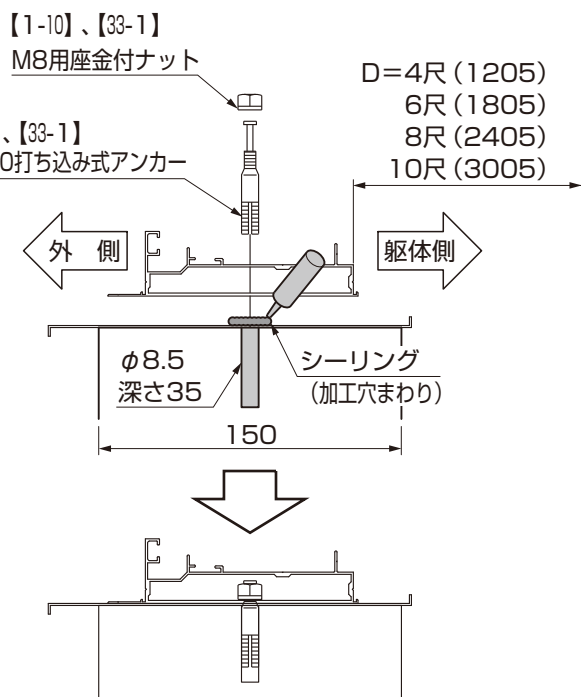


図2-1

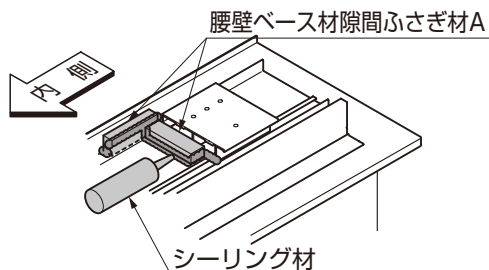
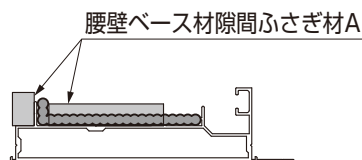
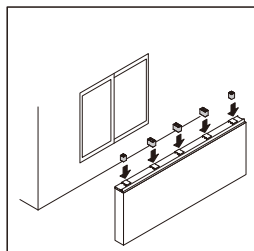
13 フレーム部の施工

1. 柱スリーブの取付け

腰壁

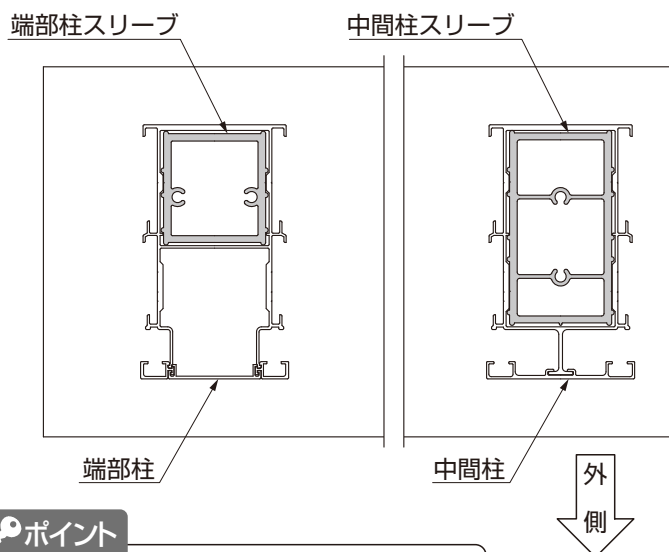
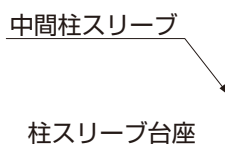
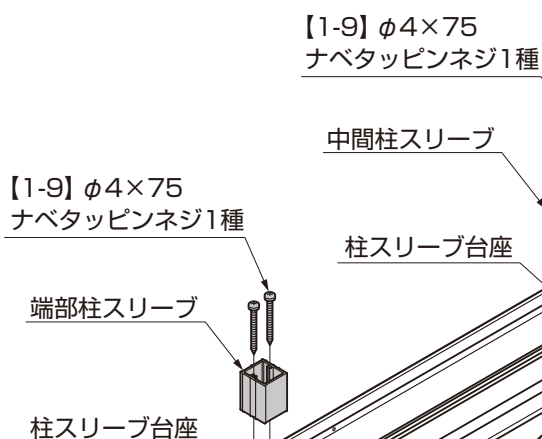
地域

※全仕様で行なう作業です。



ポイント

- 端部柱用の柱スリーブ台座の内側に腰壁ベース材隙間ふさぎ材Aを張付け、シーリングしてください。



ポイント

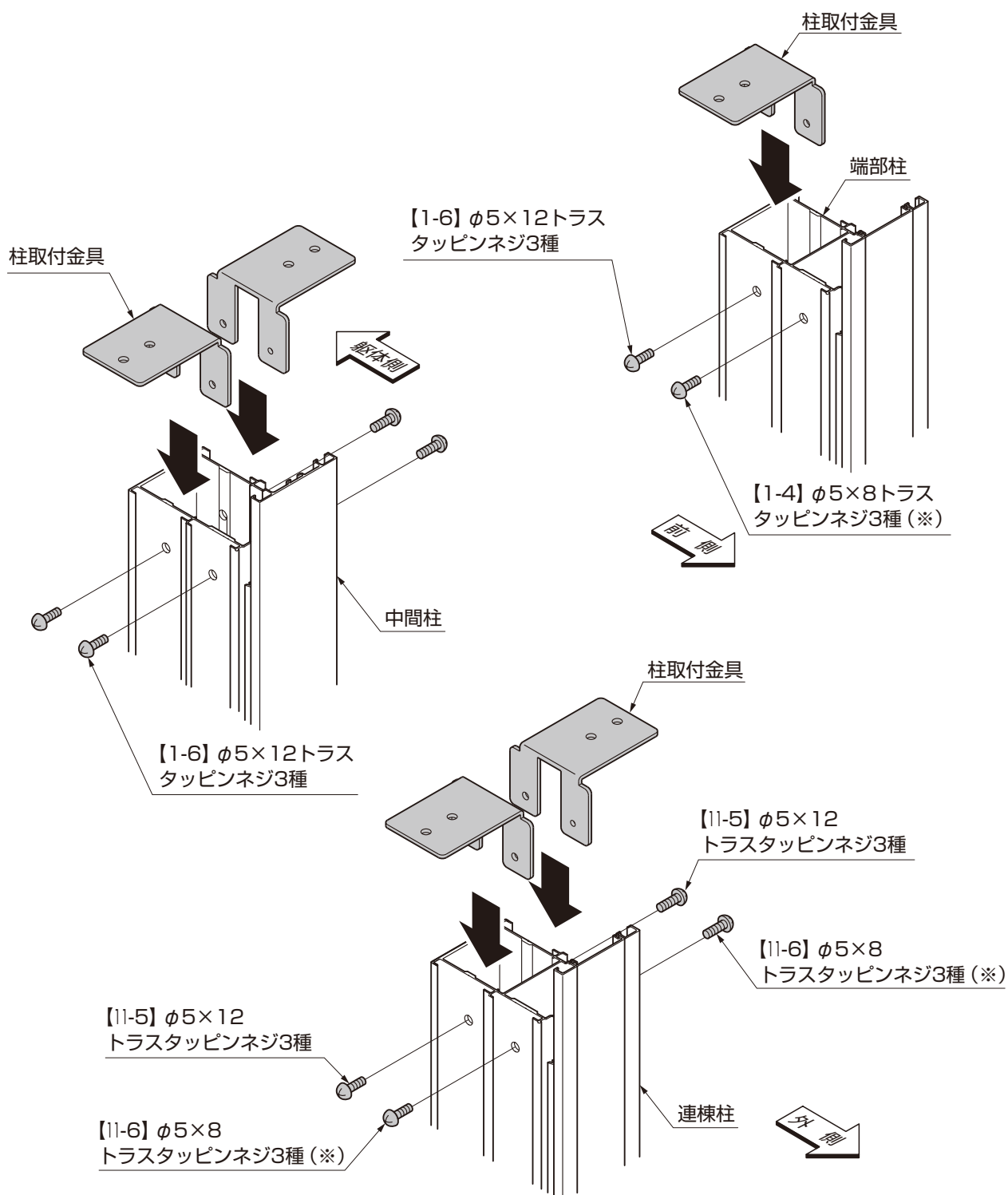
- 柱スリーブには取付けの向きがあります。

①中間柱スリーブ、端部柱スリーブを柱スリーブ台座に【1-9】で取付けてください。

2. 柱の組立て

ポイント

●図は右側を示しています。左側は左右対称です。



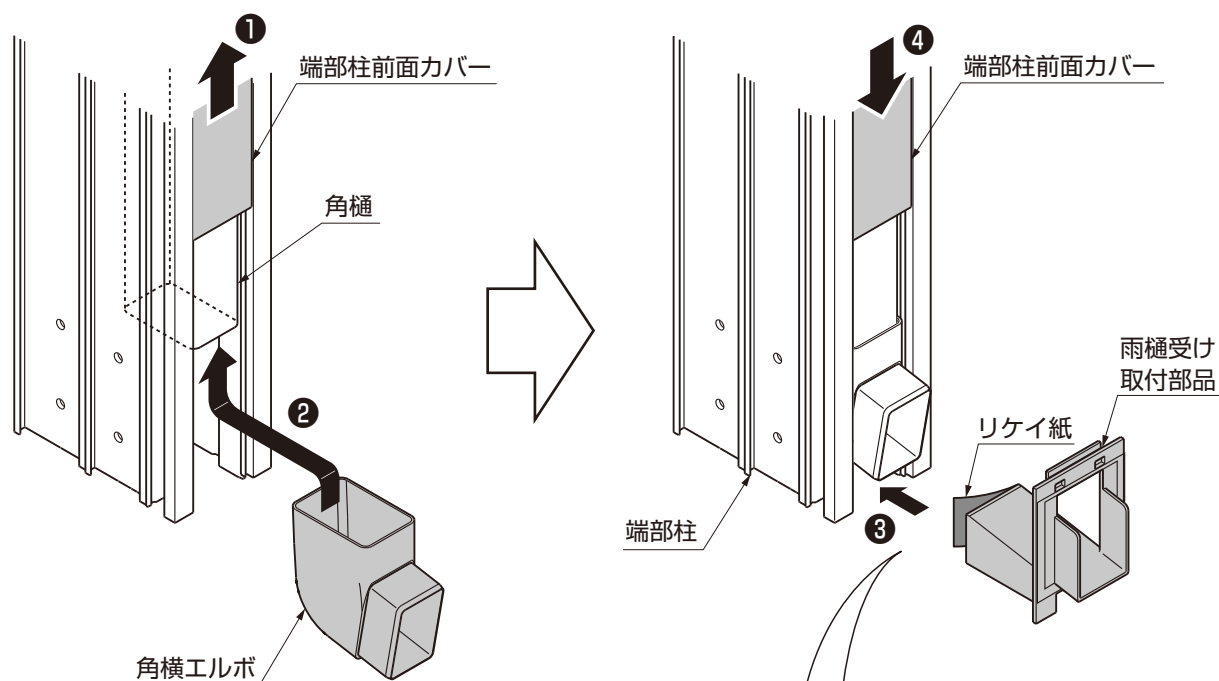
①柱取付金具を柱に【1-4】、【1-6】、【11-5】、【11-6】で取付けてください。

ポイント

●端部柱、連棟柱の前側は雨樋と干渉しないよう「 $\phi 5 \times 8$ トラスタッピンネジ3種」を使用してください。(※)

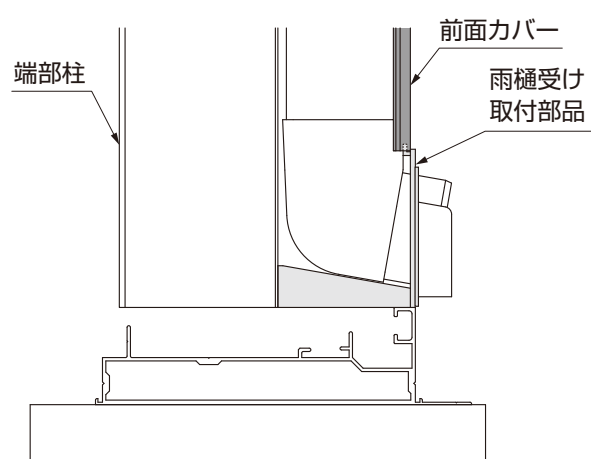
3. 雨樋の取付け

3-1 通常排水の場合



ポイント

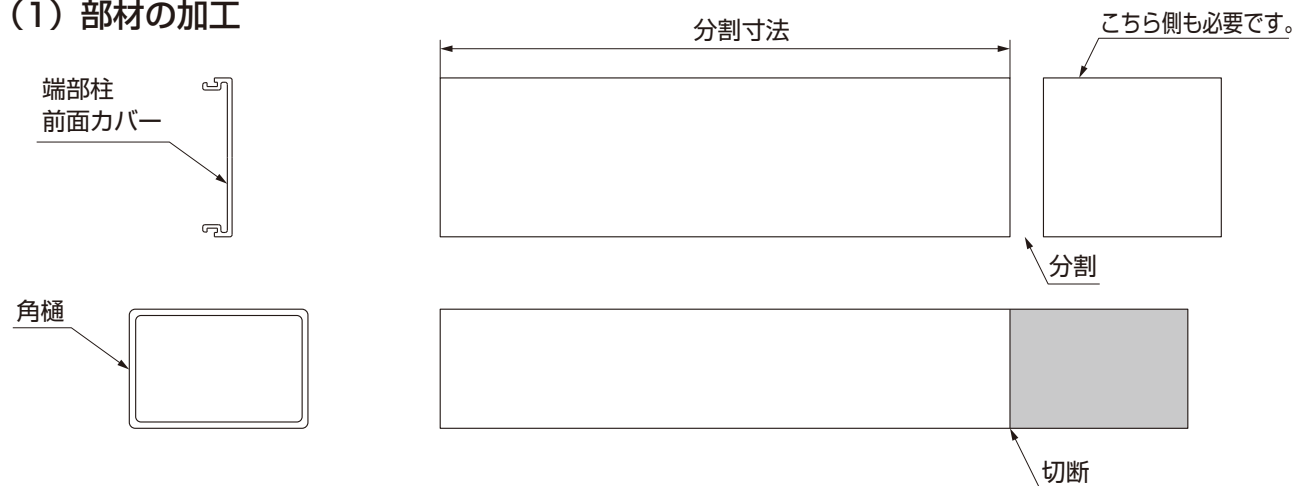
●雨樋受け取付部品の上に前面カバーを乗せてください。



- ①端部柱前面カバーを持ち上げ、角樋の下端に角横エルボを取付けてください。
- ②雨樋受け取付部品のリケイ紙をはがし、端部柱に取付けてください。
- ③端部柱前面カバーを下ろし、雨樋受け取付部品に乗せてください。

3-2 下排水の場合 ※積雪対応や障害物を避けるため排水位置を上方に変更する方法です。

(1) 部材の加工

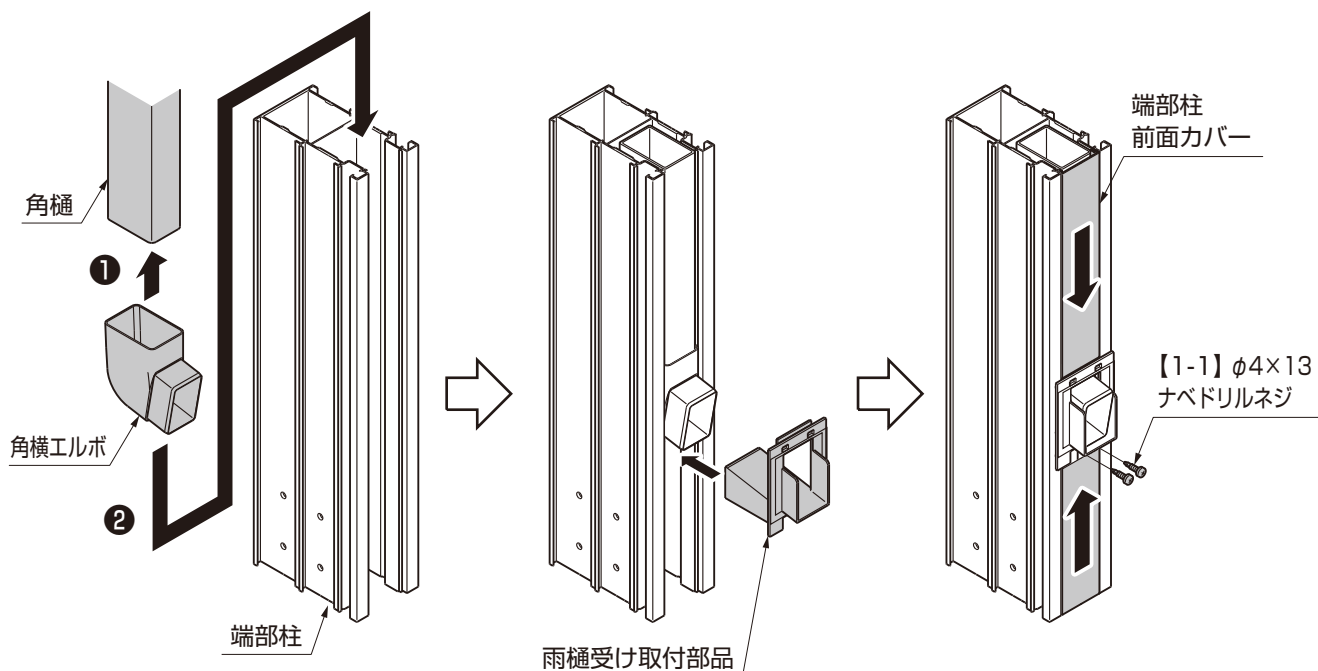


①端部柱から端部柱前面カバー、角樋を引抜き切断・分割してください。

ポイント

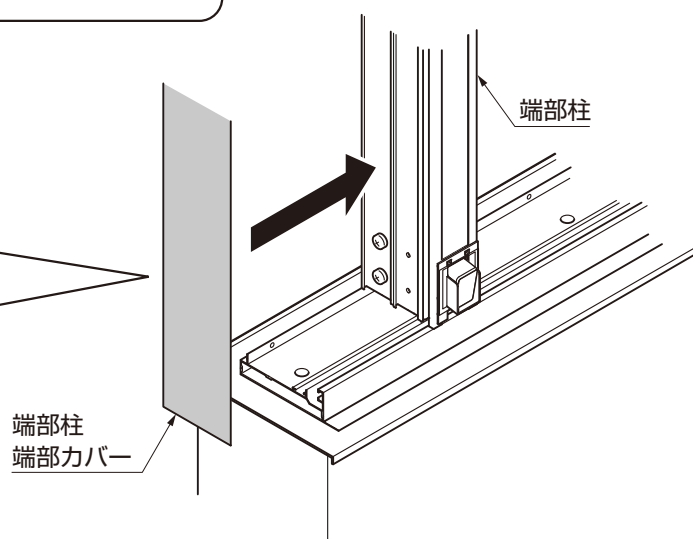
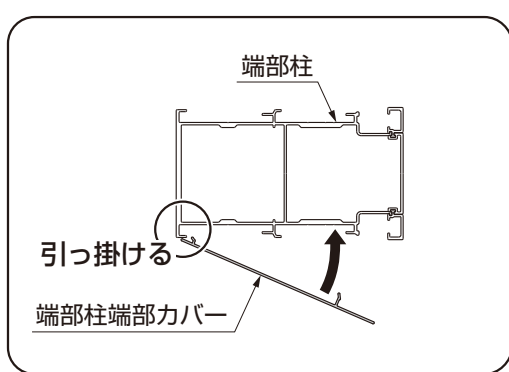
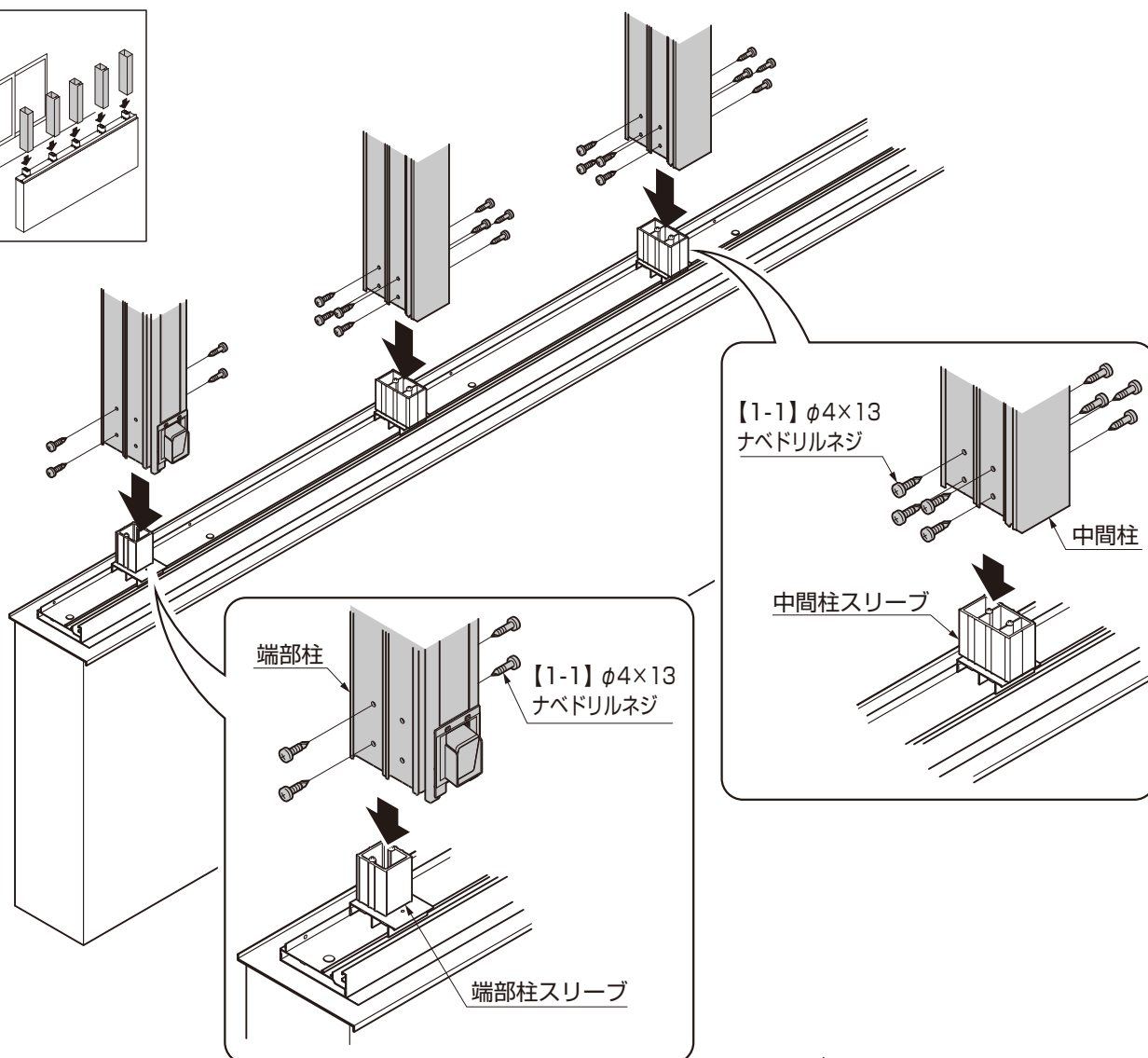
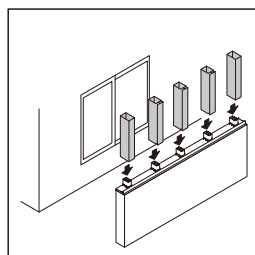
- 排水位置の上限は雨樋受け部品上部の端部柱前面カバーが100mm未満にならない位置までです。
- 端部柱内角樋のL寸は、「(切断前の角樋長さ) - (端部柱前面カバー分割寸法)」より求められます。

(2) 排水口の高さ調整



- ①角横エルボを角樋に取付け、端部柱にセットしてください。
- ②雨樋受け取付部品を端部柱にセットしてください。(ネジ固定はしないでください。)
- ③上下の端部柱前面カバーで雨樋受け取付部品をはさんでください。
- ④この位置で雨樋受け取付部品を端部柱に【1-1】で固定してください。

4. 柱の建込み



- ① 中間柱を中間柱スリーブに【1-1】で取付けてください。
- ② 端部柱を端部柱スリーブに【1-1】で取付けてください。
- ③ 端部柱端部カバーを端部柱に取付けてください。

腰壁	地域
※全仕様で行なう作業です。	

5. 入隅の場合

※図は右入隅の場合を示します。左入隅の場合は対象です。

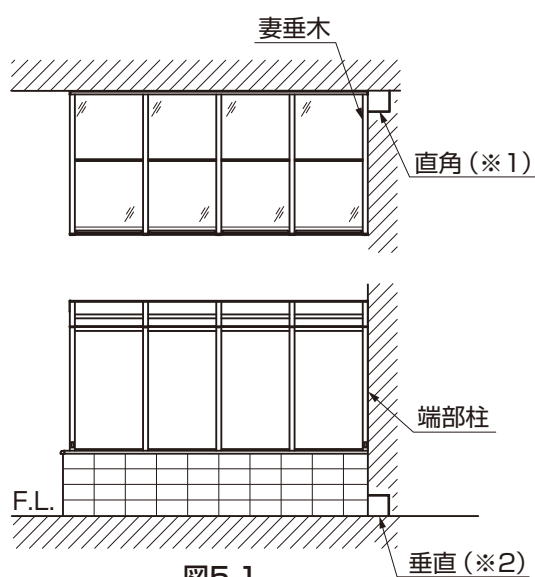


図5-1

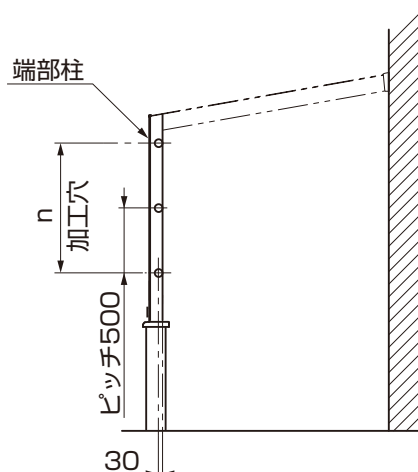


図5-2

表5-1

	加工穴n
標準	4
ロング	5

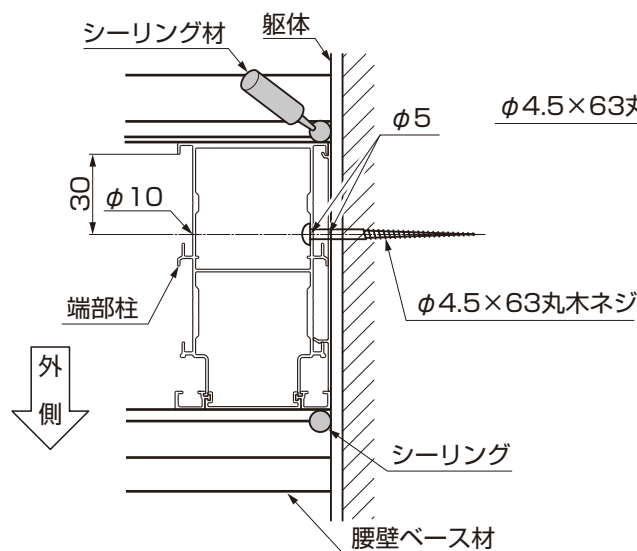


図5-3

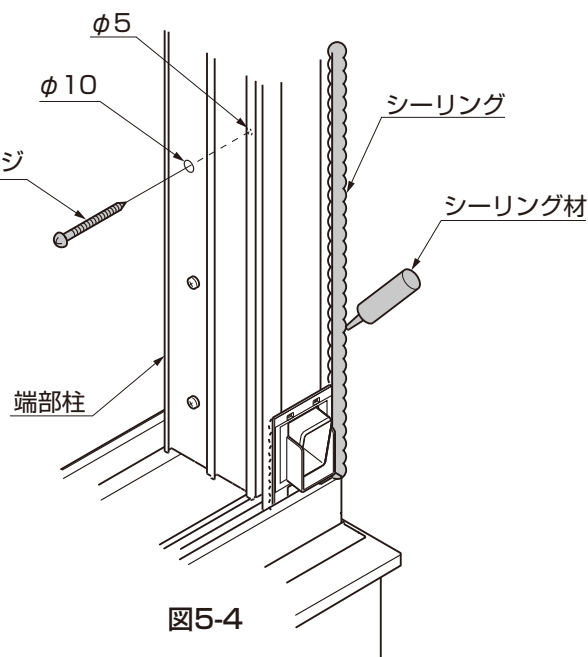


図5-4

ポイント

●躯体外壁の直角度(※1)、垂直度(※2)に狂いが生じている場合は、取付けることができませんので、修正してください。修正時の部材については、現場で手配してください。(図5-1参照)

①入隅側の端部柱に、φ10、φ5の穴をあけてください。(図5-1、図5-2、表5-1参照)

②端部柱と躯体を、「φ4.5×63丸木ネジ」で取付けてください。(図5-3、図5-4参照)

ポイント

●「φ4.5×63丸木ネジ」は、現場で手配してください。

③端部柱と躯体の取合せ部にシーリングをしてください。(図5-3参照)

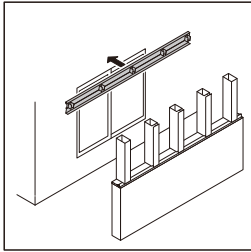
ポイント

●指定の箇所には、必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。

●躯体取付面の凹凸が大きい場合は、バックアップ材などを現場手配して取付面の止水性を確保してください。

6. 垂木掛けの取付け

6-1 垂木掛けの取付け



補足

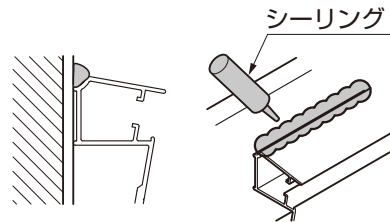
- 躯体方立を取付けている場合は垂木掛けを躯体方立に乗せて取付けてください。
- 垂木掛けの取付け位置は「5 基本寸法」を参照してください。

ポイント

- 垂木掛けの躯体取付け面に凹凸が大きい場合は、バックアップ材などを現場手配して取付け面の止水性を確保してください。
- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。雨漏りの原因になります。
- 指定以外の箇所には、シーリングをしないでください。室内側へ雨水を誘引する原因になります。

ポイント

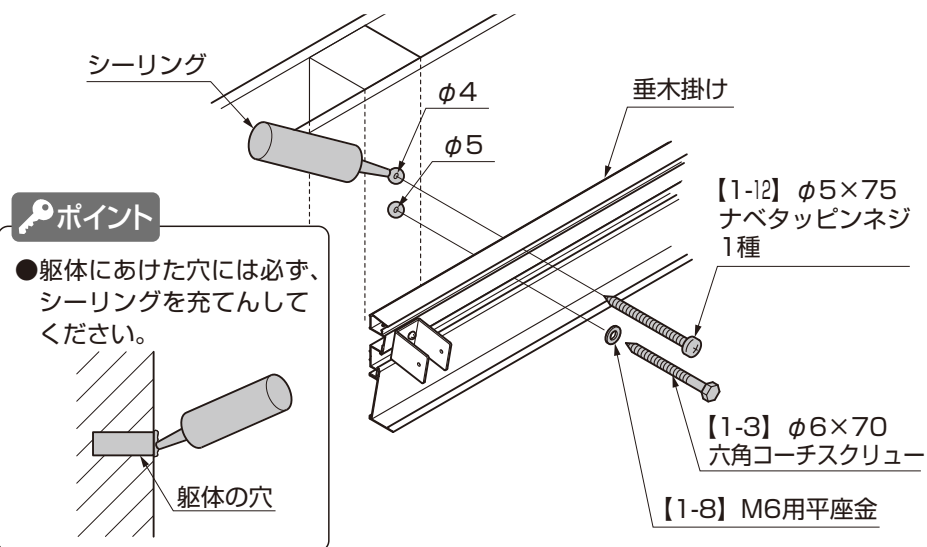
- 指定の箇所には、雨水浸入防止の為、必ずシーリングをしてください。



【積雪地域】

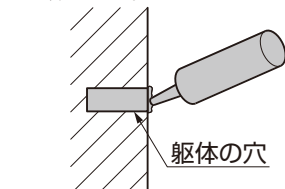


(積雪地域3000N(100cm相当)仕様の場合)



ポイント

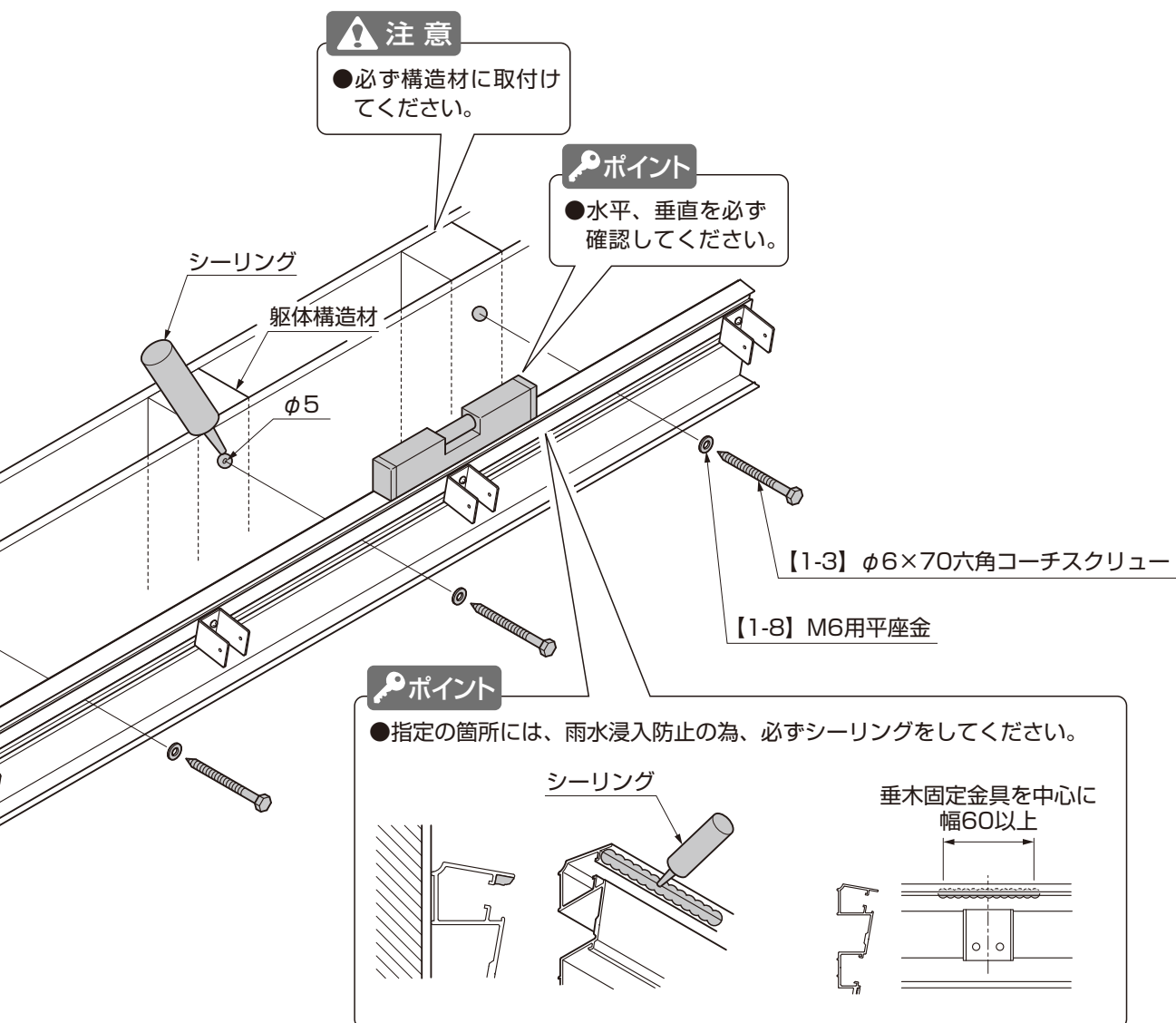
- 躯体にあけた穴には必ず、シーリングを充て込んでください。



【一般地域】



- ① 躯体に垂木掛け取付け用の穴をけがいてφ5の穴をあけてください。
- ② 躯体にあけた穴にシーリングをしてください。
- ③ 垂木掛けを躯体の構造材に【1-3】、【1-8】で取付けてください。



【積雪地域】 (積雪地域1500N (50cm相当)仕様の場合)

- ① 躯体に垂木掛け取付け用の穴をけがいてφ5の穴をあけてください。
- ② 躯体にあけた穴にシーリングをしてください。
- ③ 垂木掛けを躯体の構造材に【1-3】、【1-8】で取付けてください。

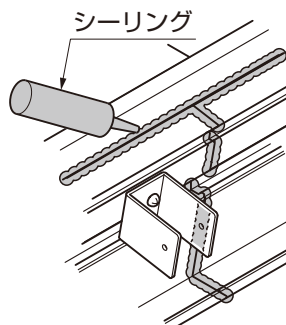
【積雪地域】 (積雪地域3000N (100cm相当)仕様の場合)

- ① 躯体に垂木取付け用の穴をけがいてφ4とφ5の穴をあけてください。
- ② 躯体にあけた穴にシーリングをしてください。
- ③ 垂木掛けを躯体の構造材に【1-3】、【1-8】と【1-12】で取付けてください。

6. (つづき)

6-2 連棟、垂木LED照明 **オプション**、入隅仕様の場合

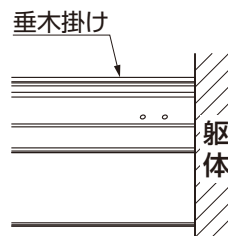
(1) 連棟の場合



ポイント

- 指定の箇所には、雨水浸入防止の為、必ずシーリングをしてください。

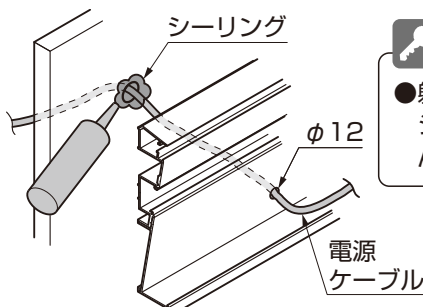
(3) 入隅仕様の場合



ポイント

- 垂木掛け側面を躯体に突き当てて取付けてください。

(2) 垂木LED照明 **オプション**



ポイント

- 躯体にあけた穴にシーリングを充填してください。

図6-1 躯体に穴をあけて配線する場合

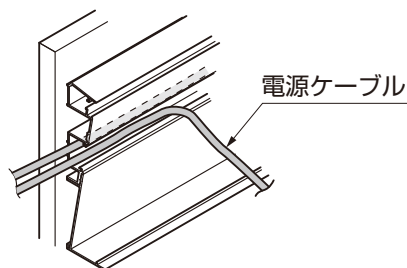


図6-2 垂木掛けの溝を利用する場合

(1) 連棟の場合

- ① 垂木掛けの連結箇所にシーリングをしてください。

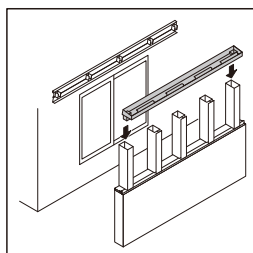
(2) 垂木LED照明 **オプション**

- ① 躯体に穴をあけて配線する場合は、「**8 施工前の準備** 2.配線工事」を参照して電源ケーブルを通す位置の垂木掛けにφ12の穴をあけ、躯体から配線してください。

(3) 入隅仕様の場合

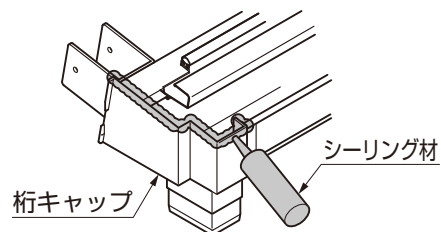
- ① 垂木掛けを躯体にあてがい取付けてください。

7. 桁の取付け



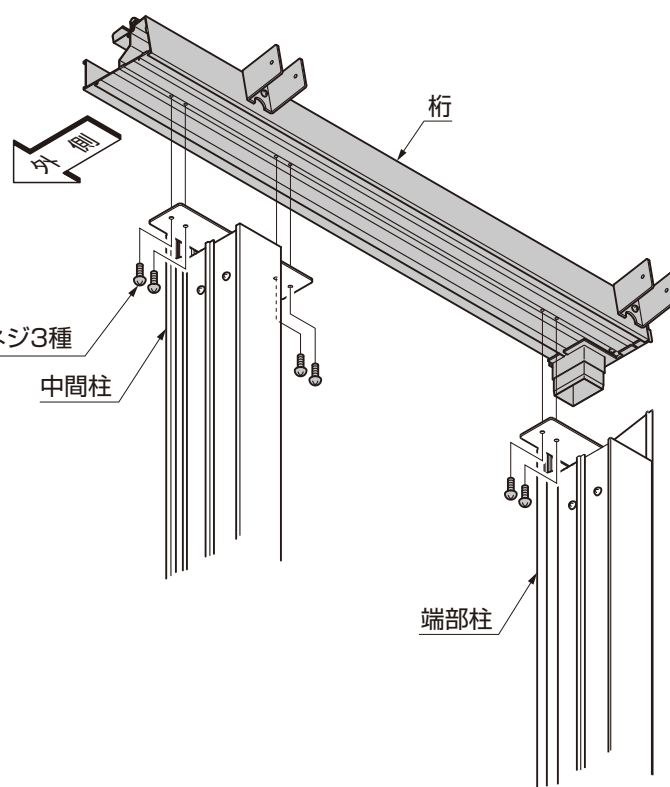
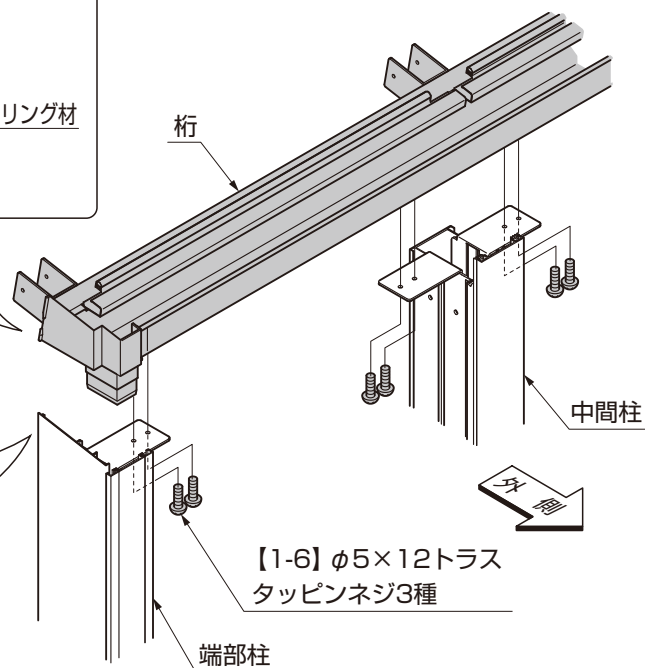
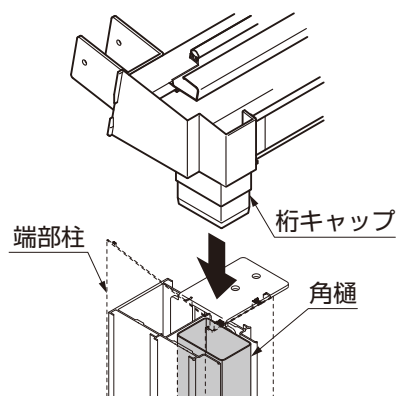
ポイント

- 指定の箇所には、雨水侵入防止のため、必ずシーリングをしてください。



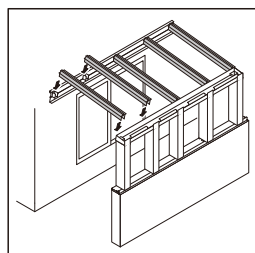
ポイント

- 桁キャップを角樋に挿入してください。



- ①桁キャップをシーリングしてください。
- ②桁を端部柱、中間柱に【1-6】で取付けてください。

8. 妻垂木・垂木の取付け



ポイント

- 妻垂木には左右の向きがあります。ビード材が付いている側を内側にして取付けてください。

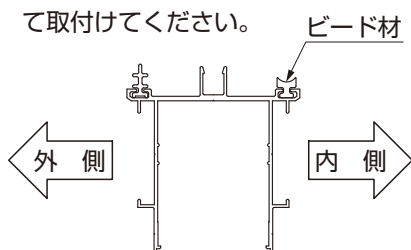
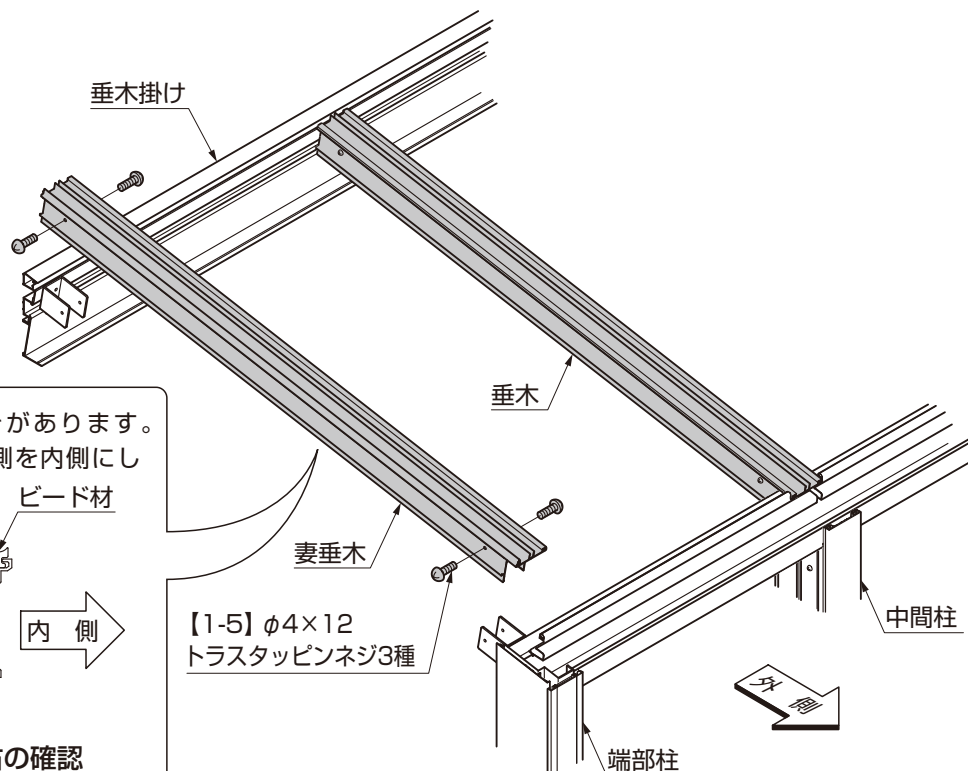


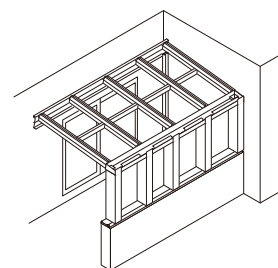
図8-1 妻垂木左右の確認



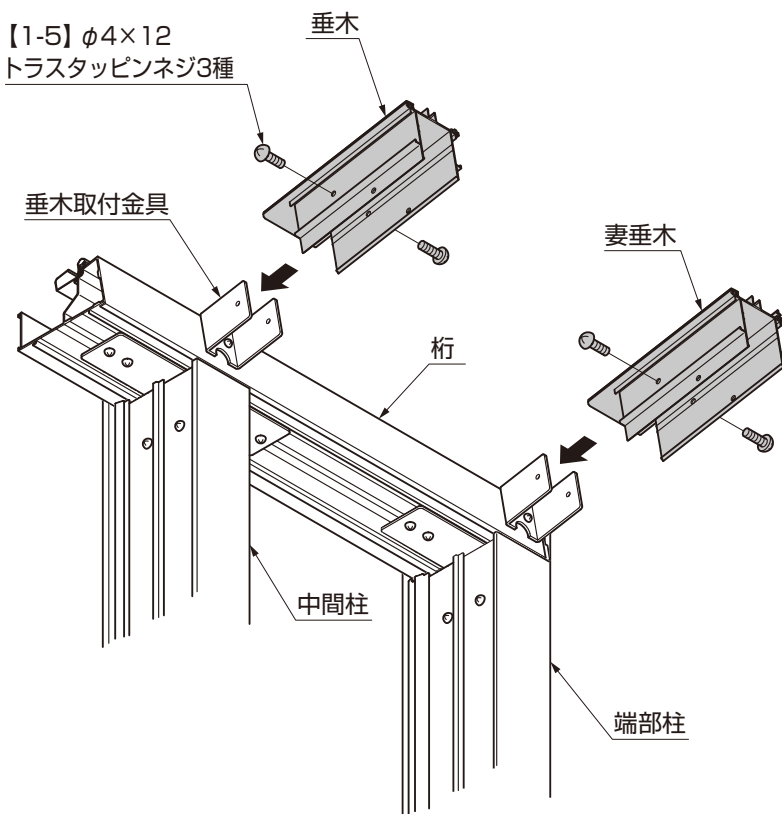
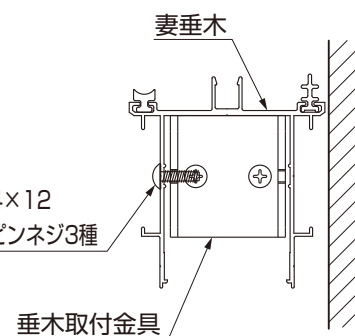
ポイント

【入隅仕様の場合】

- 【1-5】を片側だけ取付けてください。



【1-5】φ4×12
トラスタッピンネジ3種



①妻垂木、垂木を垂木取付金具に【1-5】で取付けてください。

9. 中骨の取付け

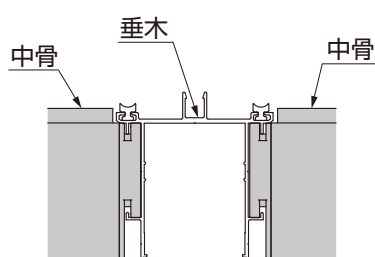
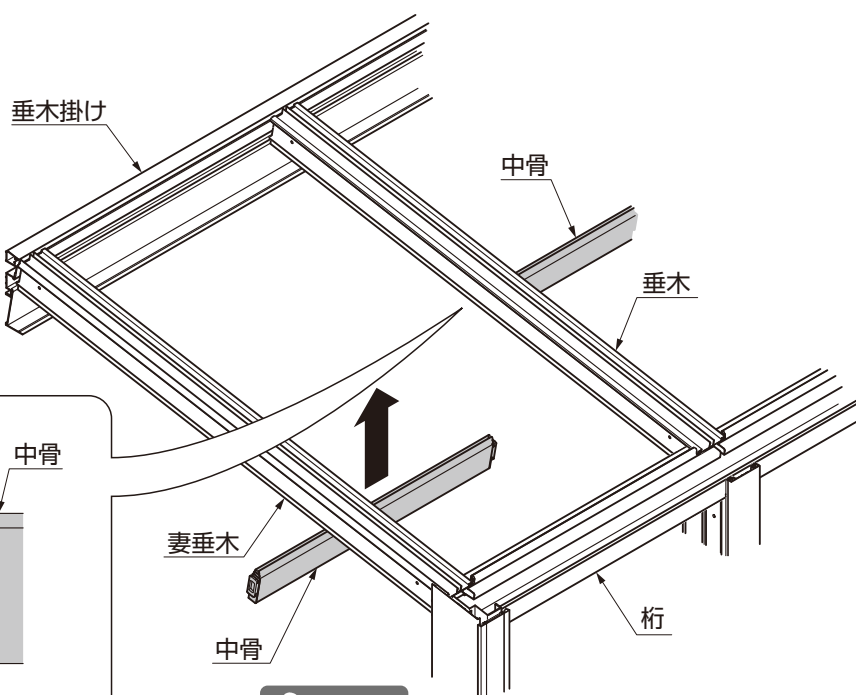
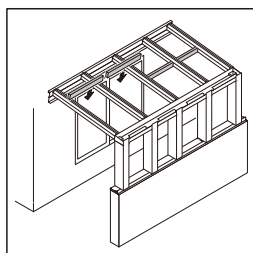


図9-1 中骨取付け位置

ポイント

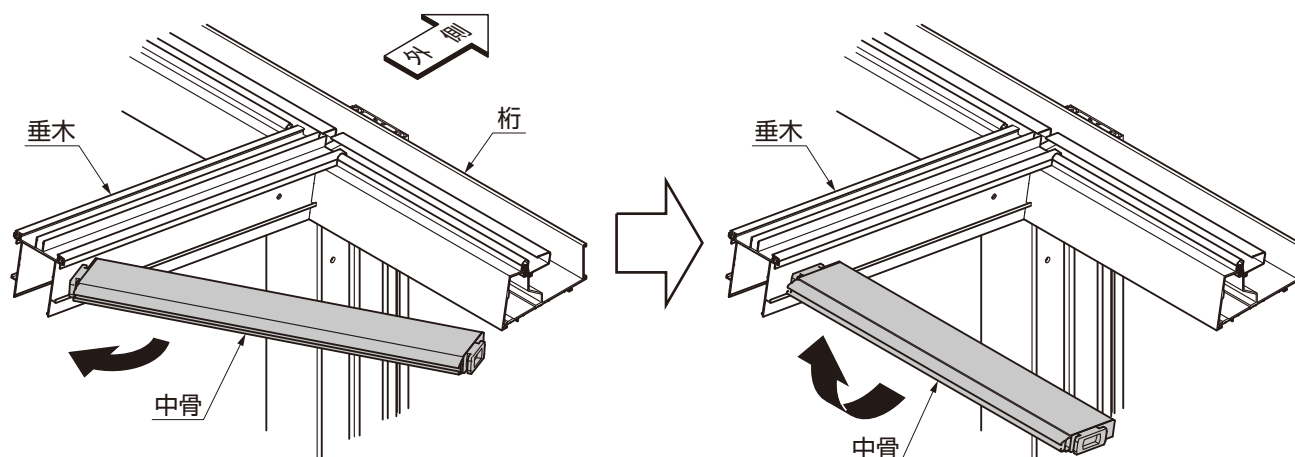
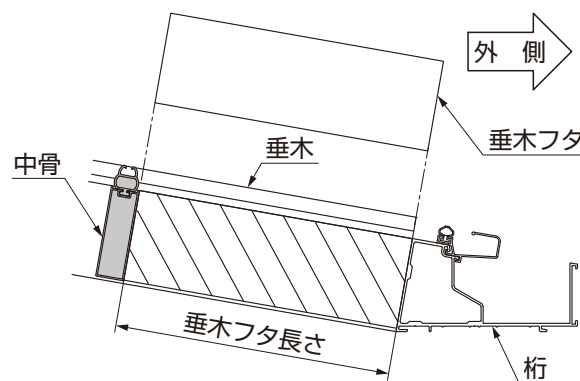
- 仕様によって中骨の本数が異なります。

表9-1 1スパン当りの中骨本数

	4尺	6尺	8尺	10尺
600N	—	1	1	2
1500N・3000N	1	2	3	—

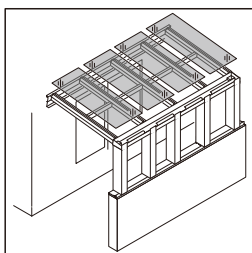
ポイント

- 垂木フタの長さを目安に中骨のおおよその位置を決めてください。中骨は後で動かすことができます。



- ①中骨を垂木間に回転しながら、はめ込んでください。

10. 屋根材の取付け



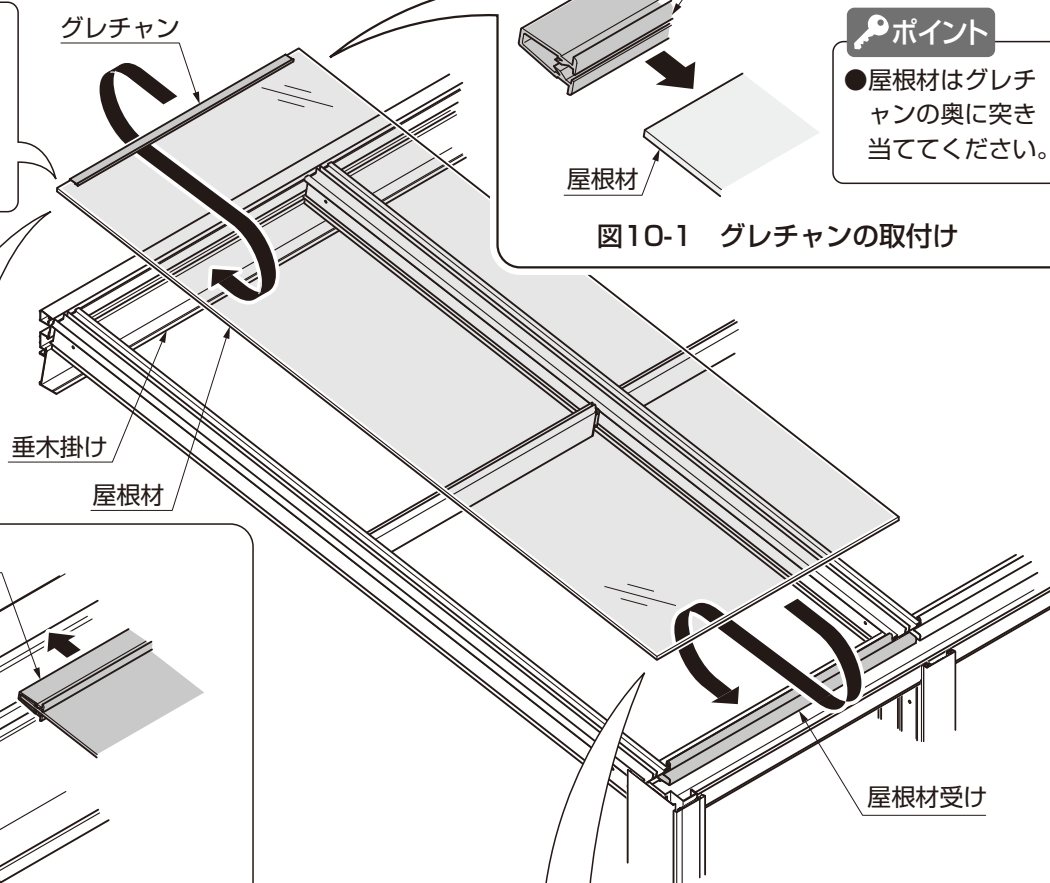
ポイント

- 左右どちらかの妻垂木より、1スパンごとに取付けてください。
- 垂木掛けにしっかり差し込んでください。
- 屋根材には耐候面（裏表）があります。ラベルの貼付け面を確認の上、取付け間違いのないように注意してください。

ポイント

- グレチャンからの屋根材のはみ出し幅が左右均等になるようにしてください。

グレチャン



ポイント

- 屋根材はグレチャンの奥に突き当ててください。

図10-1 グレチャンの取付け

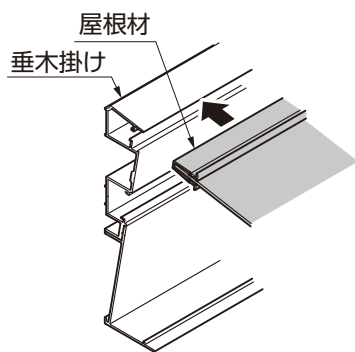


図10-2 屋根材の取付け

ポイント

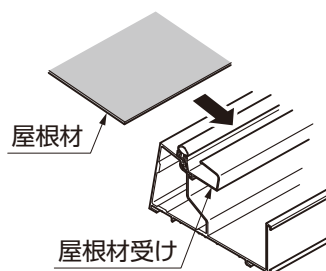
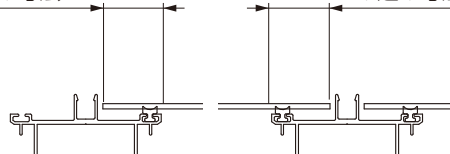
- 屋根材ののみ込みが左右均等になるようにしてください。

屋根材

のみ込み寸法：A

屋根材

のみ込み寸法：A



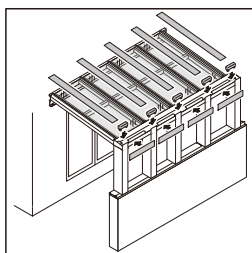
ポイント

- 屋根材のはみ出しが左右均等になるように屋根材受けをスライドしてください。

図10-3 屋根材の取付け

- ①グレチャンを屋根材に取付けてください。
- ②屋根材を垂木掛けに差し込んでください。（図10-1参照）
- ③屋根材を屋根材受けに、差し込んでください。（図10-2、図10-3参照）

11. 垂木カバーの取付け

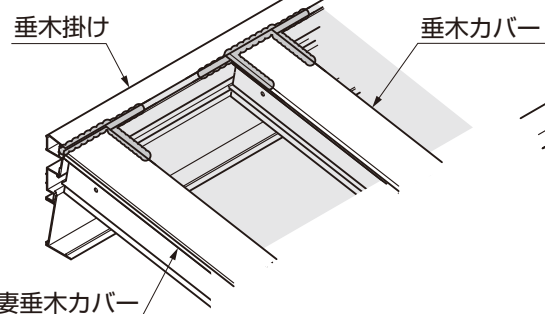


ポイント

●指定の箇所には、必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。

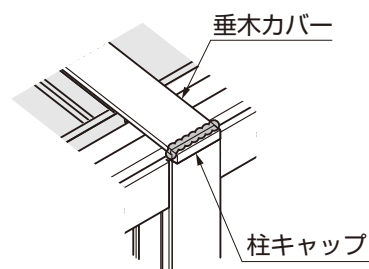
11-1 シーリング箇所一覧

11-5 垂木カバーの取付け…(P.69)

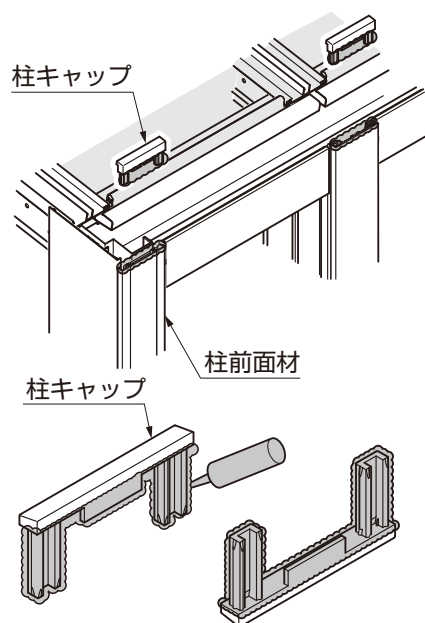


【入隅仕様】

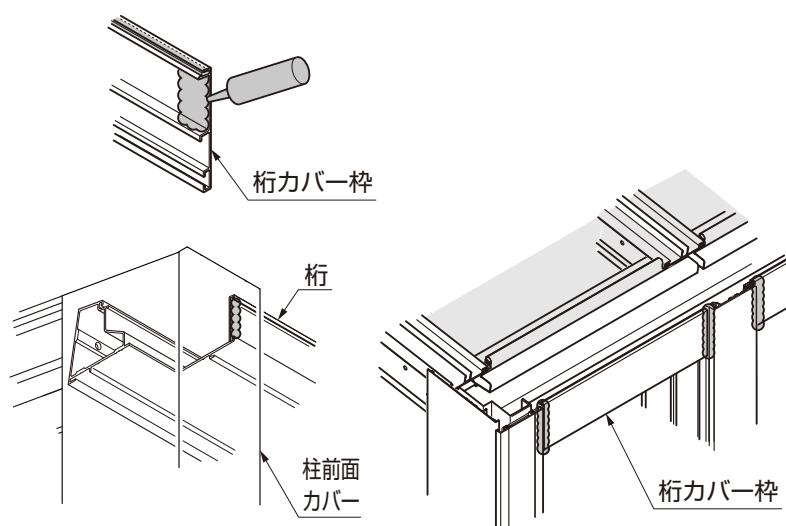
11-5 垂木カバーの取付け…(P.69)



11-3 柱キャップの取付け…(P.67)



11-2 桁カバー枠の取付け…(P.66)

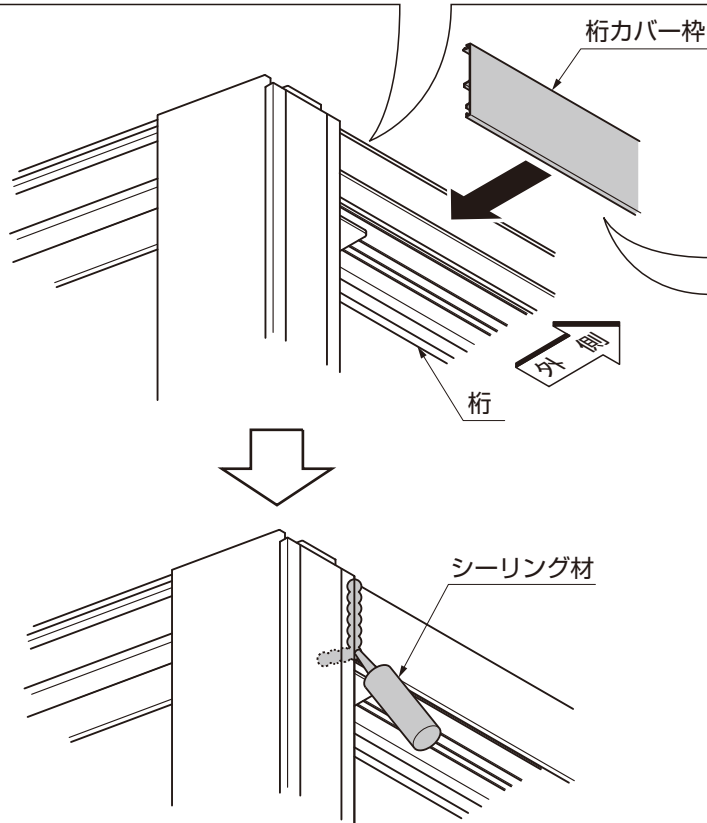
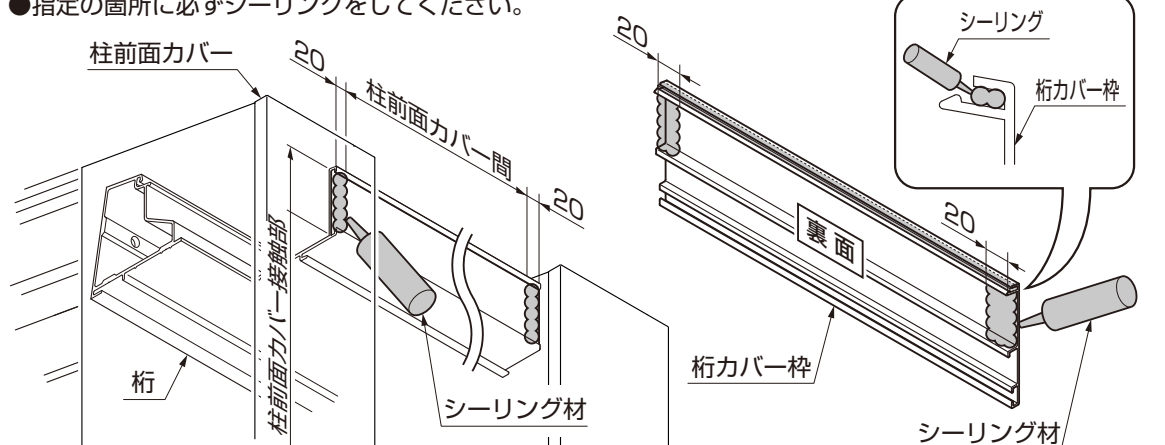


11. (つづき)

11-2 桁カバー枠の取付け

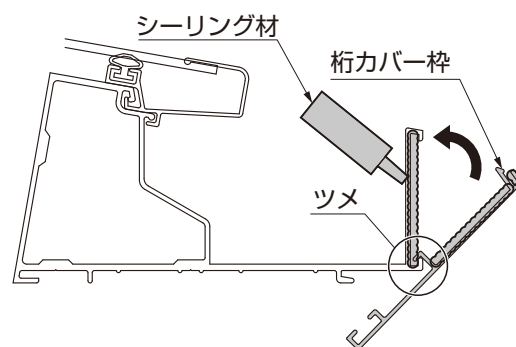
ポイント

- 指定の箇所に必ずシーリングをしてください。



ポイント

- 桁カバー枠を桁のツメに引っ掛けてはめ込んでください。



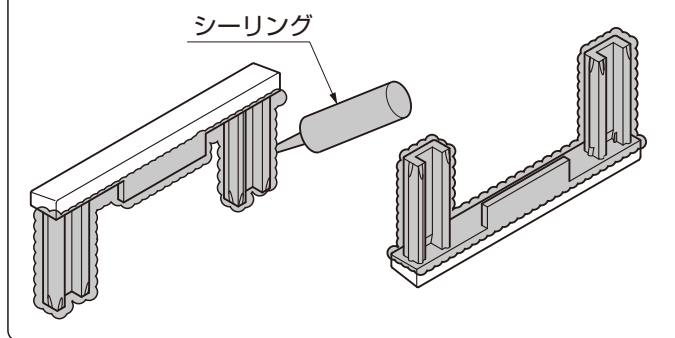
- ①桁の柱前面カバー接触部に幅20mmで縦に、前側の柱前面の上部にシーリングをしてください。
- ②桁カバー枠の裏側の両端に幅20mm程度の幅でシーリングをしてください。
- ③桁カバー枠の上側溝部に横通しでシーリングをしてください。
- ④桁カバー枠を桁にはめこんでください。
- ⑤桁カバー枠の両端部にシーリング材をしてください。

ポイント

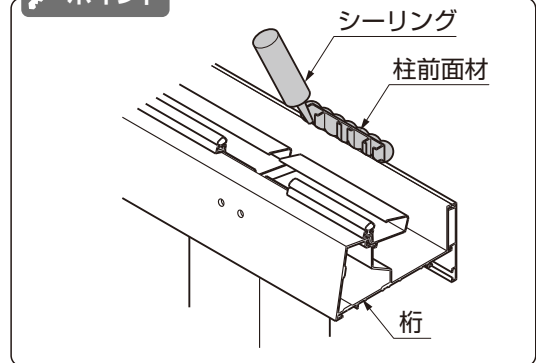
- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。雨漏りの原因になります。
- 指定以外の箇所には、シーリングをしないでください。室内側へ雨水を誘引する原因になります。

11-3 柱キャップの取付け

ポイント

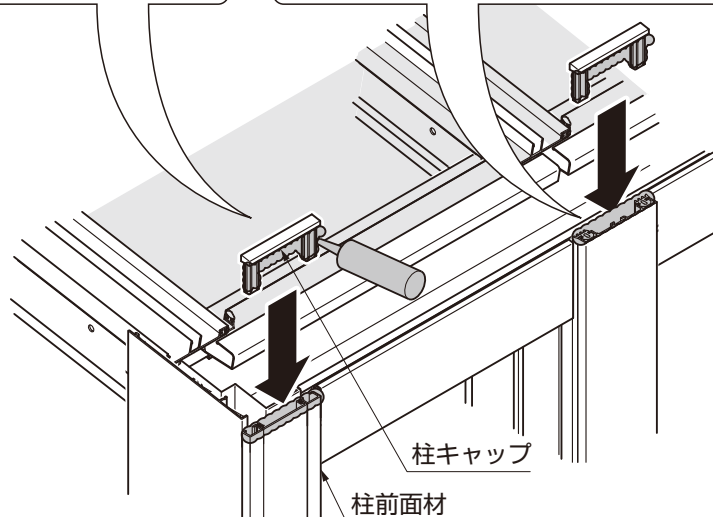


ポイント



ポイント

- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。雨漏りの原因になります。
- 指定以外の箇所には、シーリングをしないでください。室内側へ雨水を誘引する原因になります。



- ①柱前面材と桁の間のすき間をふさぐように、シーリングをしてください。
- ②柱キャップにシーリングをしてください。
- ③柱キャップを端部柱前面材、柱キャップを前面材にはめ込んでください。

11-4 垂木カバー端部キャップの取付け

※積雪地域3000N仕様の場合の作業です。

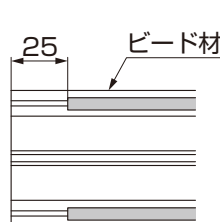
地域



ポイント

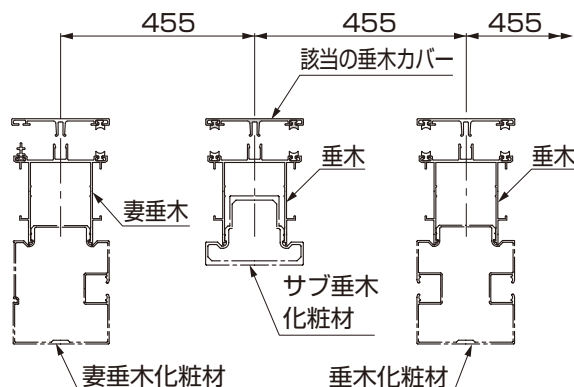
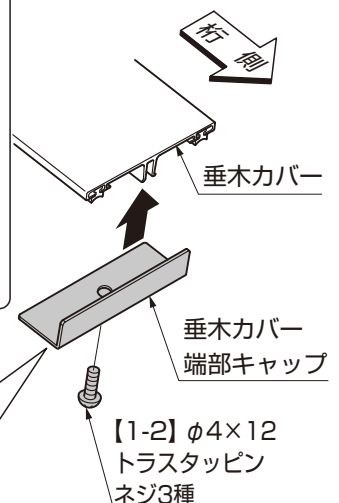
- 垂木カバーのビード材が25mm短い方を桁側にしてください。

桁側



ポイント

- 垂木カバー端部キャップは垂木カバーを垂木に取付ける前に行ってください。



- ①サブ垂木に取付ける垂木カバーの桁側に垂木カバー端部キャップを【1-2】で取付けてください。

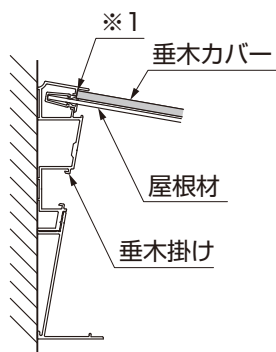
11. (つづき)

11-5 垂木カバーの取付け

(1) 垂木カバーのはめ込み

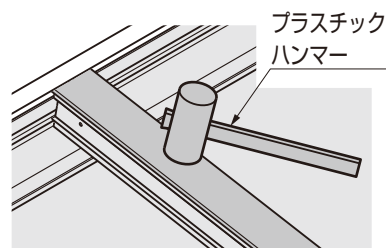
ポイント

- 垂木カバー、妻垂木カバーは、垂木掛けに突当てて、(※1)取付けてください。



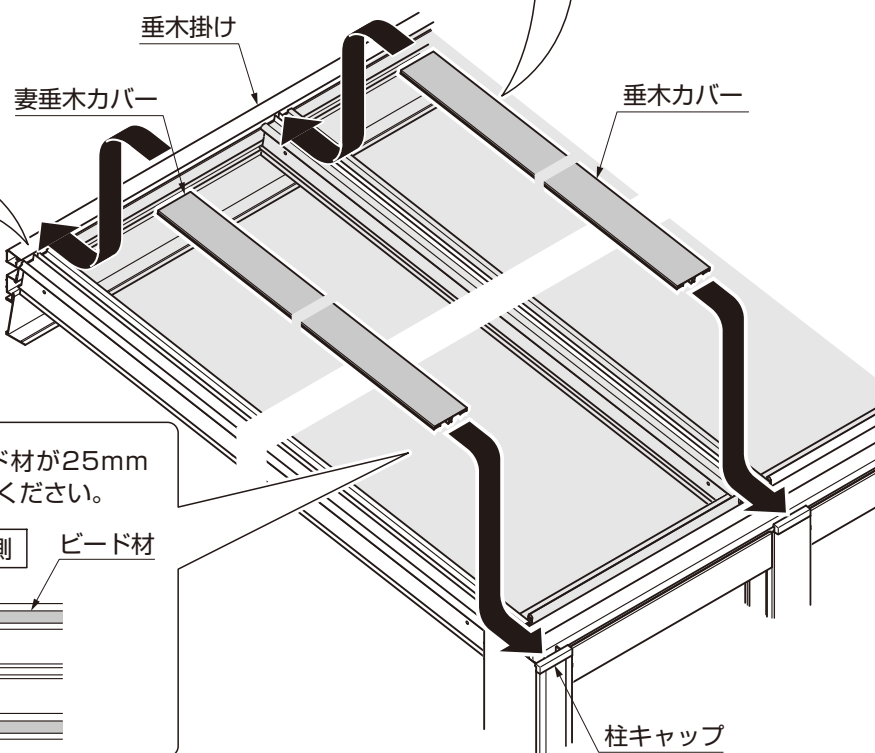
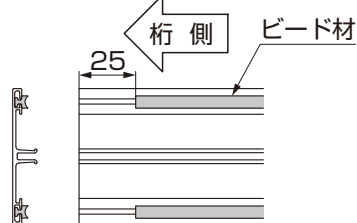
ポイント

- 部材が凹まないように注意しながら、プラスチックハンマー等で押込んでください。



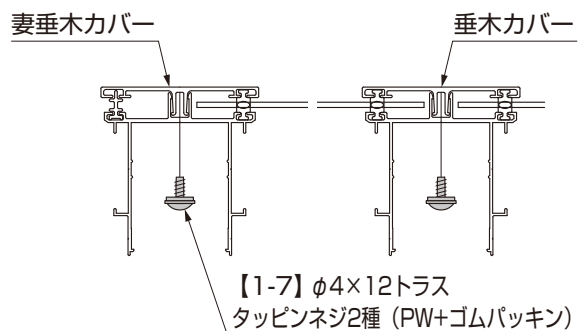
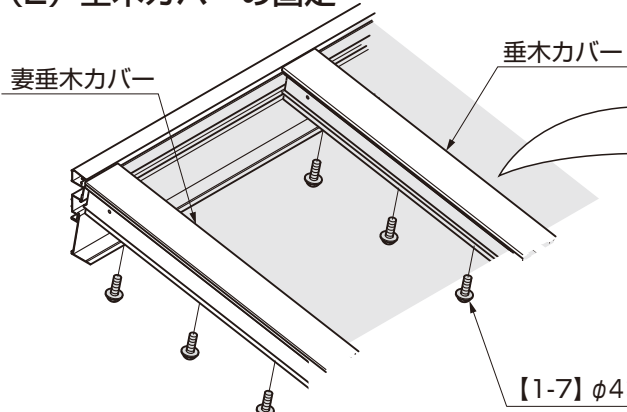
ポイント

- 垂木カバーのビード材が25mm短い方を桁側にしてください。



- ①垂木カバー、妻垂木カバーを垂木掛けに差込んでください。妻垂木カバーは両端の妻垂木に、垂木カバーは中間の垂木に取付けてください。

(2) 垂木カバーの固定



【1-7】φ4×12トラス タッピンネジ2種 (PW+ゴムパッキン)

- ①妻垂木カバーを妻垂木に、【1-7】で固定してください。
- ②垂木カバーを垂木に、【1-7】で固定してください。

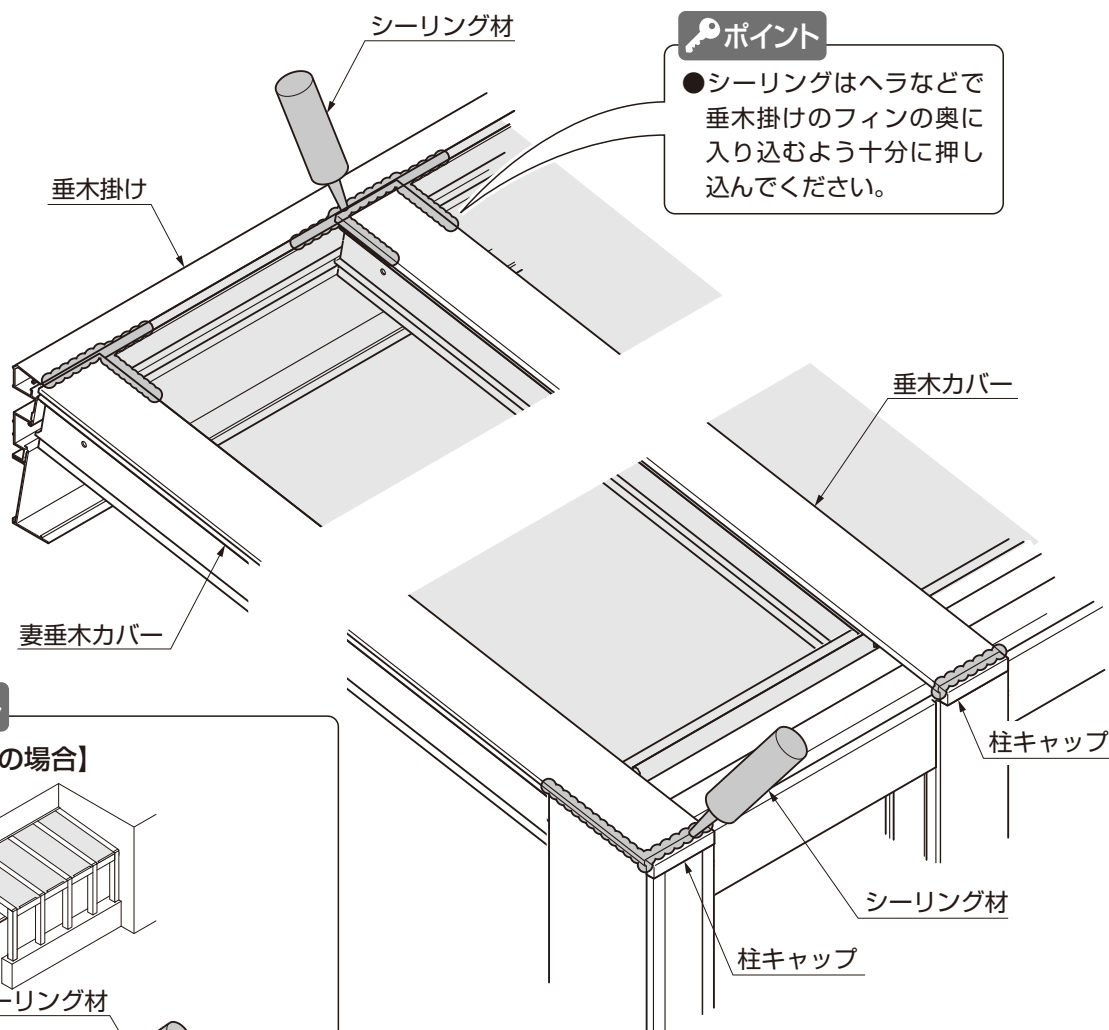
(3) 垂木カバーのシーリング

ポイント

- 指定の箇所には、必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。
- ポリカーボネート板へシーリングする場合は、当社指定の脱アルコール系シーリング材を使用してください。それ以外のシーリング材では、ポリカーボネート板のひび割れ等のおそれがあります。

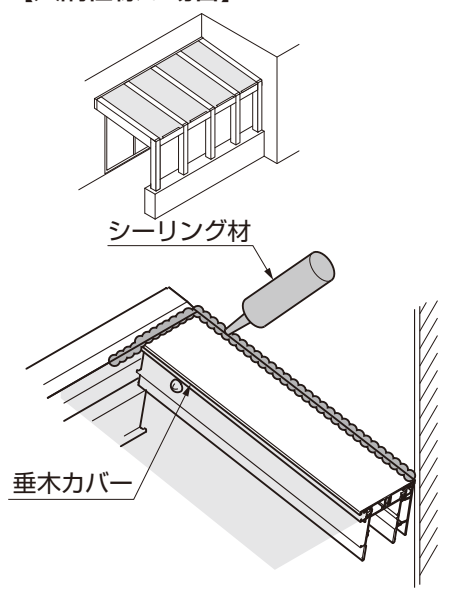
表11-1

シーリングメーカー	品名および品番
信越化学工業(株)	シーラント72
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン(合)	トスシール380
東レ・ドウコーニング(株)	SE960



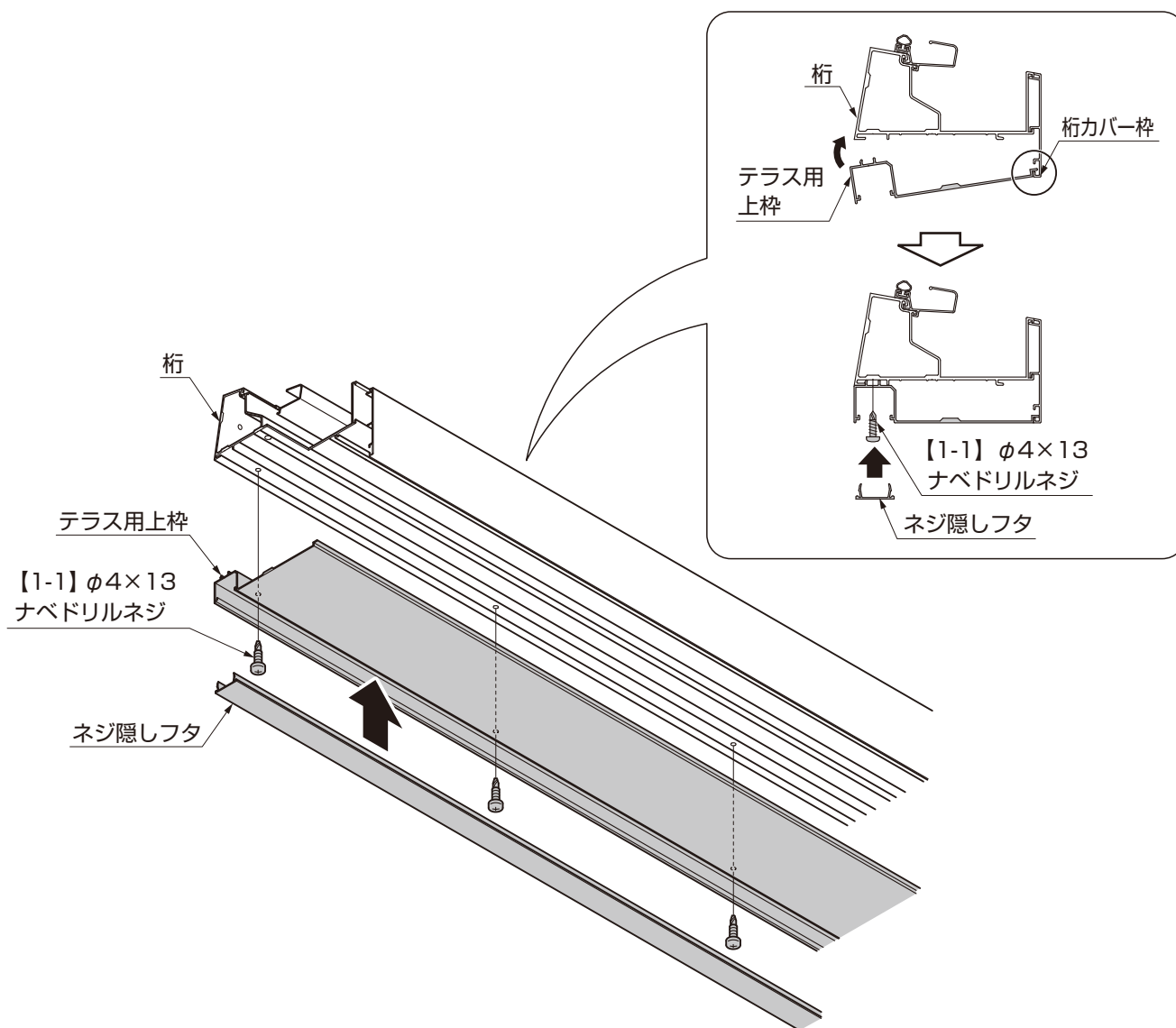
ポイント

【入隅仕様の場合】



①妻垂木カバー・垂木カバーに、シーリングをしてください。

12. テラス用上枠の取付け



- ①テラス用上枠を桁に【1-1】で取付けてください。
- ②ネジ隠しフタをテラス用上枠にはめ込んでください。

13. 垂木化粧材の取付け

13-1 垂木LED照明の取付け

※垂木LED照明を取付ける場合の作業です。

※以下の(※)印は、トランス電源ユニット35W 屋外用での配線の場合は不要です。

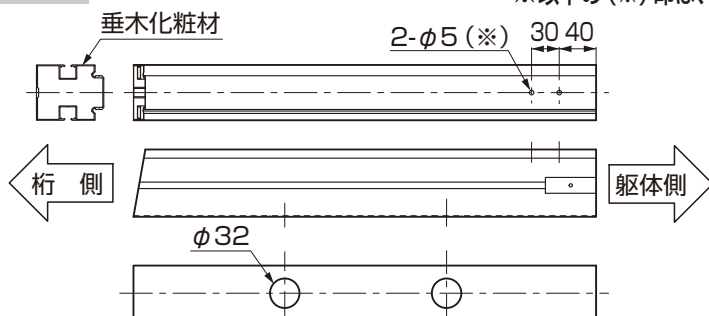


図13-1 LED照明2ヶ使いの場合

警告

- 電線の接続には電気工事士の資格が必要です。(コネクタ配線を除く)
- 取付けの際は安全のため、電源を切ってください。通電状態で行うと感電の原因になります。
- 電源線と口出し線はスリーブなどで確実に接続し、自己融着テープ、絶縁テープで確実に絶縁・防水処理を施してください。(内線規定1335-7~9に準ずる)不備があると火災・感電の原因になります。

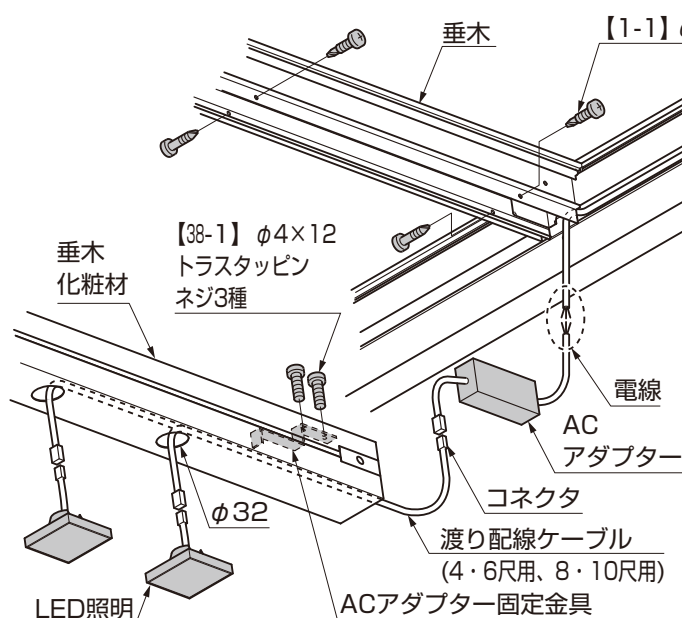


図13-2 ACアダプターで配線する場合

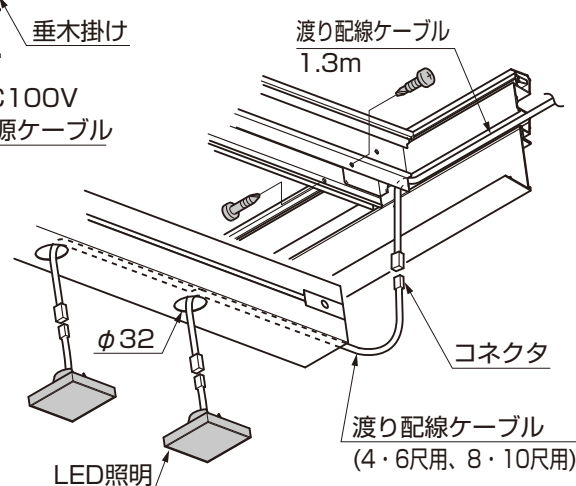
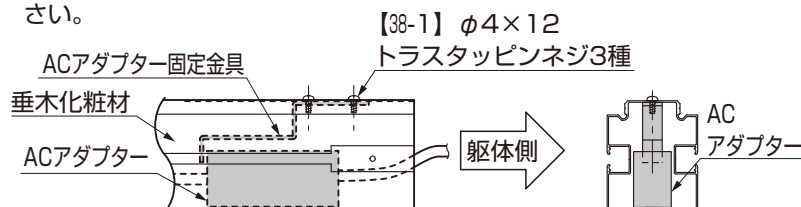


図13-3 トランス電源ユニットで配線する場合

ポイント

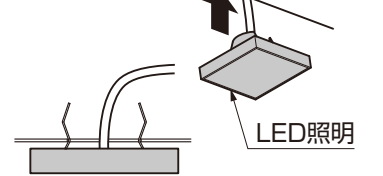
【ACアダプターで配線する場合】

- ACアダプターを下図の位置に収納してください。
- ACアダプター固定金具はACアダプターのズレ防止のため必ず取付けてください。



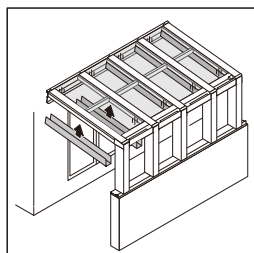
ポイント

- LED照明を垂木化粧材に取付けてください。



- ①垂木化粧材にφ5穴加工をしてください。(※)
- ②ACアダプター固定金具を垂木化粧材に【38-1】で取付けてください。(※)
- ③渡り配線ケーブル(4・6尺用または8・10尺用)を垂木化粧材に配置してください。
- ④ACアダプターと渡り配線ケーブル(4・6尺用または8・10尺用)をコネクタ接続しながら、垂木化粧材を垂木に【1-1】で取付けてください。(※)
- ⑤渡り配線ケーブル(4・6尺用または8・10尺用)と渡り配線ケーブル1.3mを接続してください。
- ⑥渡り配線とLED照明をコネクタ接続してください。
- ⑦LED照明を垂木化粧材に取付けてください。

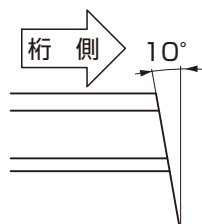
13. (つづき)



ポイント

【垂木化粧材の向き】

- 垂木化粧材の端が10°切欠いている側を桁側にしてください。



妻垂木化粧材

垂木化粧材

外側

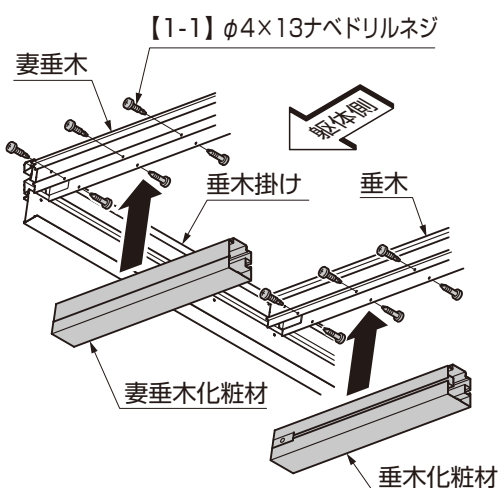
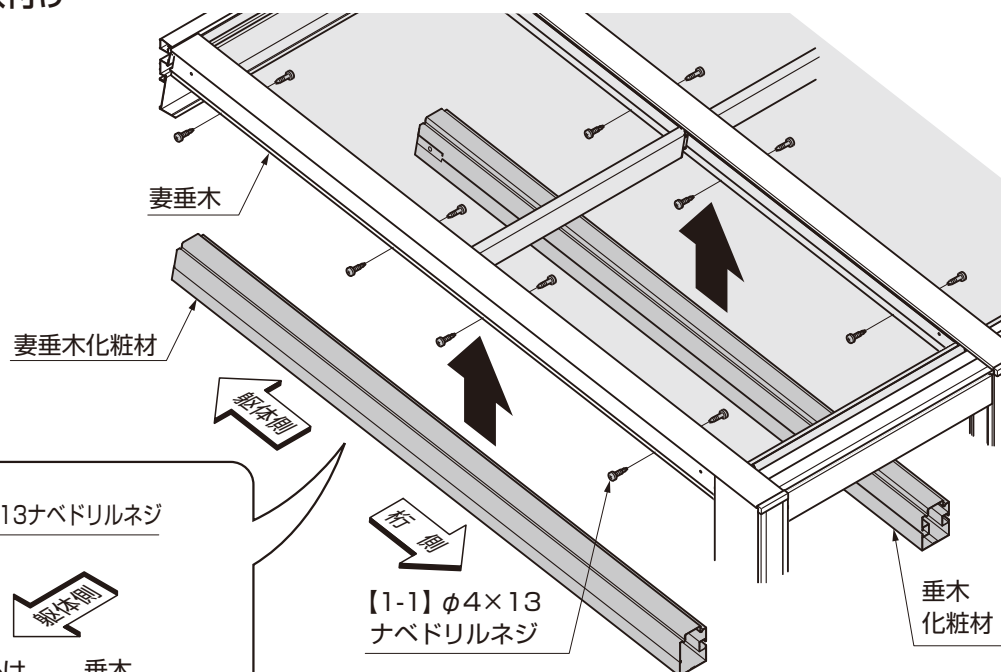
【積雪地域】



(積雪地域3000N(100cm相当)仕様の場合)

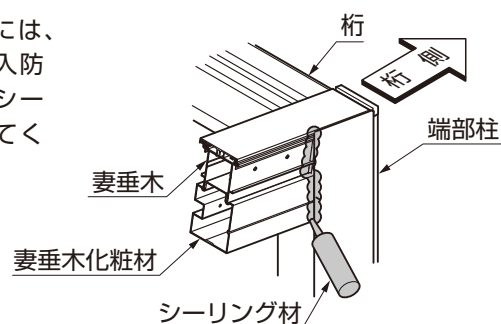
- 「13-3 サブ垂木化粧材の取付け」 もあわせてご確認ください。

13-2 垂木化粧材の取付け



ポイント

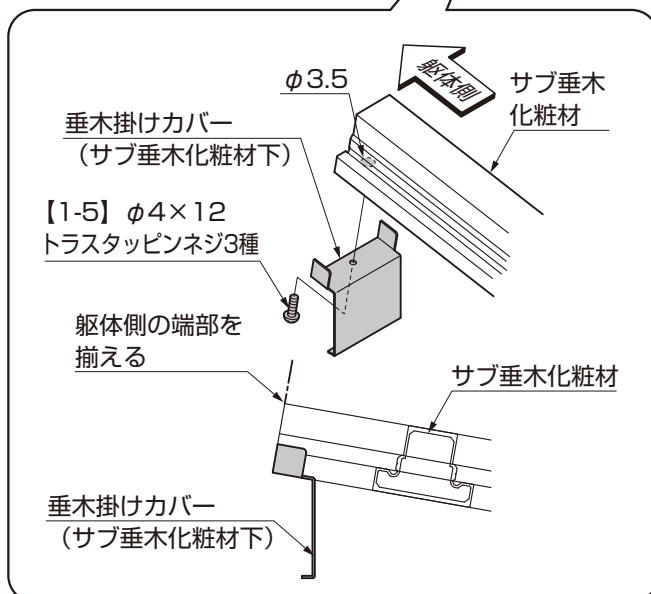
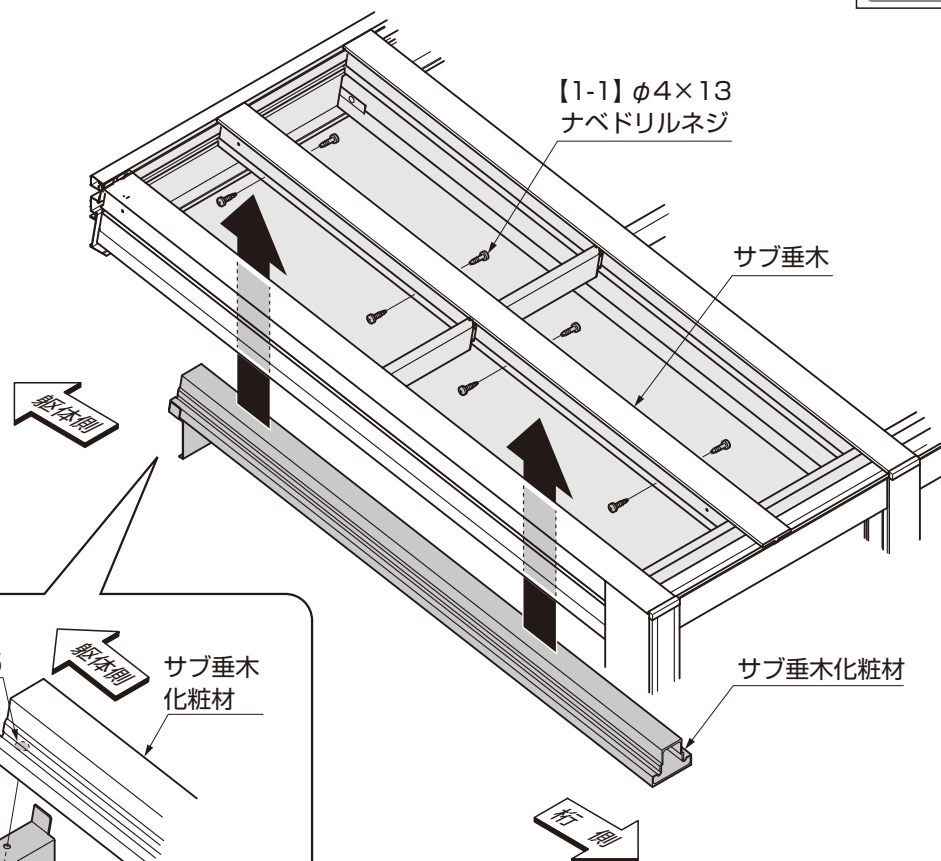
- 指定の箇所には、必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。



- ① 垂木化粧材キャップを垂木化粧材から取外してください。
- ② 垂木化粧材、妻垂木化粧材を垂木、妻垂木に【1-1】で取付けてください。
- ③ 妻垂木、妻垂木化粧材と端部柱の接合部を、シーリングしてください。

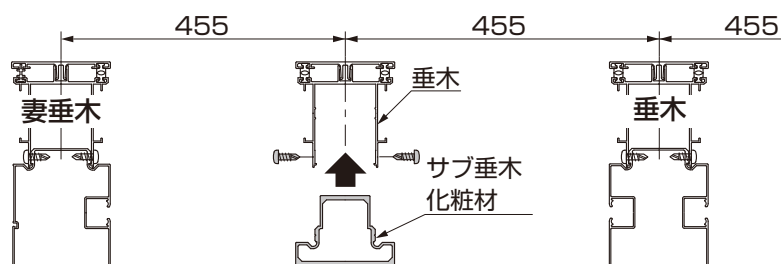
13-3 サブ垂木化粧材の取付け ※積雪地域3000N（100cm相当）仕様の場合の作業です。

地域



ポイント

- サブ垂木化粧材は妻垂木化粧材および垂木化粧材の間になるように取付けてください。



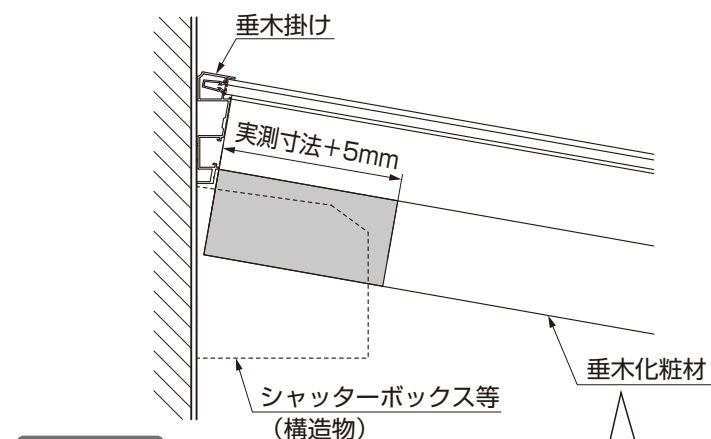
- ①サブ垂木化粧材の躯体側に垂木掛けカバー（サブ垂木化粧材下）を合わせてφ3.5の穴をあけてください。
- ②垂木掛けカバー（サブ垂木化粧材下）をサブ垂木化粧材に【1-5】で取付けてください。
- ③サブ垂木化粧材をサブ垂木に【1-1】で取付けてください。

13. (つづき)

13-4 垂木化粧材が躯体側の障害物に干渉する場合

※ 躯体側の障害物を避けるため、垂木掛け下部を使用しない場合の内容を示します。

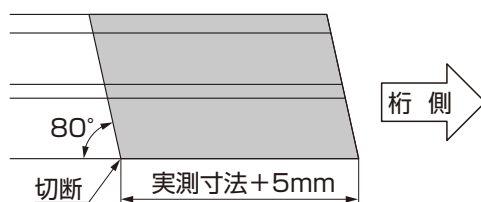
(1) 部材の加工



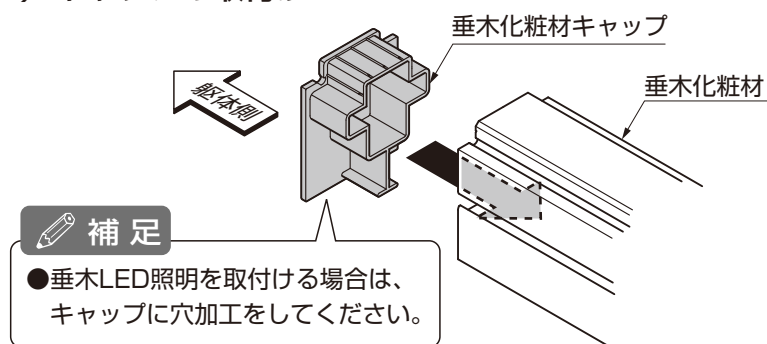
①垂木化粧材が干渉する寸法を採寸し、加工してください。

ポイント

- 垂木掛けを取付ける箇所にシャッターボックス等の構造物がある場合は、構造物を避けるように垂木化粧材の加工を行ってください。



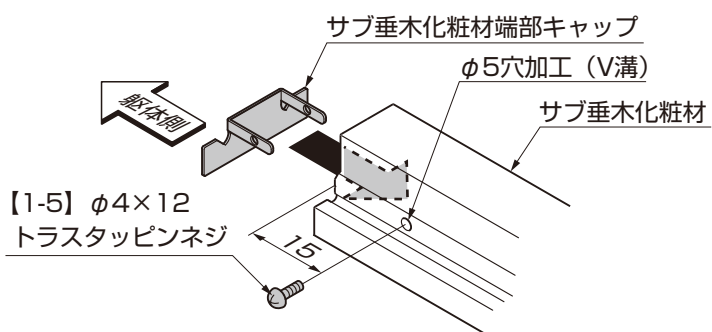
(2) キャップの取付け



【垂木の場合】

- ①垂木化粧材キャップを垂木化粧材に取付けてください。

図13-4 垂木化粧材への取付け



【サブ垂木の場合】

- ① サブ垂木化粧材にφ5の穴加工をしてください。
- ② サブ垂木化粧材端部キャップをサブ垂木化粧材に【1-5】で取付けてください。

 補足

- 垂木掛けカバー（サブ垂木化粧材下）の取付けは不要です。

図13-5 サブ垂木化粧材への取付け

13-5 入隅の場合

(1) 妻垂木の加工

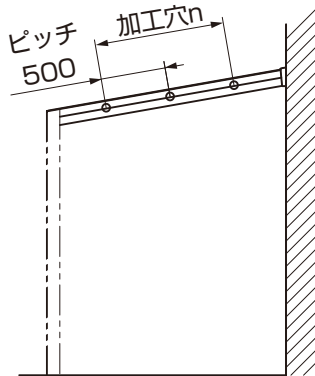
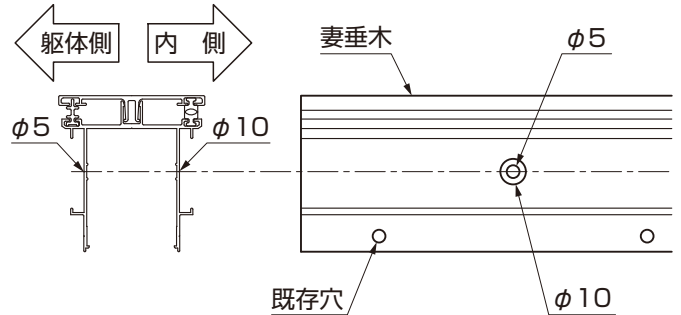


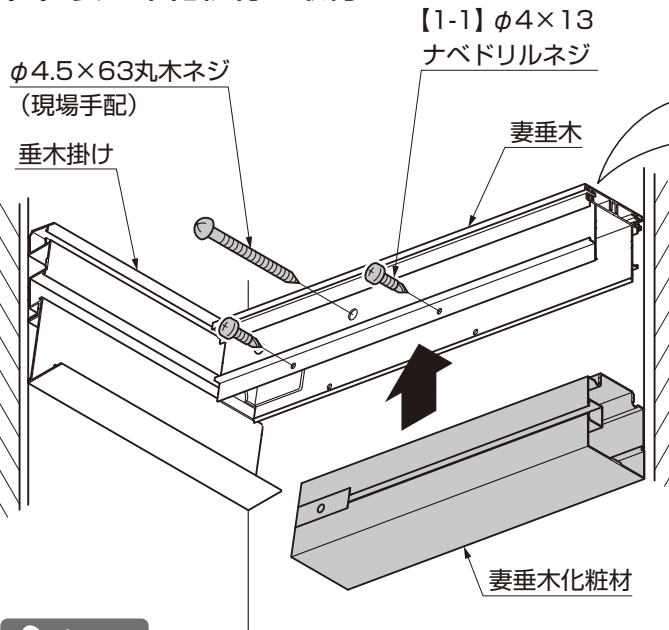
表13-1

	加工穴n
4尺	2
6尺	3
8尺	4
10尺	5



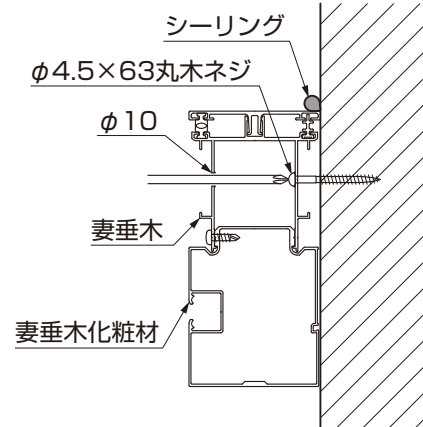
①妻垂木にφ10、φ5の穴をあけてください。

(2) 妻垂木化粧材の取付け



ポイント

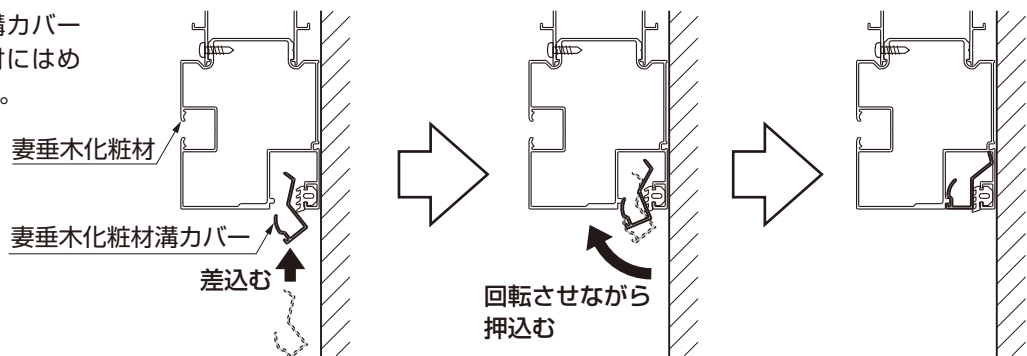
- 「φ4.5×63丸木ネジ」は現場で手配してください。
- 妻垂木を躯体に固定する際は、φ10の穴から「φ4.5×63丸木ネジ」を差し込み、φ5の穴から躯体に取付けてください。
- 指定の箇所には、必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。



ポイント

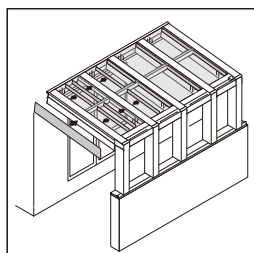
【妻梁上部FIXがある場合】

- 妻垂木化粧材溝力バーを妻垂木化粧材にはめ込んでください。



- ①妻垂木化粧材を妻垂木の既存穴に、【1-1】で取付けてください。
- ②妻垂木を躯体に「φ4.5×63丸木ネジ」で取付けてください。

14. 垂木フタの取付け



ポイント

- 垂木フタは端部用と中間用があります。端部には妻垂木フタを取付けてください。



端部用 (妻垂木フタ)



中間用 (垂木フタ)



妻垂木フタ

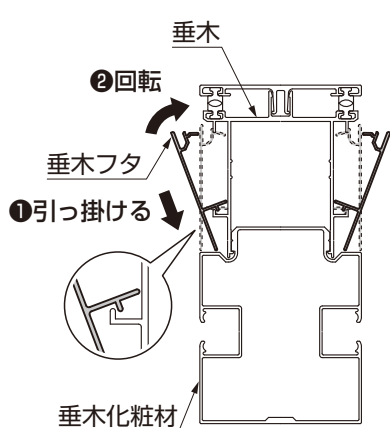


垂木フタ

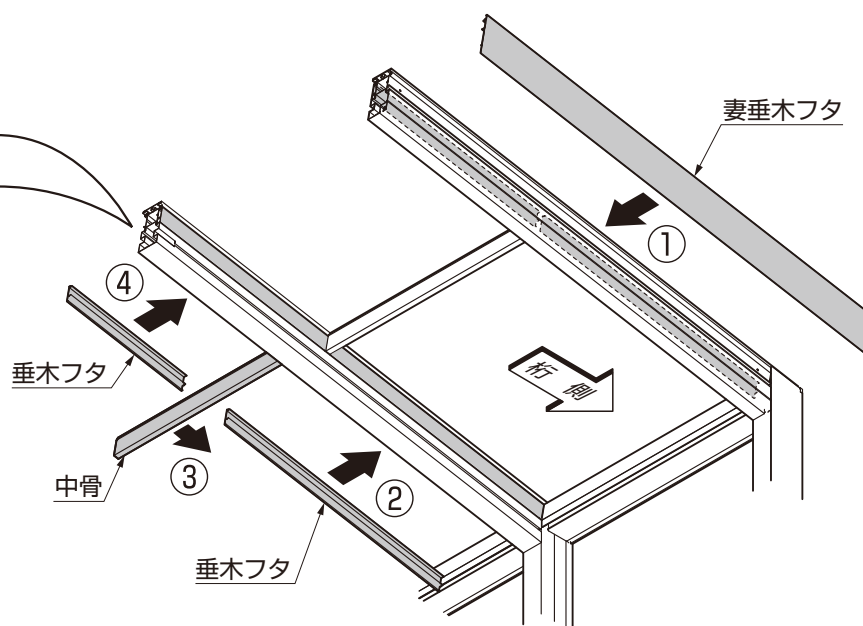
ポイント

- 垂木フタは桁側に寄せて取付けてください。
- はめ込みは端部から行なってください。

【ロールスクリーン、ローマンシェードを取付ける場合】
「E377 ロールスクリーン取付説明書」「E376 ローマンシェード取付説明書」も併せて確認し、取付けてください。

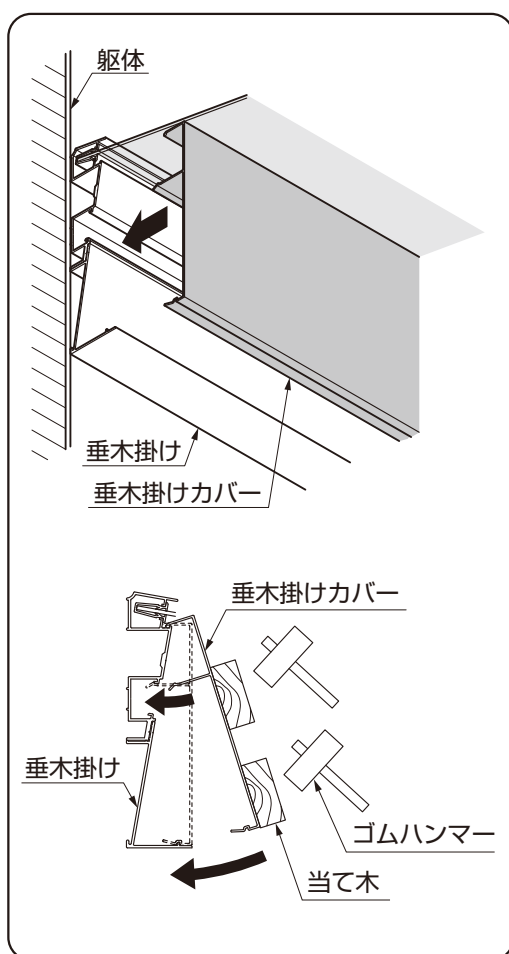
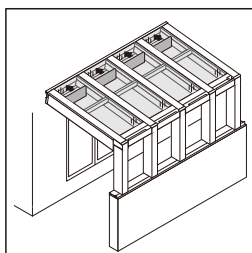


垂木化粧材



- ①妻垂木フタを、妻垂木にはめ込んでください。
- ②桁側の垂木フタを、桁に突きあてて垂木にはめ込んでください。
- ③中骨を、取付けた垂木フタ側に寄せてください。
- ④垂木掛け側の垂木フタを、中骨に突きあてて、垂木にはめ込んでください。

15. 垂木掛けカバーの取付け

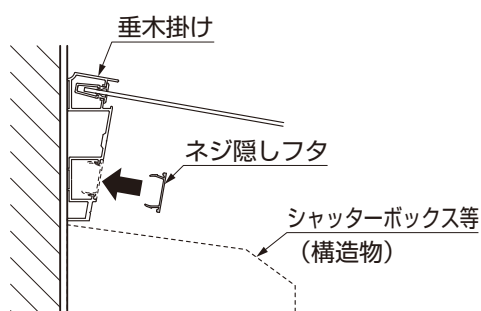


垂木掛け

垂木掛けカバー

ポイント

- 躯体側の構造物を回避した納まりの場合は、ネジ隠しフタを使用してください。



ポイント

【内部日除けを取付ける場合】

- 内部日除けを先に取付けてください。



・内部日除けの取付け
(E269 内部日除け取付説明書 参照)



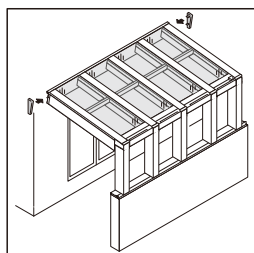
15. 垂木掛けカバーの取付け (本手順)

- ① 垂木掛けカバーを、垂木掛けにはめ込んでください。

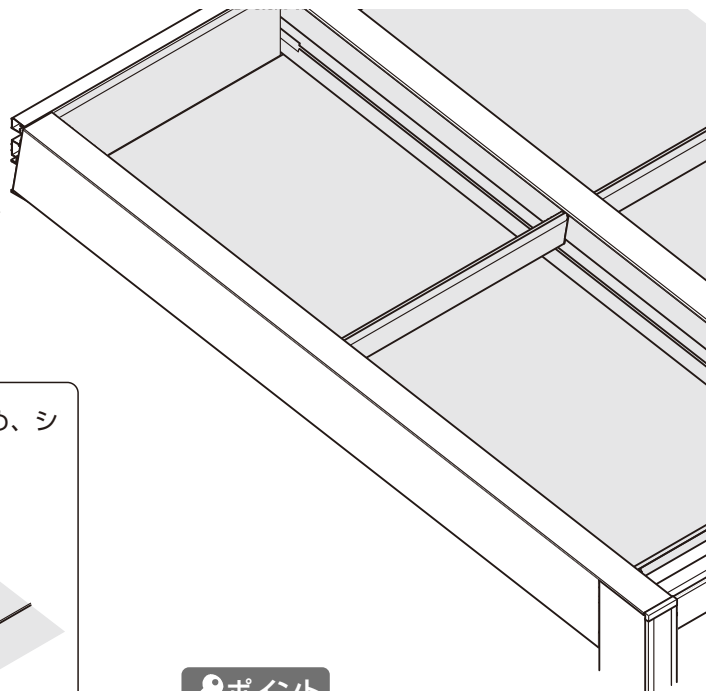
ポイント

- 確実にはめ込むように、当て木とゴムハンマーなどで叩いてはめ込んでください。
- 垂木掛けカバーを取付ける際に、端部で化粧部をキズつけないようにしてください。

16. 垂木掛けキャップの取付け

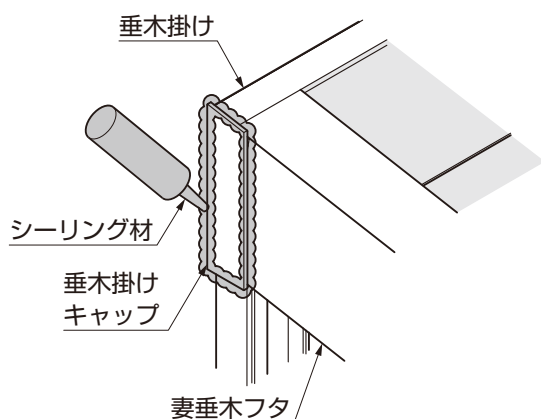


垂木掛けキャップ



ポイント

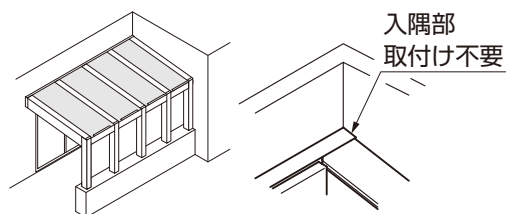
- 指定の箇所には、必ず雨水侵入防止のため、シーリングをしてください。



ポイント

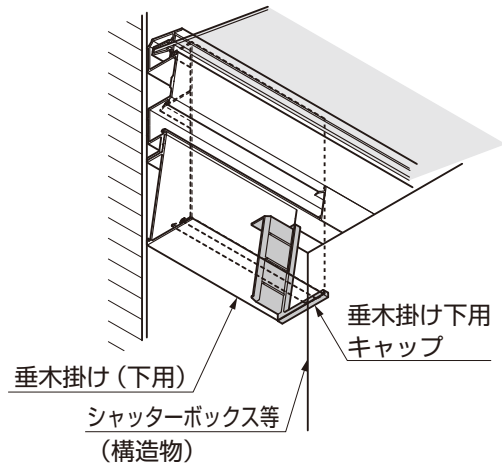
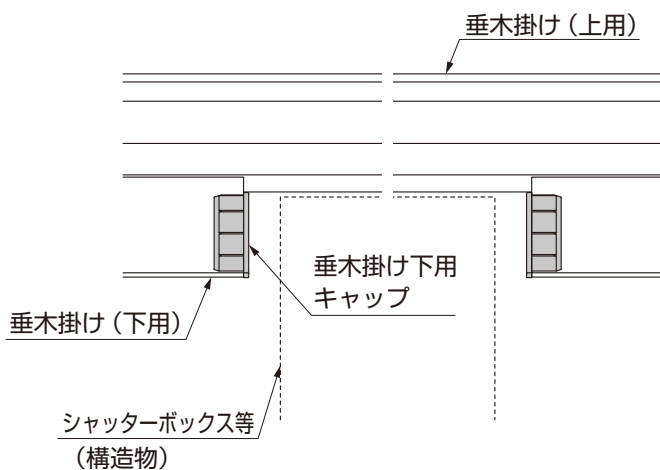
【入隅仕様の場合】

- 入隅側の垂木掛けキャップは取付けません。



ポイント

- 躯体側の構造物を回避した納まりの場合は、垂木掛け（下用）に垂木掛け下用キャップを取付けてください。



- ①垂木掛けキャップを、垂木掛けに取付けてください。
- ②垂木掛けキャップのまわりに、シーリングをしてください。

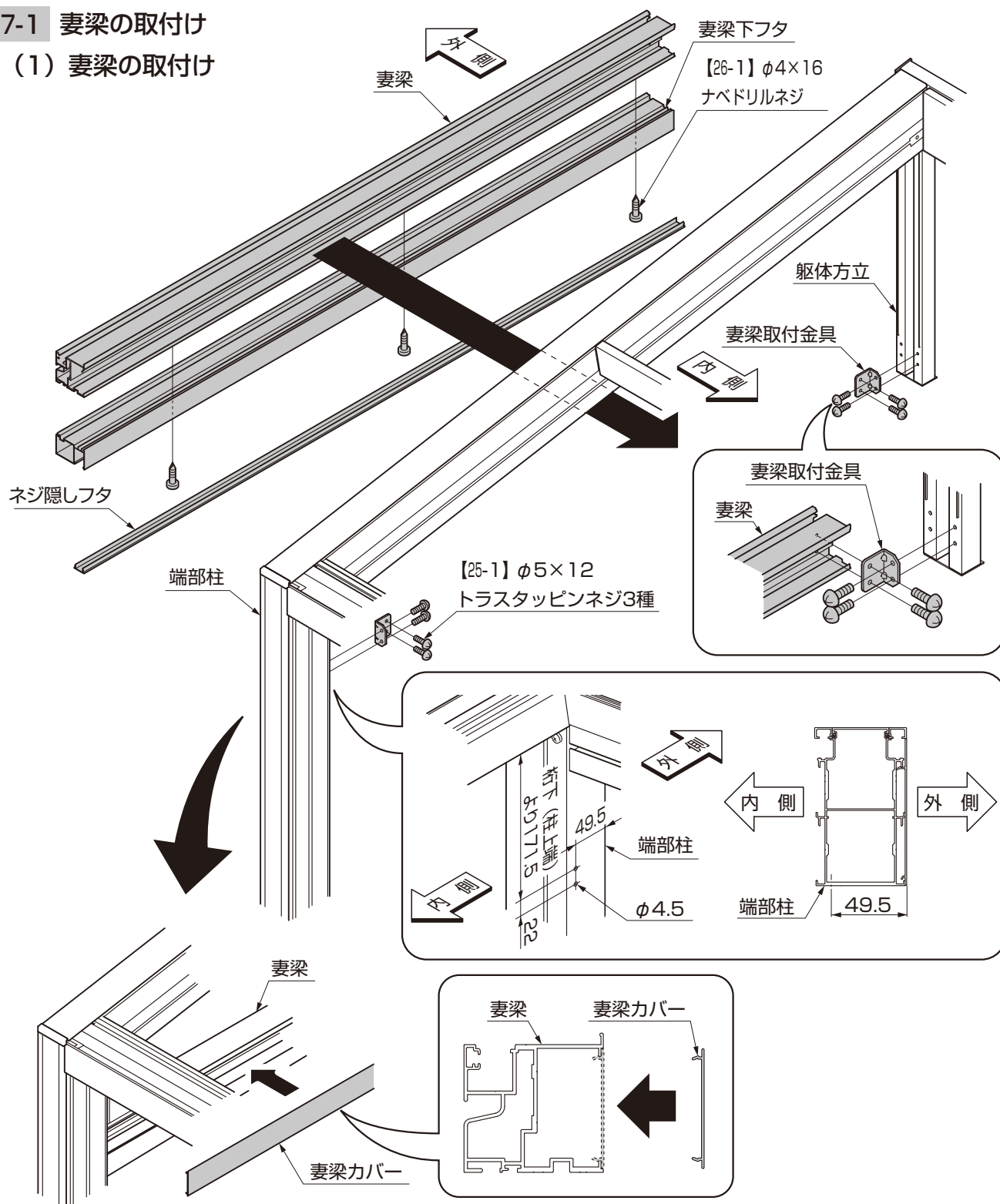
17. 妻梁上部FIXの取付け

※妻梁上部FIXを取付ける場合の作業です。

腰壁	地域
※全仕様で行なう作業です。	

17-1 妻梁の取付け

(1) 妻梁の取付け



- ①端部柱にφ4.5の穴加工を行なってください。
- ②妻梁取付金具を端部柱、躯体方立に【25-1】で取付けてください。
- ③妻梁を妻梁取付金具に【25-1】で取付けてください。
- ④妻梁下フタを妻梁に【26-1】で取付けてください。
- ⑤ネジ隠しフタを妻梁下フタに取付けてください。
- ⑥妻梁カバーを妻梁に取付けてください。

17. (つづき)

17-1 つづき

(2) 妻梁上部FIX方立の取付け

※出幅10尺の場合の作業になります。

妻梁上部FIX取付金具

【25-2】φ4×13
ナベドリルネジ

妻梁上部FIX方立

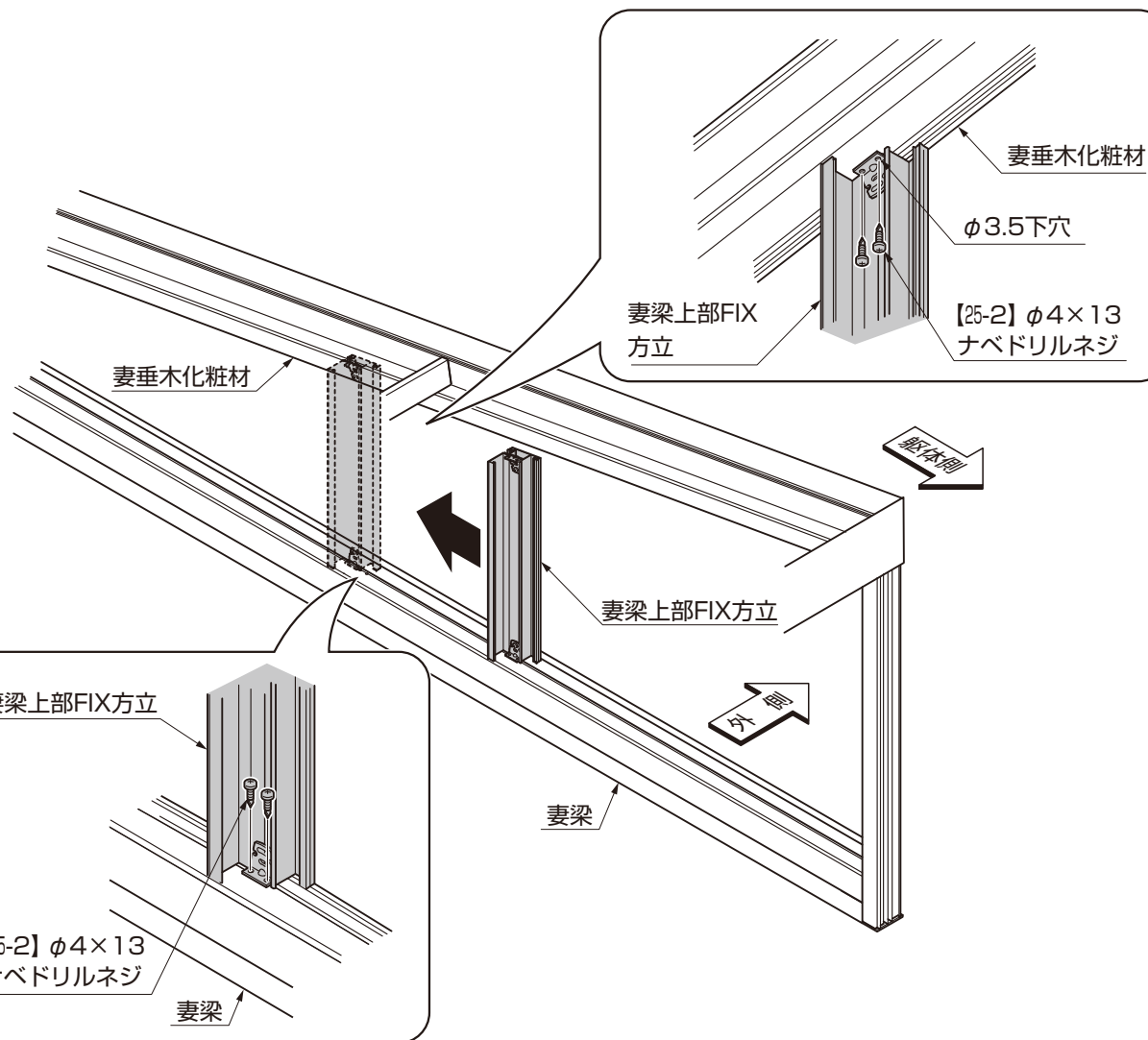
ポイント

- 妻梁上部FIX取付金具は妻梁上部FIX方立の切断角度と合わせて取付けてください。

10°

妻梁上部FIX方立

妻梁上部FIX取付金具



妻梁上部FIX方立

【25-2】φ4×13
ナベドリルネジ

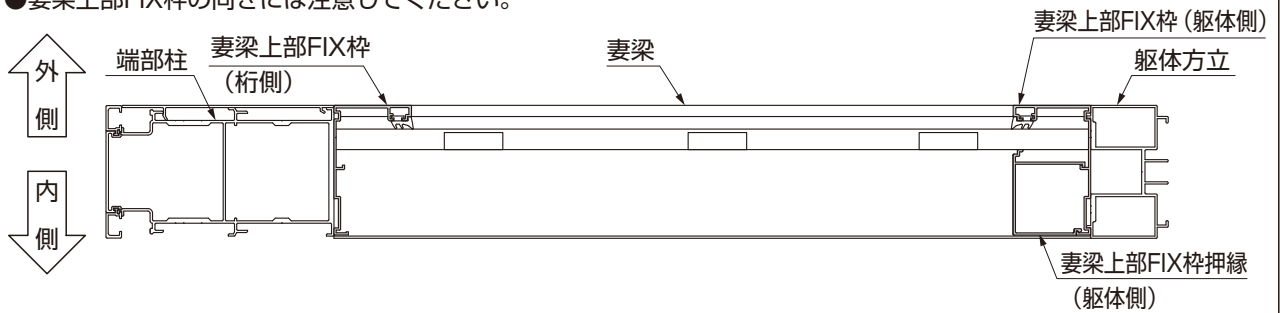
妻梁

- ①妻梁上部FIX取付金具を妻梁上部FIX方立上下に【25-2】で取付けてください。
- ②躯体側から妻梁上部FIX方立を挿入し、下部の妻梁上部FIX取付金具を妻梁に【25-2】で取付けてください。
- ③上部の妻梁上部FIX取付金具を妻垂木化粧材にφ3.5の穴加工を行って【25-2】で取付けてください。

17-2 妻梁上部FIX枠の取付け

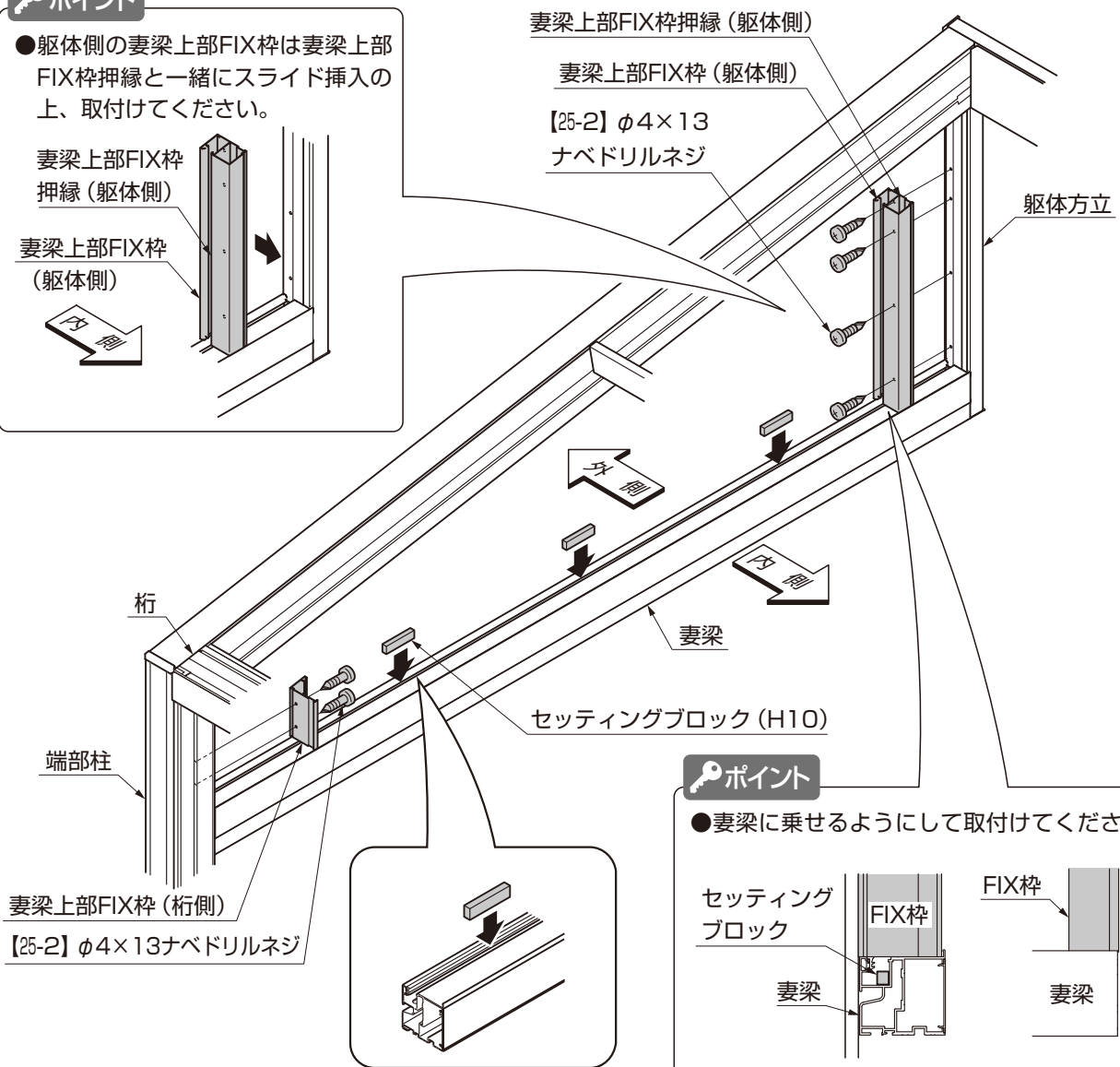
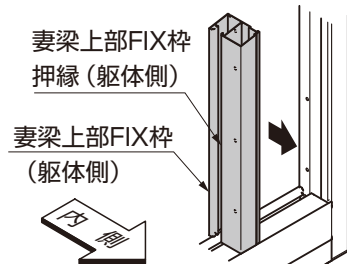
ポイント

- 妻梁上部FIX枠の向きには注意してください。



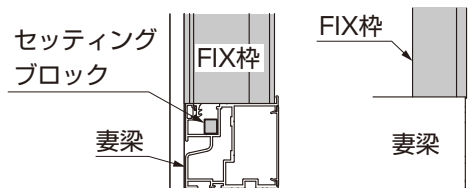
ポイント

- 躯体側の妻梁上部FIX枠は妻梁上部FIX枠押縁と一緒にスライド挿入の上、取付けてください。



ポイント

- 妻梁に乗せるようにして取付けてください。



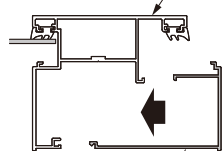
- ①妻梁上部FIX枠（桁側、躯体側ともに）、妻梁上部FIX枠押縁（躯体側）を端部柱、躯体方立に【25-2】で取付けてください。
- ②妻梁にセッティングブロック（H10）を取付けてください。

17. (つづき)

17-3 妻梁上部FIXパネルの取付け ※妻梁上部FIXパネルの場合の作業です。

【出幅10尺の場合】

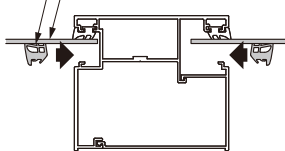
妻梁上部FIX方立



妻梁上部FIX方立カバー

後付けビード材

妻梁上部FIXパネル



端部柱

妻梁上部FIX枠押縁 (桁側)

妻梁上部FIX枠押縁 (躯体側)

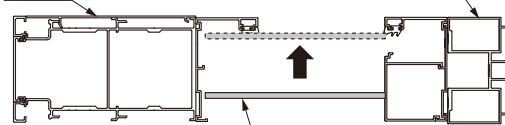
躯体方立

妻梁上部FIXパネル

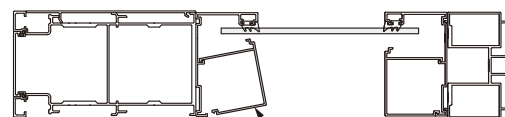
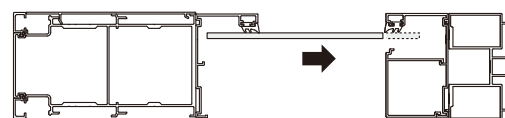
後付けビード材

端部柱

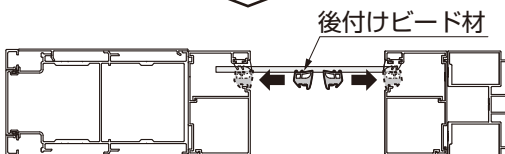
躯体方立



妻梁上部FIXパネル



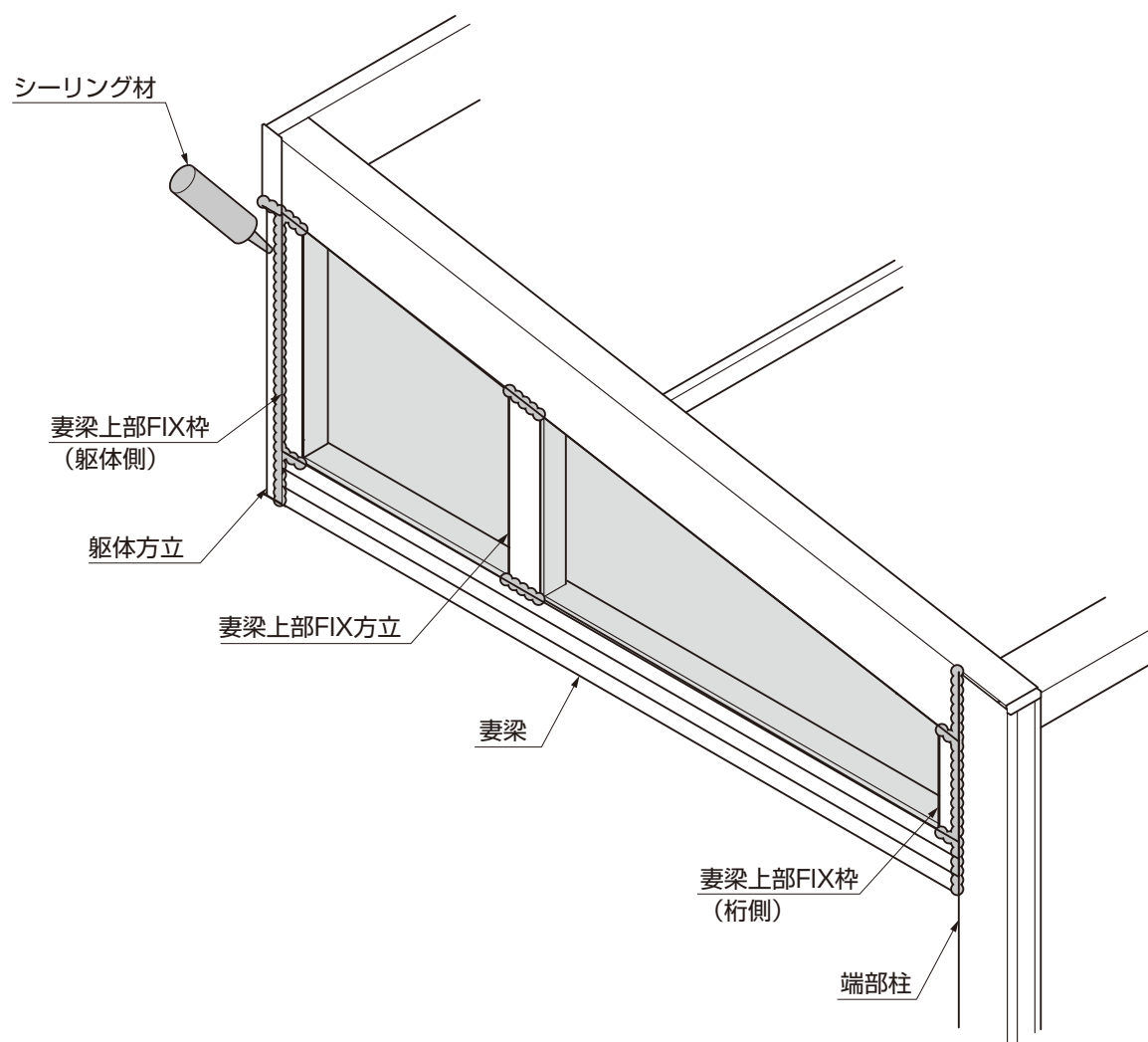
妻梁上部FIX枠押縁 (桁側)



後付けビード材

- ① 妻梁上部FIXパネルをけんどんし妻垂木化粧材と妻梁の溝に入れ、桁側、躯体側の妻梁上部FIX枠に均等に掛かるようパネル位置を調整してください。
- ② 妻梁上部FIX枠押縁を妻梁上部FIX枠に取付けてください。
- ③ 後付けビード材をはめ込んでください。

17-4 シーリング処理



① 指定の箇所にシーリングをしてください。

14 腰壁部の取付け

1. 前面腰壁の場合

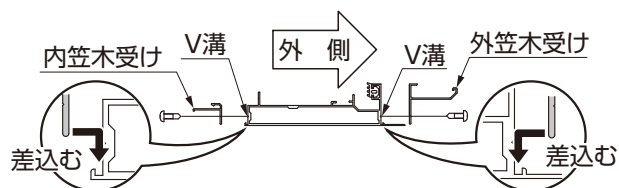
腰壁	地域

1-1 笠木受けの取付け

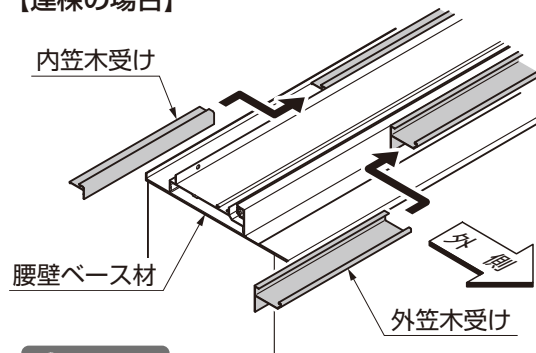
※部材を加工の際は、本ページの切断寸法を目安に各該当部を実測の上、実測値に合わせて切断加工してください。

ポイント

- 笠木受けは内外で部材が異なります。
- 笠木受けは腰壁ベース材のV溝に合わせて取付けてください。笠木受けが浮き上がった状態だと笠木を取付けた際に段差が生じるおそれがあります。

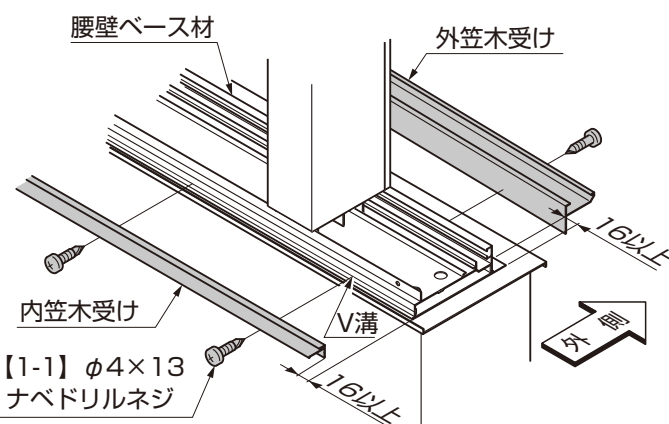
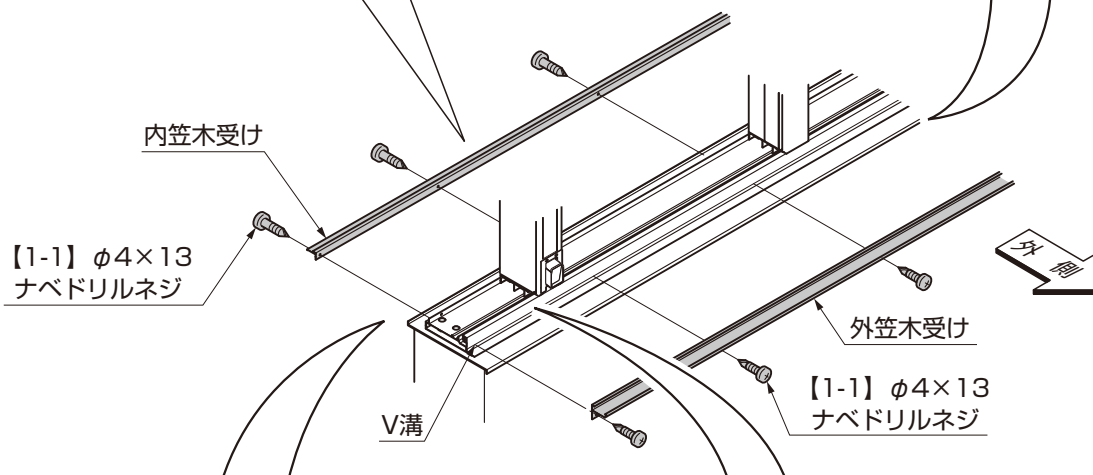


【連棟の場合】



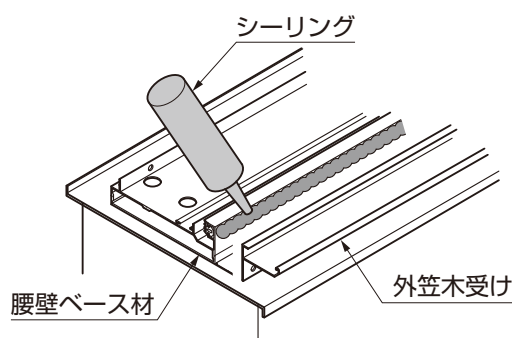
ポイント

- 部材を突き当ててネジ固定してください。



ポイント

- 笠木受けの端部は、腰壁ベース材の端部より16mm以上内側に取付くことを確認してください。

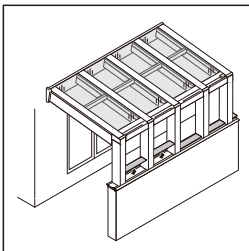


ポイント

- 腰壁ベース材と外笠木受けの間にシーリングしてください。

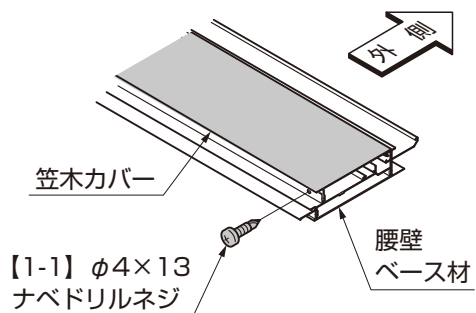
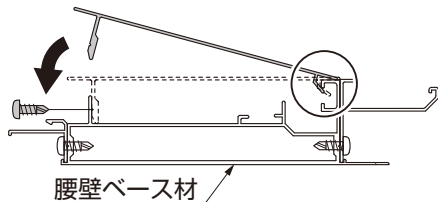
①笠木受けを腰壁ベース材に【1-1】で取付けてください。

1-2 笠木カバーの取付け



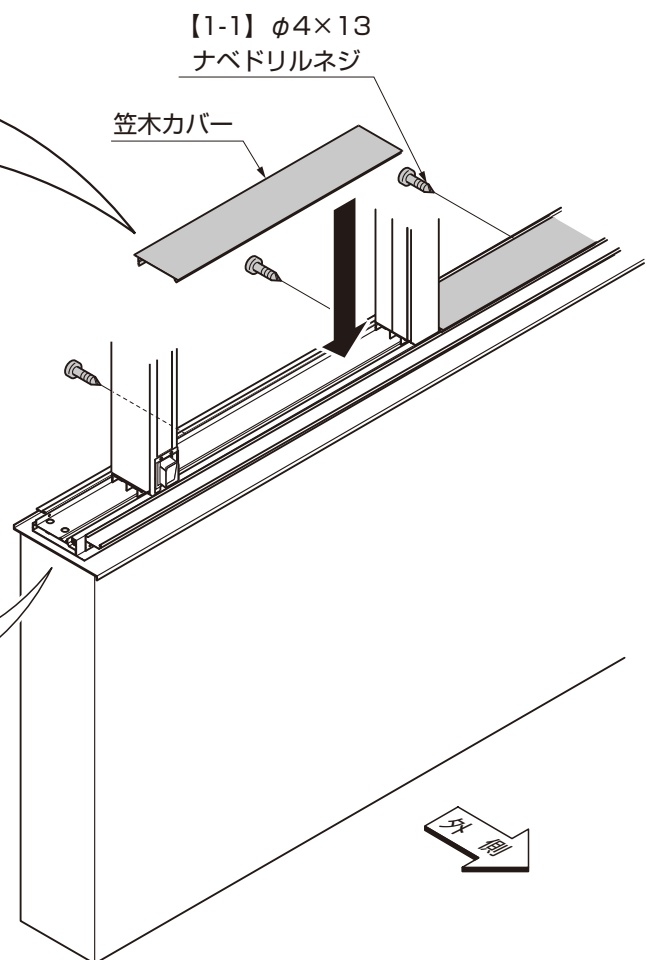
ポイント

- 腰壁ベース材に引っ掛けて、回転させるように取付けてください。



ポイント

- 端部の笠木カバーはまだ取付けないでください。



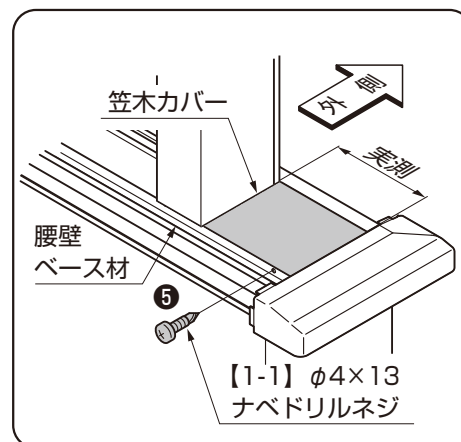
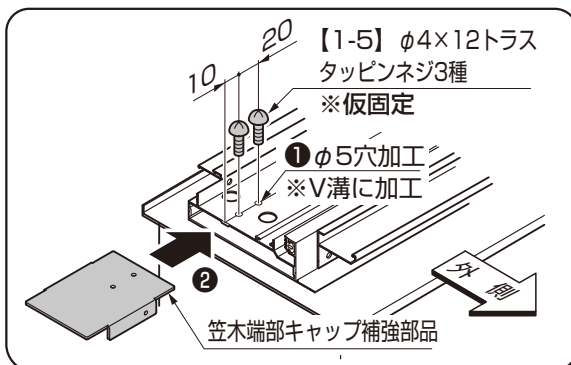
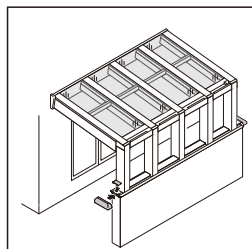
①笠木カバーを腰壁ベース材に【1-1】で取付けてください。

1. (つづき)

1-3 笠木端部キャップの取付け

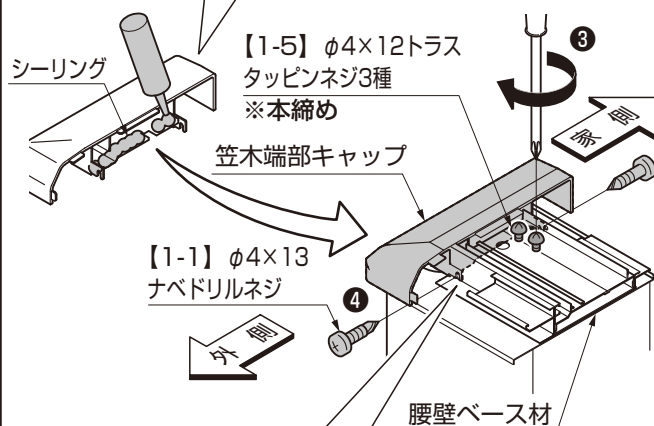
ポイント

- ネジの締めすぎに注意してください。



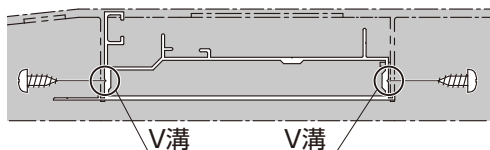
ポイント

- 笠木端部キャップにシーリングをして、腰壁ベース材につき当てて取付けてください。また、取付け後シーリングはヘラで平らにならしてください。



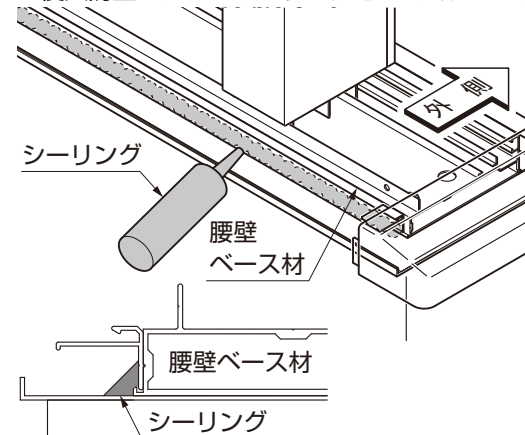
ポイント

- 笠木端部キャップは浮き上がりのないようにV溝にネジ固定してください。笠木端部キャップが浮き上がった状態だと笠木を取付けた際に笠木端部キャップと段差が生じるおそれがあります。



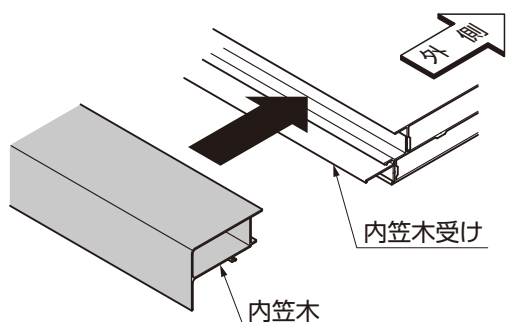
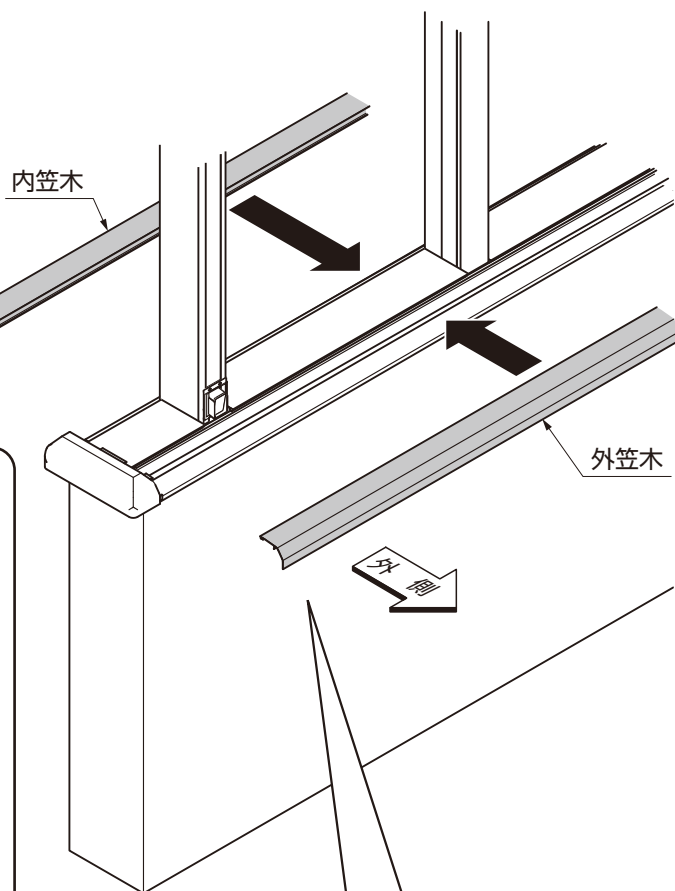
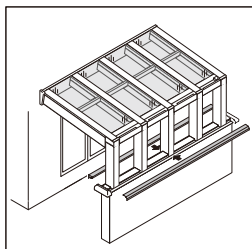
ポイント

- キャップ取付け後、指定の箇所には必ず雨水侵入防止のためのシーリングをしてください。



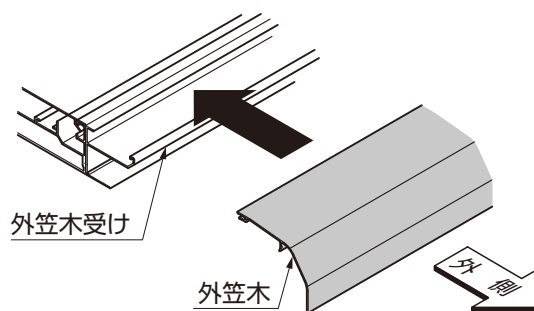
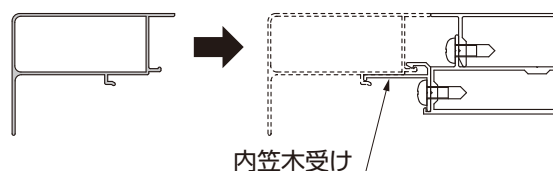
- ①腰壁ベース材にφ5の穴加工をしてください。
- ②笠木端部キャップ補強部品を腰壁ベース材に挿入し、【1-5】で仮固定してください。
- ③笠木端部キャップを腰壁ベース材に差込み、【1-5】を本締めしてください。
- ④笠木端部キャップを腰壁ベース材に【1-1】で固定してください。
- ⑤笠木カバーを腰壁ベース材に【1-1】で取付けてください。

1-4 笠木の取付け



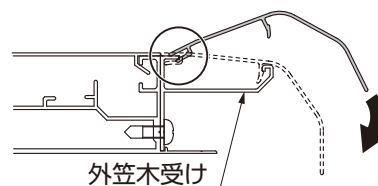
ポイント

- 内笠木受けに差し込むようにして取付けてください。

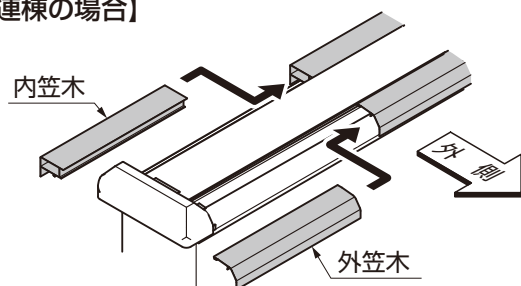


ポイント

- 外笠木受けに引っ掛けて、回転させるように取付けてください。



【連棟の場合】



ポイント

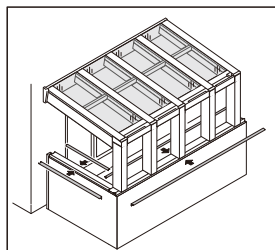
- 部材をつき当てて固定してください。
- 笠木端部キャップ内々寸法を実測の上、実測値に合わせて切断加工・取付けをしてください。

①笠木を笠木受けに取付けてください。



2. L字腰壁の場合

2-1 笠木受けの取付け



ポイント

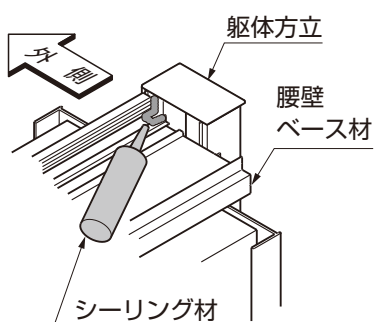
- L字腰壁の取付け手順は、左側にL字腰壁を施工する図を記載しています。
- 右側にL字腰壁を施工する場合は左右対称になります。
- 取付説明書の図記号は下記の内容を示します。

L字部 = 「L字腰壁側」の内容

前面部 = 「前面腰壁側」の内容

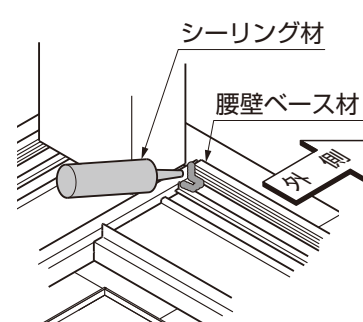
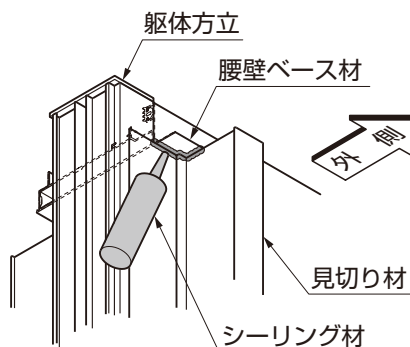
コーナー部 = 「コーナー部」の内容

共通 = 「L字側腰壁」「前面腰壁側」共通の内容



ポイント

- 腰壁ベース材と躯体方立の取合せ部にシーリングしてください。

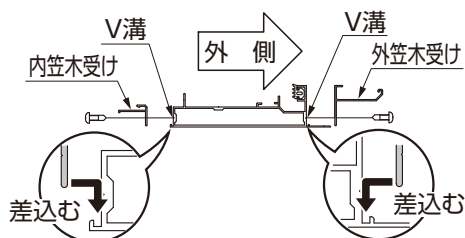


ポイント

- 腰壁ベース材と端部柱の取合せ部にシーリングしてください。

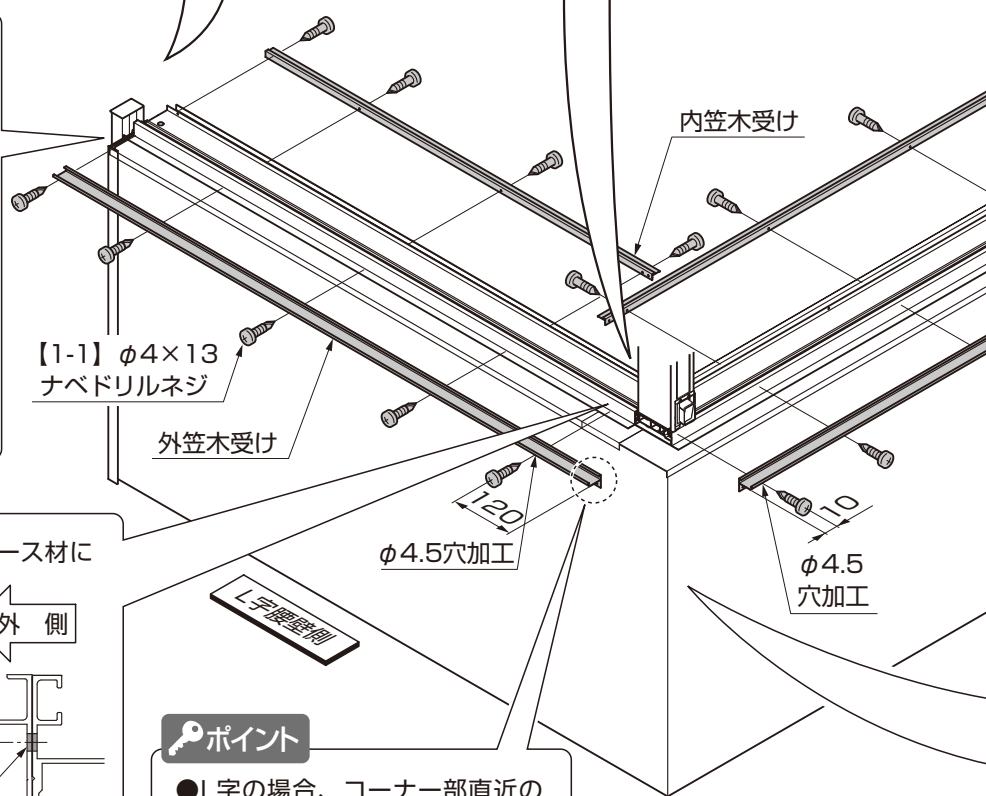
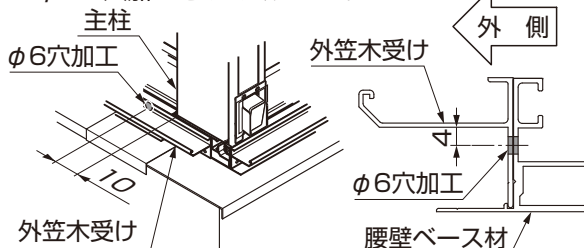
ポイント

- 笠木受けは内外で部材が異なります。
- 笠木受けは腰壁ベース材のV溝に合わせて取付けてください。笠木受けが浮き上がった状態だと笠木を取付けた際に段差が生じるおそれがあります。



ポイント

- 笠木受け取付け後、外笠木受けと腰壁ベース材にφ6の穴加工をしてください。

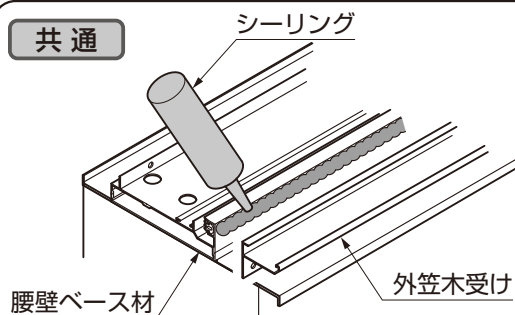


ポイント

- L字の場合、コーナー部直近のネジは、固定しないでください。

① 笠木受けを腰壁ベース材に【1-1】で取付けてください。

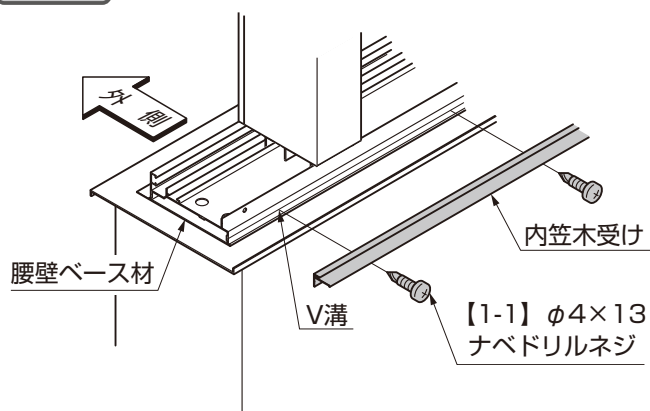
共通



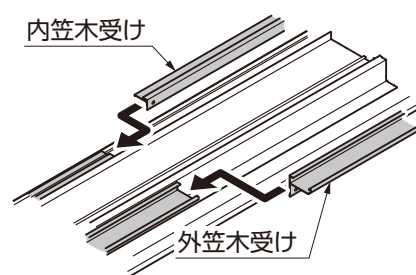
ポイント

- 腰壁ベース材と外笠木受けの間にシーリングしてください。

前面部



【連棟の場合】



ポイント

- 部材を突き当ててネジで固定してください。

【1-1】φ4×13
ナベドリルネジ

内笠木受け

外笠木受け

【1-1】φ4×13
ナベドリルネジ

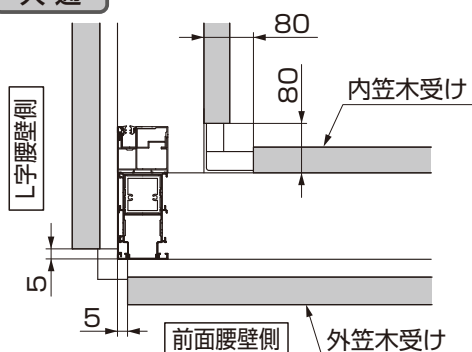


ポイント

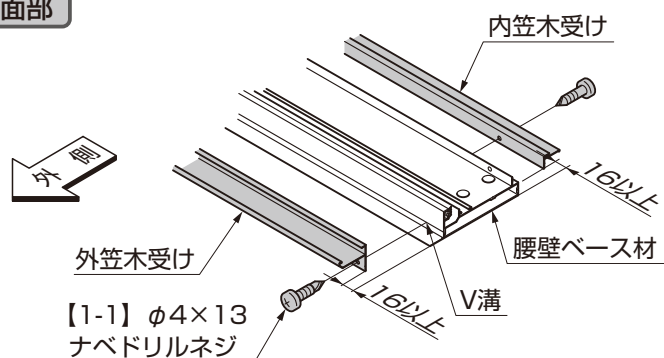
コーナー部

- コーナー部は、下記のように取付けます。

共通



前面部

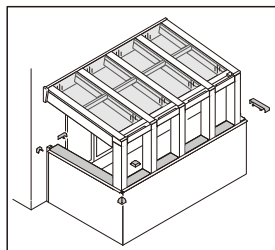


ポイント

- 笠木受けの端部は、腰壁ベース材の端部より16mm以上内側に取付くことを確認してください。

2. (つづき)

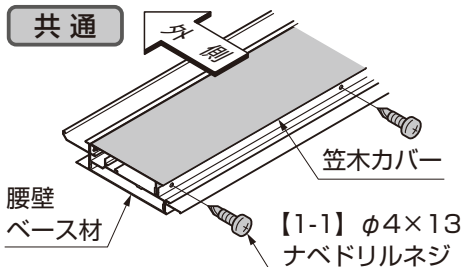
2-2 笠木カバーとキャップ類の取付け



ポイント

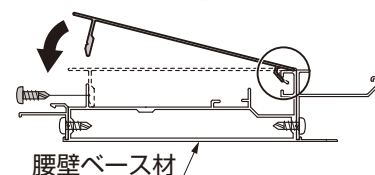
- ネジの締めすぎに注意してください。

共通

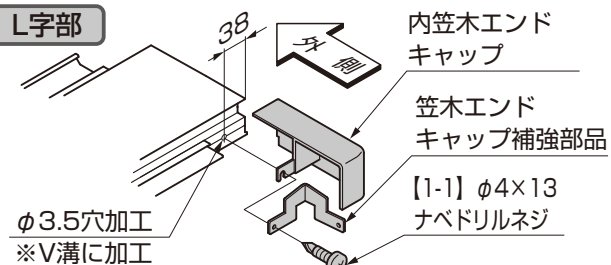


ポイント

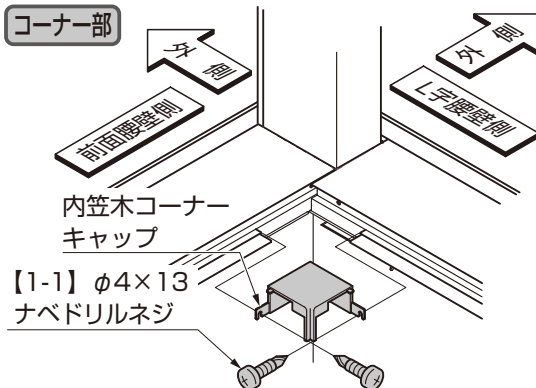
- 腰壁ベース材に引っ掛けて、回転させるように取付けてください。



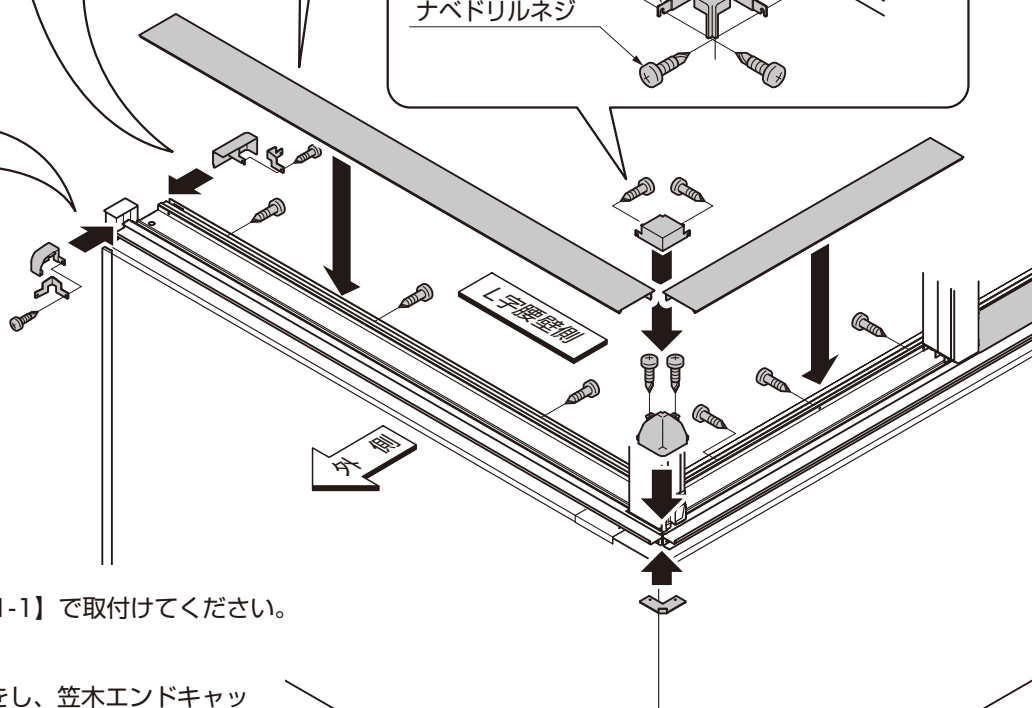
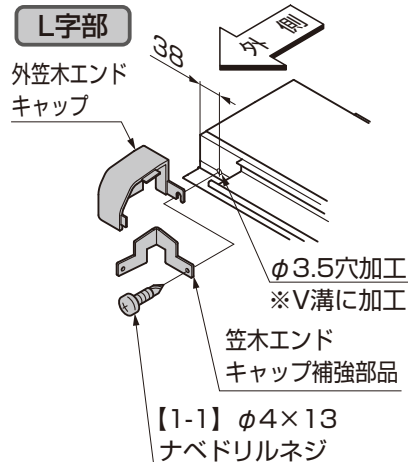
L字部



コーナー部



L字部



【笠木カバーの取付け】

- ①笠木カバーを腰壁ベース材に【1-1】で取付けてください。

【笠木エンドキャップの取付け】

- ①腰壁ベース材にφ3.5の穴加工をし、笠木エンドキャップと笠木エンドキャップ補強材を【1-1】で取付けてください。

【笠木コーナーキャップの取付け】

- ①内笠木コーナーキャップを腰壁ベース材に【1-1】で取付けてください。
- ②外笠木コーナーキャップを外笠木受けに当てがい、φ5の写し穴加工をしてください。
- ③外笠木コーナーキャップと笠木コーナーキャップ補強部品を外笠木受けに【1-5】で取付けてください。

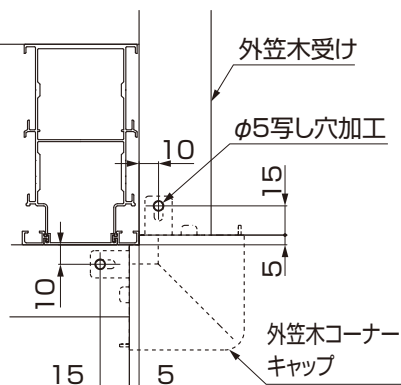
【笠木端部キャップの取付け】

- ①腰壁ベース材にφ5の穴加工をしてください。
- ②笠木端部キャップ補強部品を腰壁ベース材に挿入し、【1-5】で仮固定してください。
- ③笠木端部キャップを腰壁ベース材に差込み、【1-5】を本締めしてください。
- ④笠木端部キャップを腰壁ベース材に【1-1】で固定してください。
- ⑤笠木カバーを腰壁ベース材に【1-1】で取付けてください。

コーナー部

ポイント

- 外笠木コーナーキャップを当てて、穴加工位置を出してください。



【1-5】φ4×12トラス
タッピンネジ3種

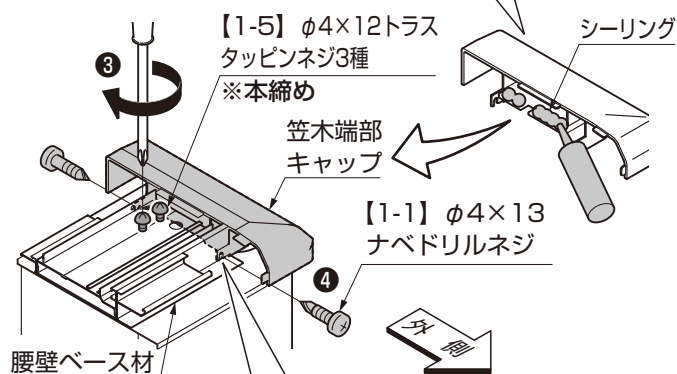
外笠木コーナー
キャップ

φ5写し穴加工
笠木コーナー
キャップ補強部品

外笠木受け

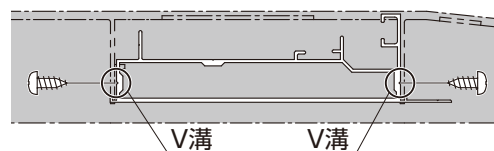
ポイント

- 笠木端部キャップにシーリングをして、腰壁ベース材につき当てて取付けてください。また取付け後、シーリングはヘラで平らにならしてください。



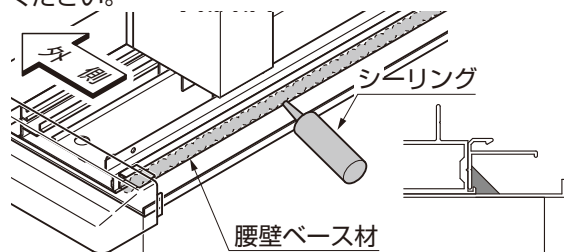
ポイント

- 笠木端部キャップは浮き上がりのないようにV溝にネジ固定してください。笠木端部キャップが浮き上がった状態だと笠木を取付けた際に笠木端部キャップと段差が生じるおそれがあります。



ポイント

- キャップ取付け後、指定の箇所には必ず雨水侵入防止のためのシーリングをしてください。
※L字腰壁側、コーナー部分も同様にシーリングしてください。



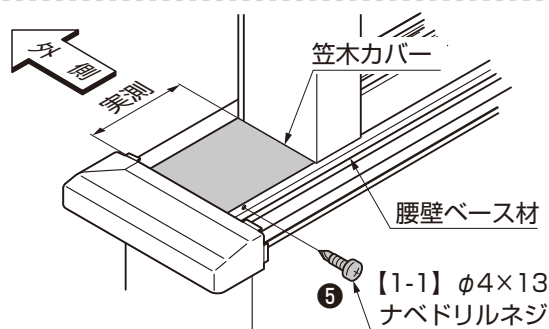
前面部

- ① φ5穴加工
※V溝に加工

【1-5】φ4×12トラス
タッピンネジ3種
※仮固定

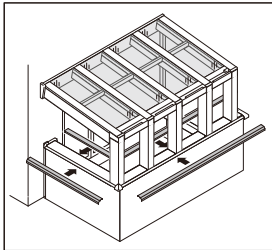
笠木端部キャップ
補強部品

腰壁ベース材

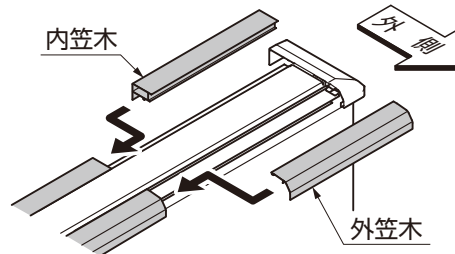


2. (つづき)

2-3 笠木の取付け



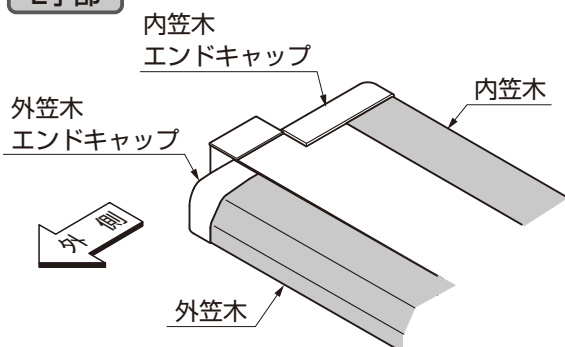
【連棟の場合】



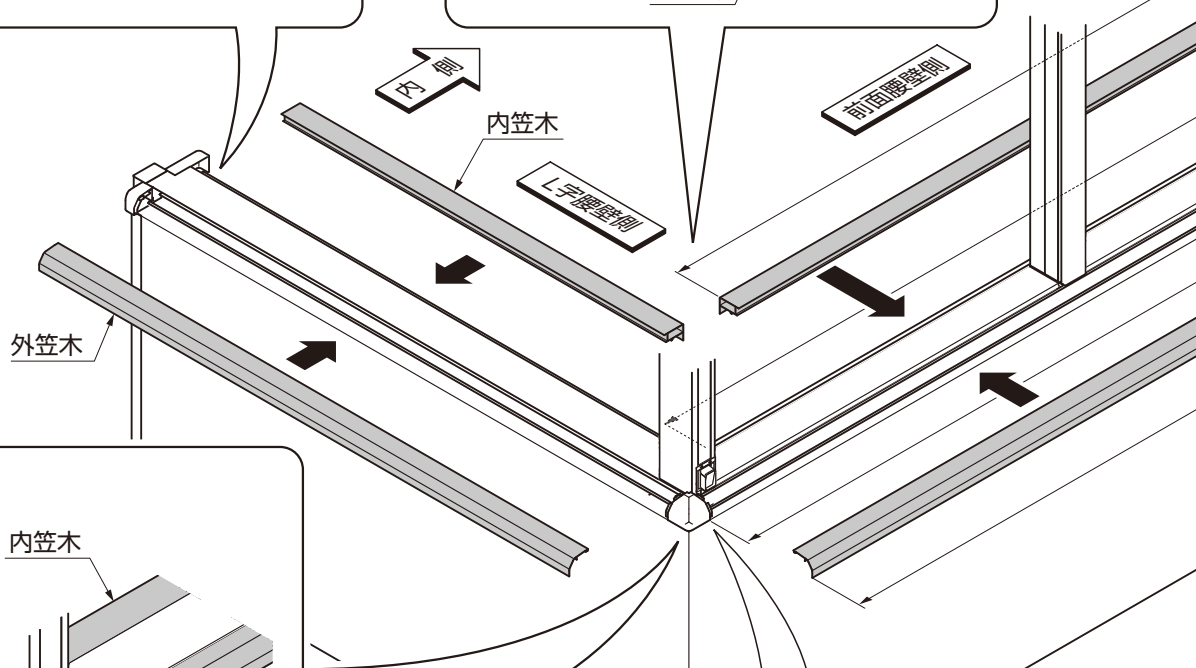
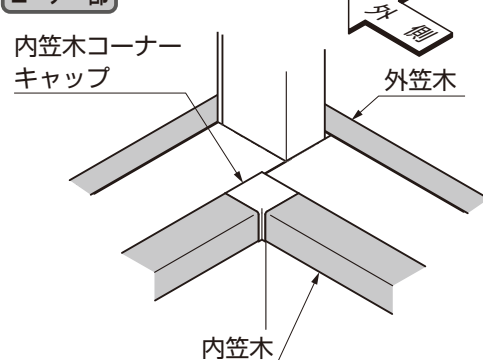
ポイント

- 部材を突き当てて固定してください。

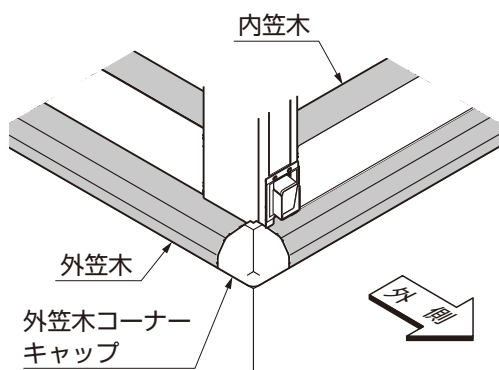
L字部



コーナー部

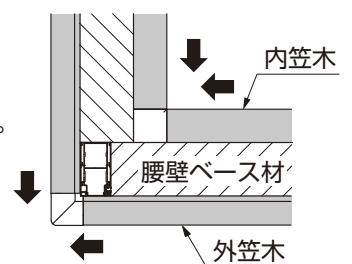


コーナー部

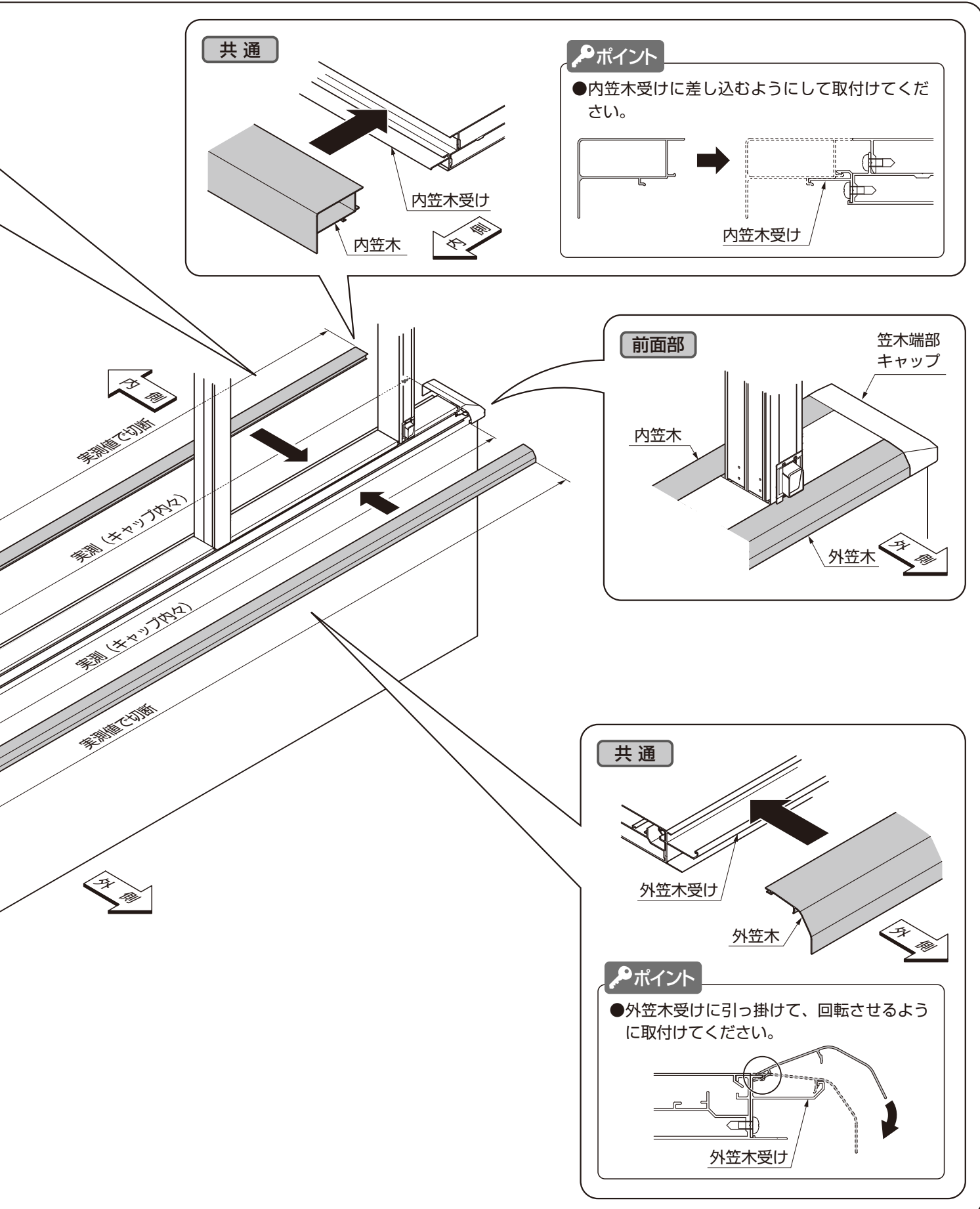


ポイント

- 笠木はコーナー部に寄せて固定してください。



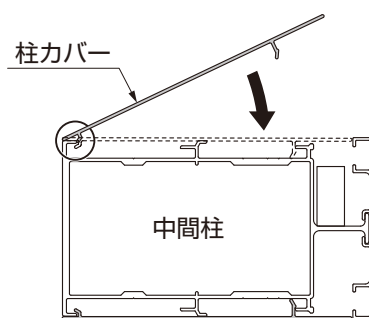
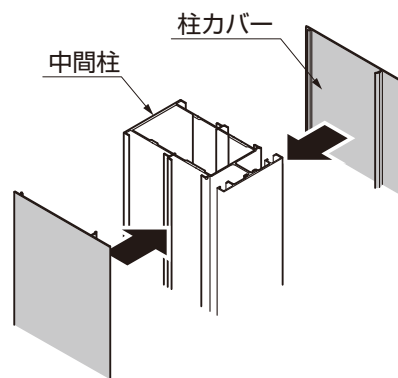
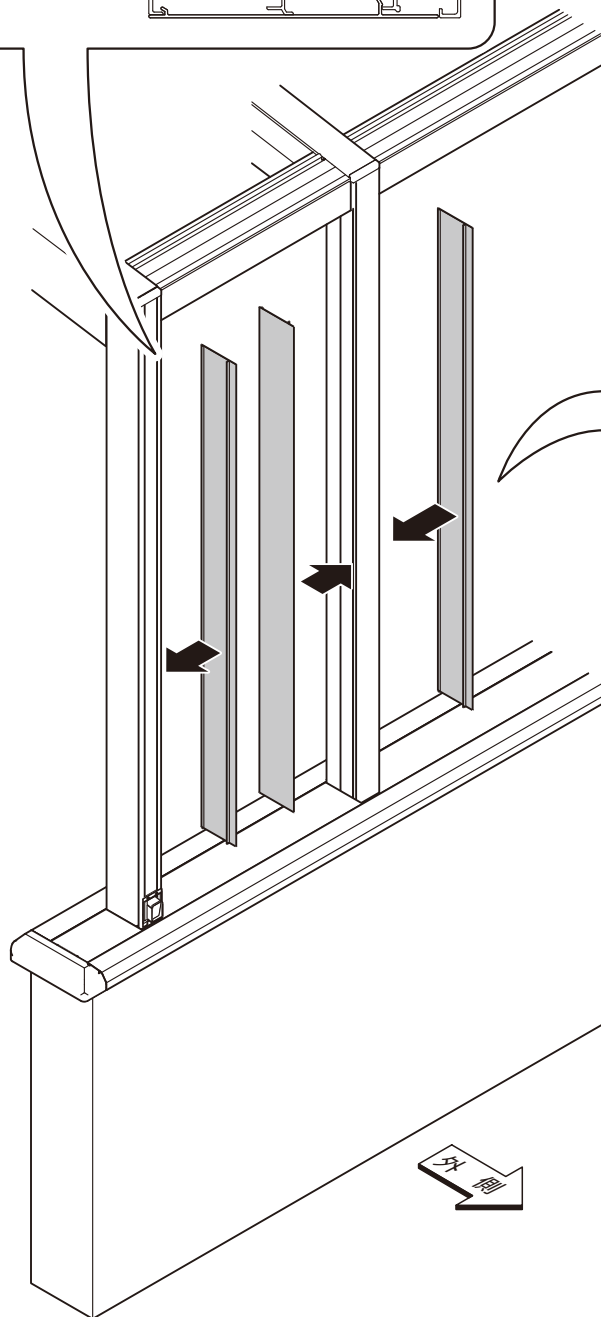
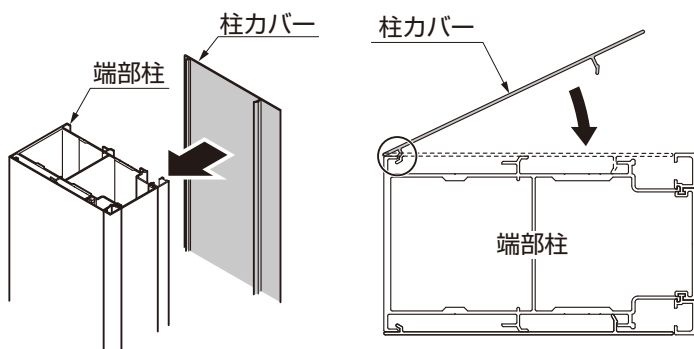
① 笠木を笠木受けに取付けてください。



3. 柱カバーの取付け

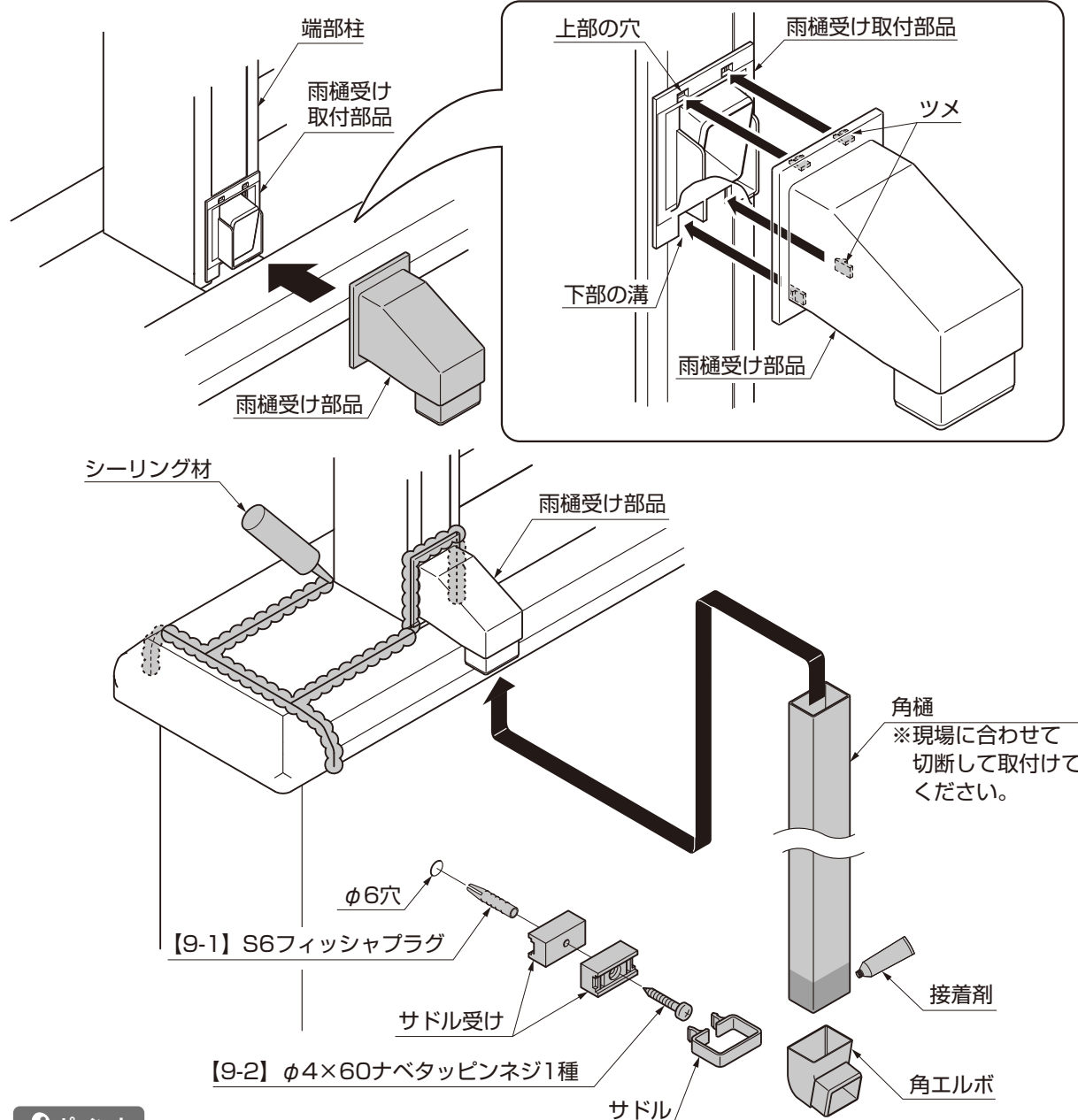
ポイント

【前面スクリーンを取付ける場合】
「E389 前面スクリーン取付説明書」も併せて確認し、取付けてください。



①柱に柱カバーをはめ込んでください。

4. 雨樋受け部品の取付け



ポイント

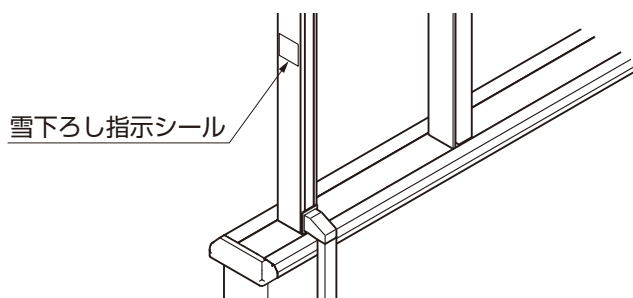
- 「φ4×60ナベタッピンネジ1種」を固定する際は、腰壁の強度を確認してください。
- 清掃時に取外す必要があるため雨樋受け部品の下側は接着しないでください。
- 壁面を仕上げた後に雨樋部品を取付ける場合、仕上げの厚さにより、必要に応じてスペーサーなどを現場手配し、サドル受けと共締めしてください。

- ①雨樋受け部品のツメを雨樋受け取付部品の上部の穴、下部の溝に入れて取付けてください。
- ②腰壁にφ6の下穴をあけてください。
- ③サドル、サドル受けを腰壁に【9-1】【9-2】で取付けてください。
- ④角エルボを角樋に接着剤で取付け、雨樋受け部品に取付けてください。
- ⑤指定の箇所にシーリングをしてください。

ポイント

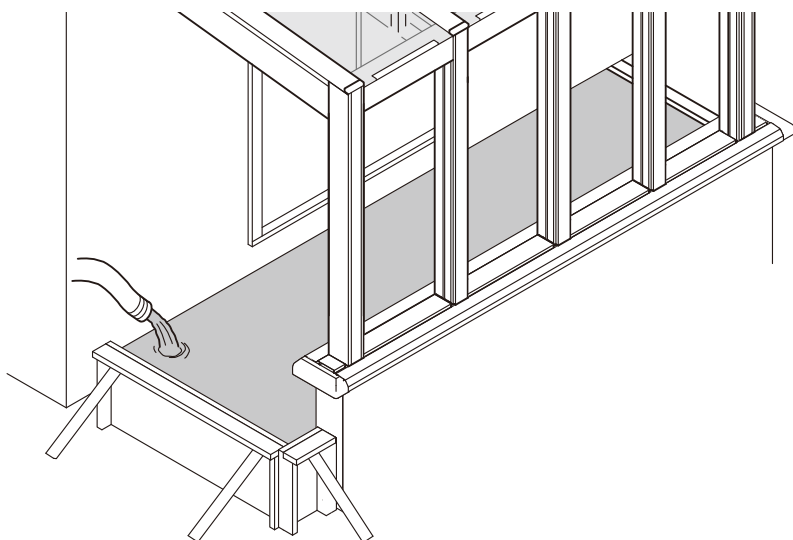
- シーリングを塗布する際はマスキングテープを使用し、平滑になるようヘラなどを使用して仕上げてください。

5. 雪下ろし指示シールの貼付け



- ① 端部柱の側面（目線高さ位置）に雪下ろし指示シールを貼付けてください。

6. コンクリートの流し込み ※土間仕様の場合の作業です。

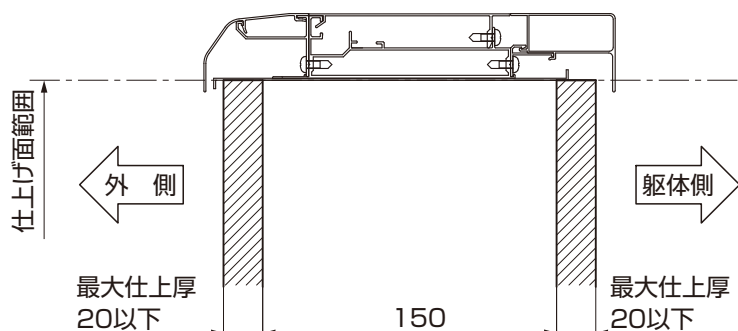


- ① 土間を打設してください。

7. 腰壁ブロックの表面仕上げ ※本体施工完了後でも仕上げ可能です。

14

腰壁部の取付け



ポイント

- 腰壁ブロック自体の防水のため、必ずタイルまたは塗りにて仕上げをしてください。
- 仕上げ面範囲より上に仕上げした場合、腰壁ブロック天面からの排水が阻害され、水が溜まるおそれがありますので、仕上げは範囲内で行なってください。
- 表面仕上げについては「ココマⅡ 湿式腰壁ブロック施工のポイント〈E421〉」も併せて参照ください。

【カウンターテーブルを取付ける場合】

「E378 カウンターテーブル取付説明書」も併せて確認し、取付けてください。

取説コード

E417

JZZ630751C
201507A_1039
202007D_1049